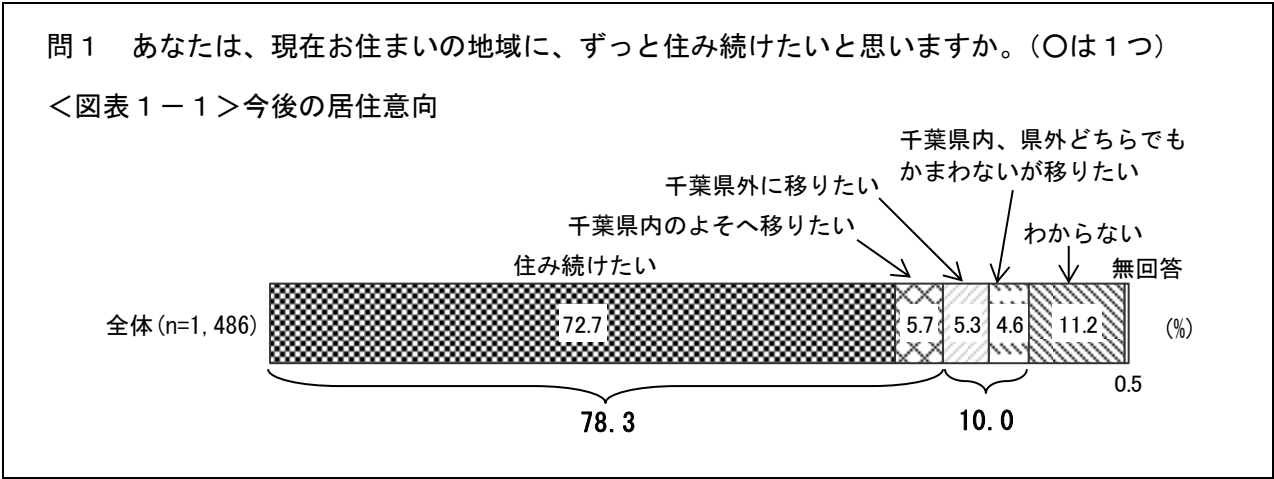


# 調査の結果 調査結果の解説

## 1 環境と生活について

### (1) 今後の居住意向

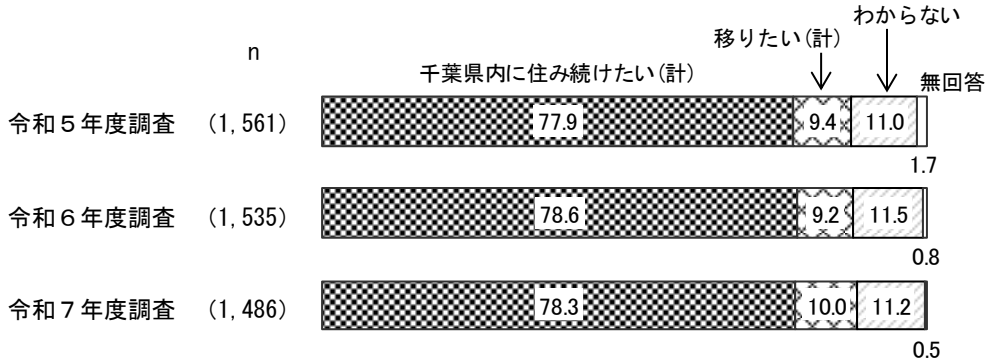
◇『千葉県内に住み続けたい（計）』が約8割



現在お住まいの地域の今後の居住意向を聞いたところ、「住み続けたい」(72.7%)が7割を超え、これと「千葉県内のよそへ移りたい」(5.7%)を合わせた『千葉県内に住み続けたい(計)』(78.3%)が約8割となっている。

一方、「千葉県外に移りたい」(5.3%)と「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」(4.6%)を合わせた『移りたい(計)』(10.0%)が1割となっている。(図表1－1)

〔参考〕令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



#### 【地域別】

地域別にみると、『千葉県内に住み続けたい(計)』は“印旛地域”(84.3%)が8割台半ばで高くなっている。(図表1－2)

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『千葉県内に住み続けたい(計)』は男性の75歳以上(90.2%)が9割、女性の75歳以上(89.5%)と男性の70～74歳(88.2%)が約9割で高くなっている。

一方、『移りたい(計)』は男性の20代(20.0%)が2割、女性の30代(19.0%)と女性の20代(18.4%)が約2割で高くなっている。(図表1－2)



## （１－１）住み続けたい理由

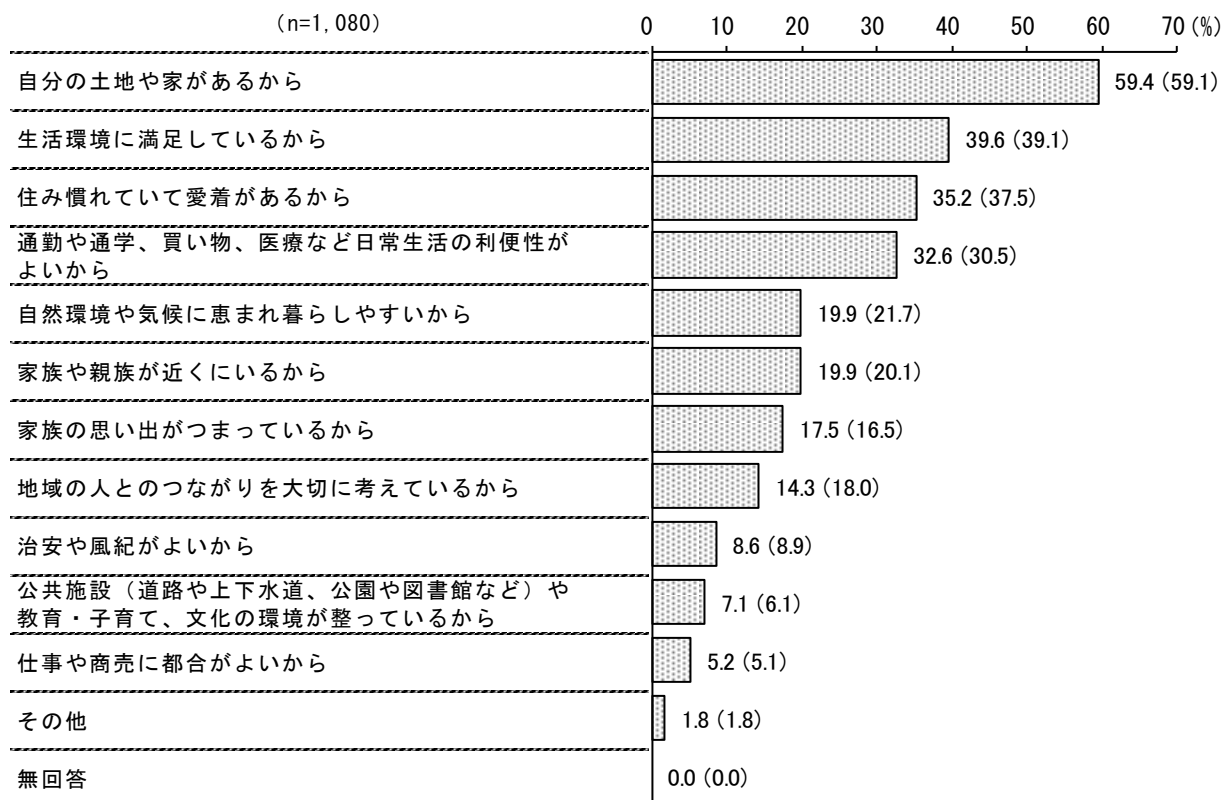
◇「自分の土地や家があるから」が約６割

（問１で「住み続けたい」とお答えの方に）

問１－１ あなたが現在お住まいの地域に、ずっと住み続けたいと思う理由は何ですか。

（○は３つまで）

＜図表１－３＞住み続けたい理由（３つまでの複数回答）



注）（ ）の数字は令和６年度の同様の項目による調査結果 n=1,122

「住み続けたい」と回答した1,080人を対象に、住み続けたい理由を聞いたところ、「自分の土地や家があるから」(59.4%) が約６割で最も高く、以下、「生活環境に満足しているから」(39.6%)、「住み慣れていて愛着があるから」(35.2%)、「通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性がよいから」(32.6%) が続く。(図表１－３)

### 【地域別】

地域別にみると、「住み慣れていて愛着があるから」は“千葉地域”(41.8%) が４割を超えて高くなっている。「通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性がよいから」は“葛南地域”(44.9%) が４割台半ばで高くなっている。(図表１－４)

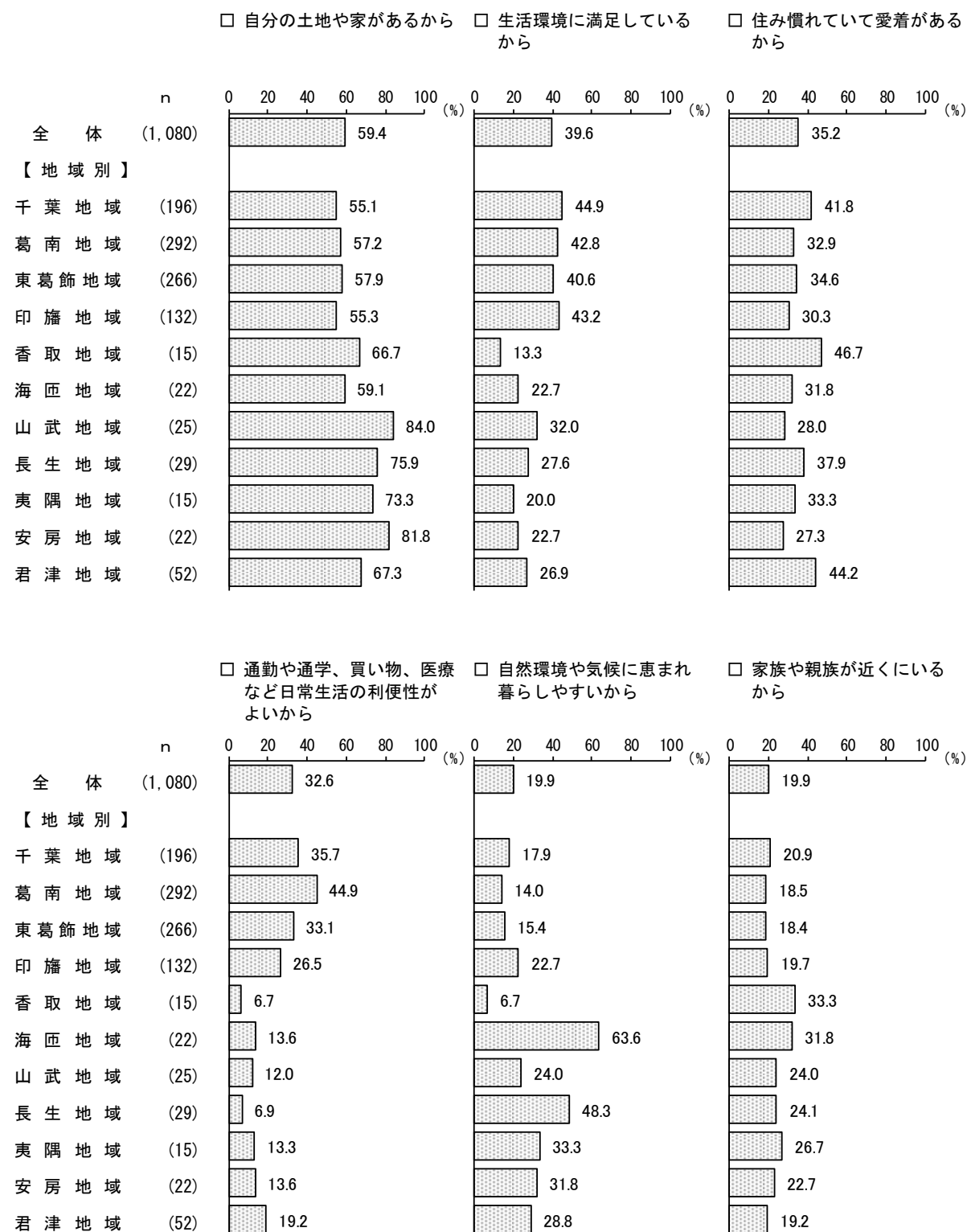
### 【性・年代別】

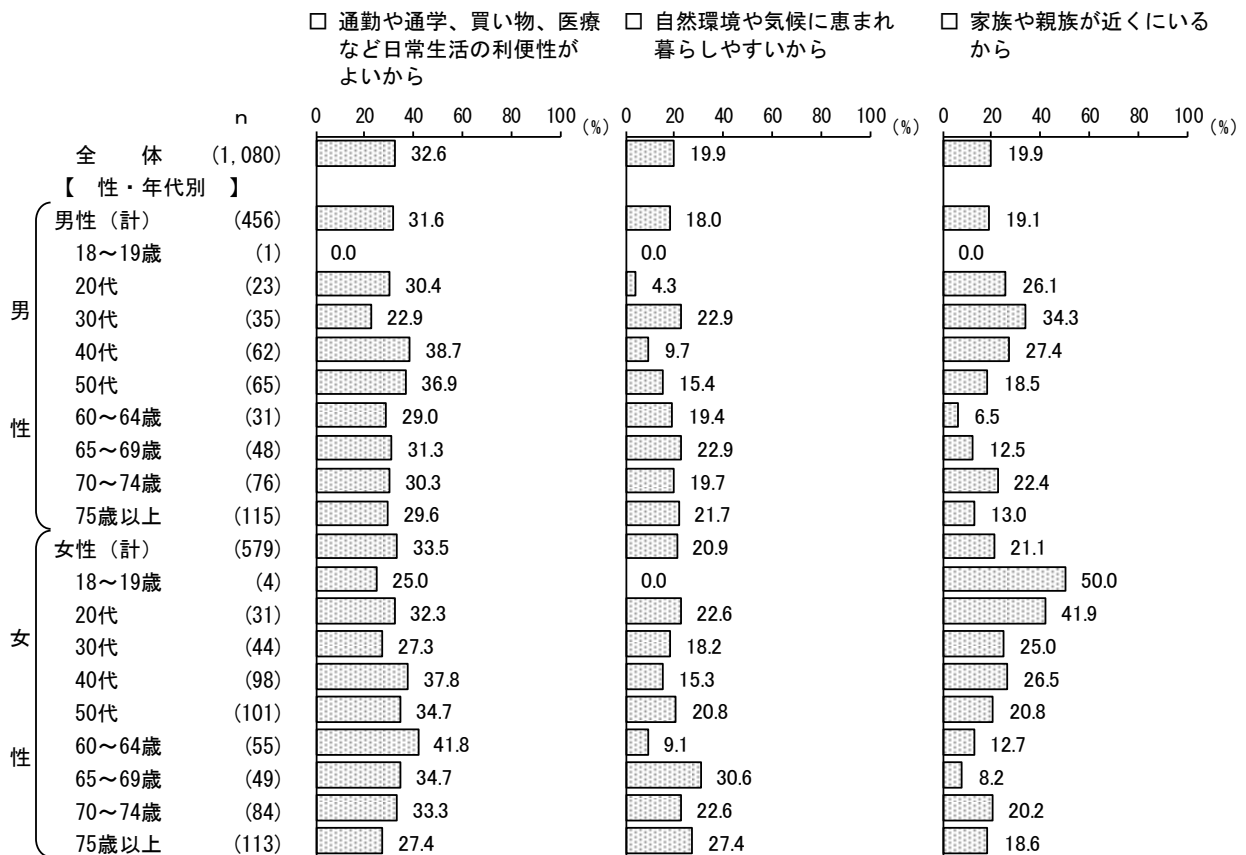
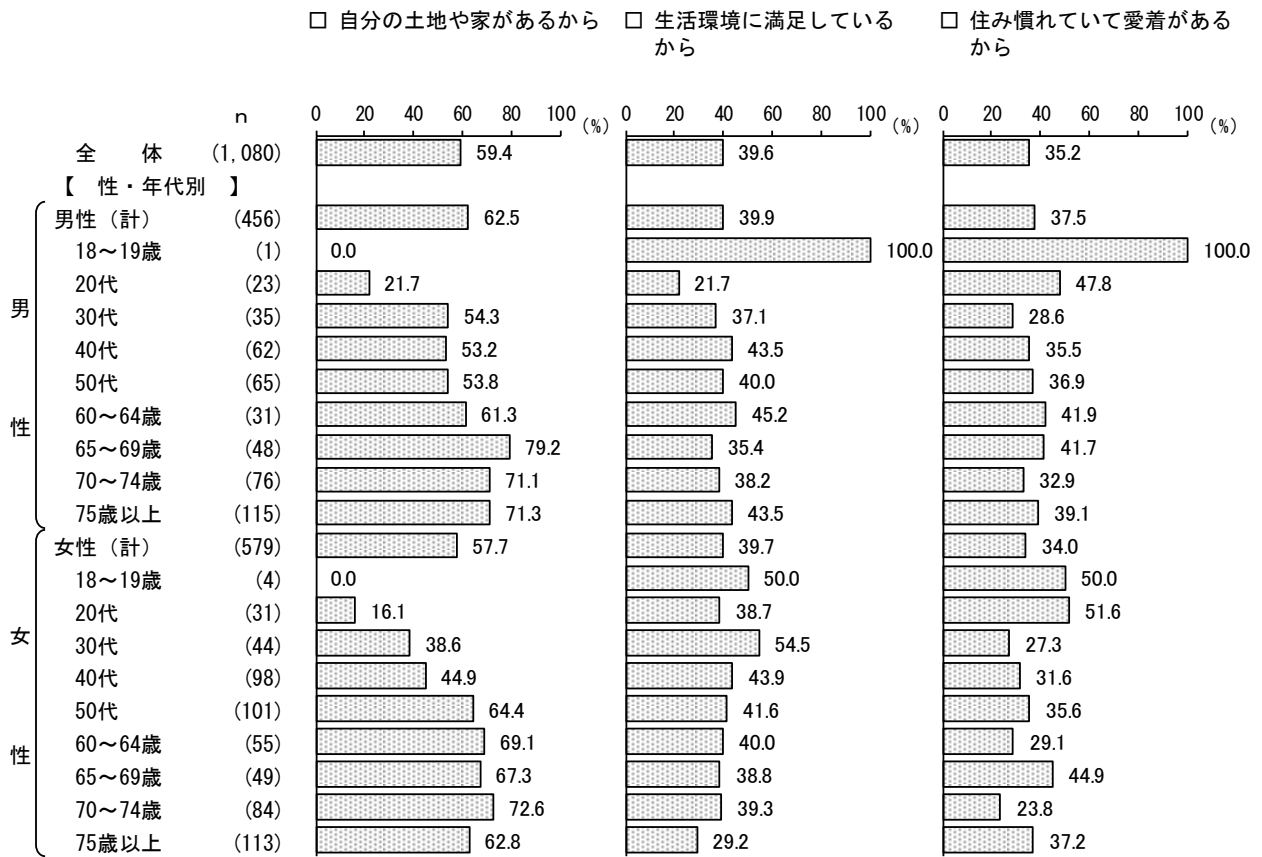
性・年代別にみると、「自分の土地や家があるから」は男性の65～69歳(79.2%) が約８割、女性の70～74歳(72.6%)、男性の75歳以上(71.3%)、女性の70～74歳(71.1%) が７割を超えて高くなっている。

「生活環境に満足しているから」は女性の30代（54.5%）が5割台半ばで高くなっている。

（図表 1－4）

<図表 1－4>住み続けたい理由（3つまでの複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）





## （１－２）移りたい理由

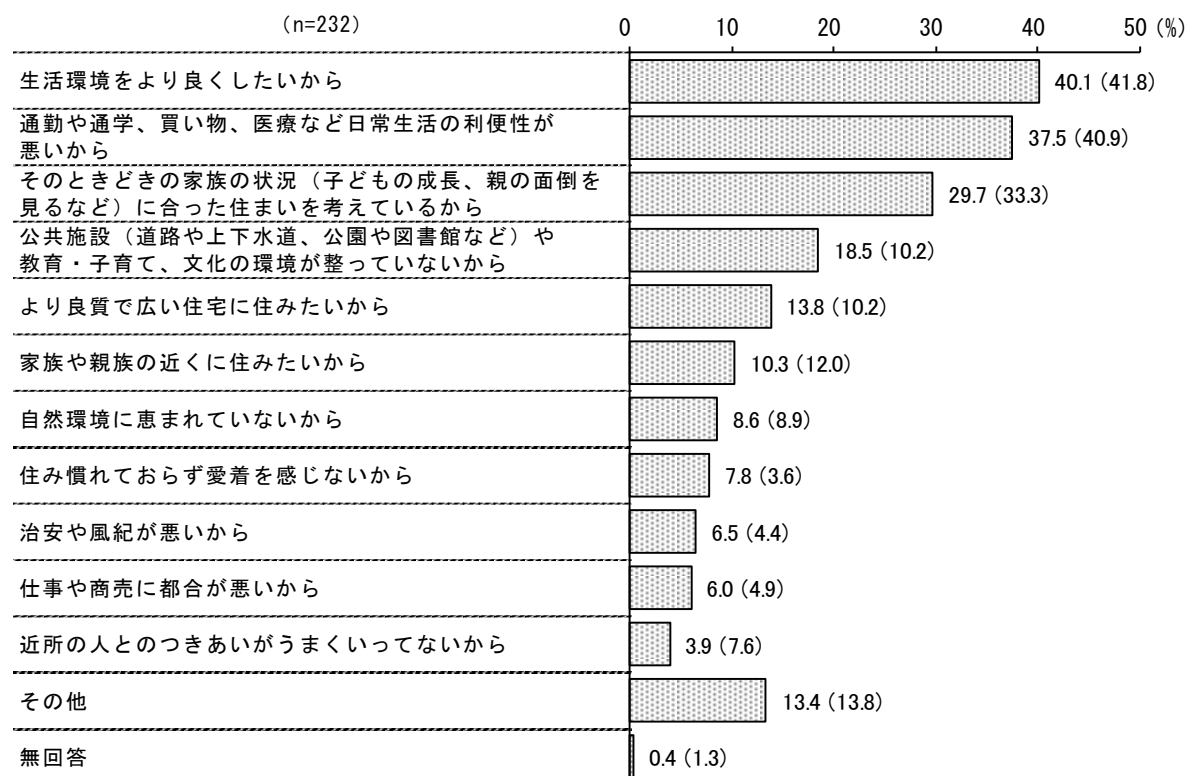
◇「生活環境をより良くしたいから」が４割

（問１で「千葉県内のよそへ移りたい」「千葉県外に移りたい」「千葉県内、県外どちらでもかまわないうちに移りたい」のいずれかをお答えの方に）

問１－２ あなたが現在お住まいの地域から移りたいと思う理由は何ですか。

（○は３つまで）

＜図表１－５＞移りたい理由（３つまでの複数回答）



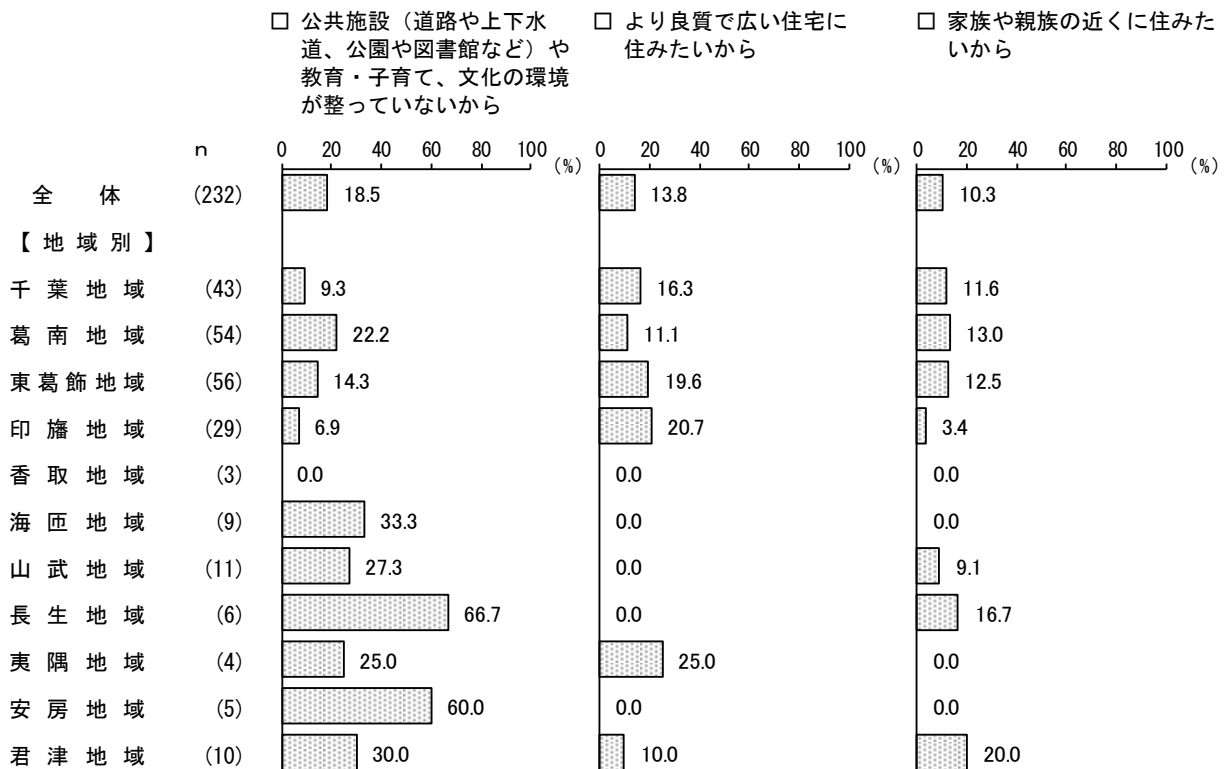
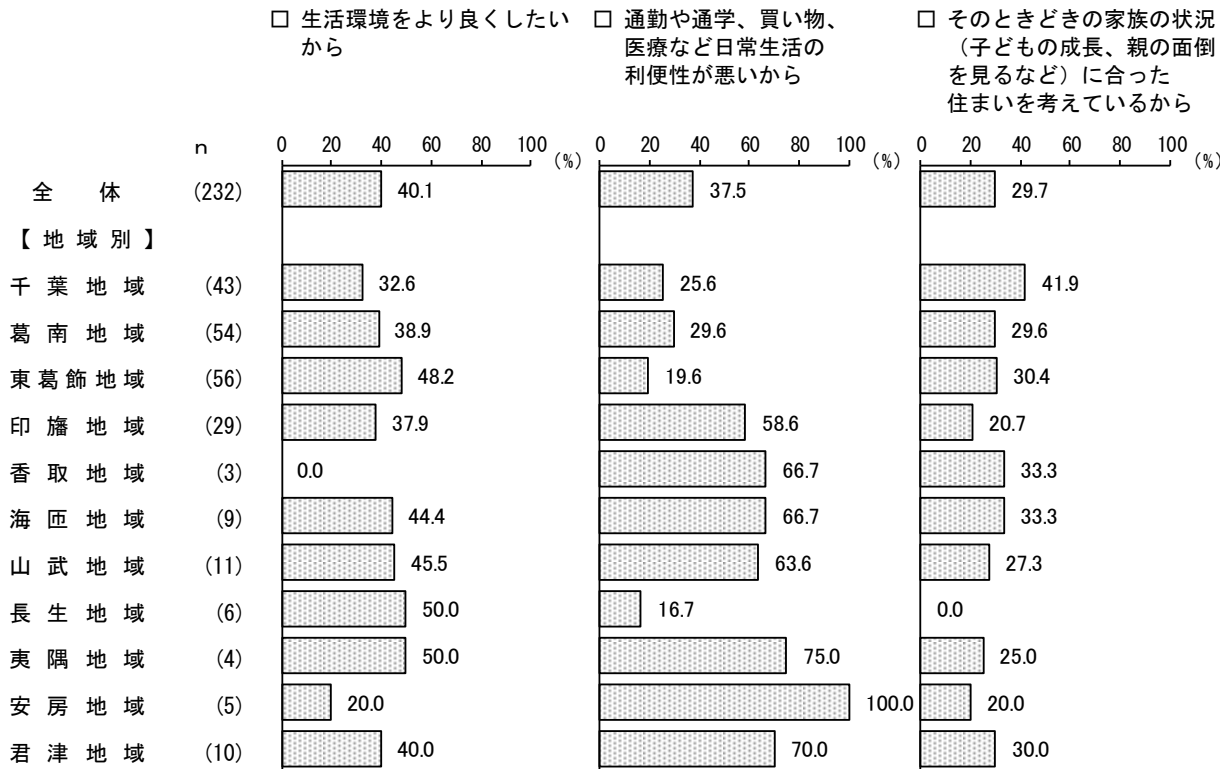
注）（ ）の数字は令和 6 年度の同様の項目による調査結果 n = 225

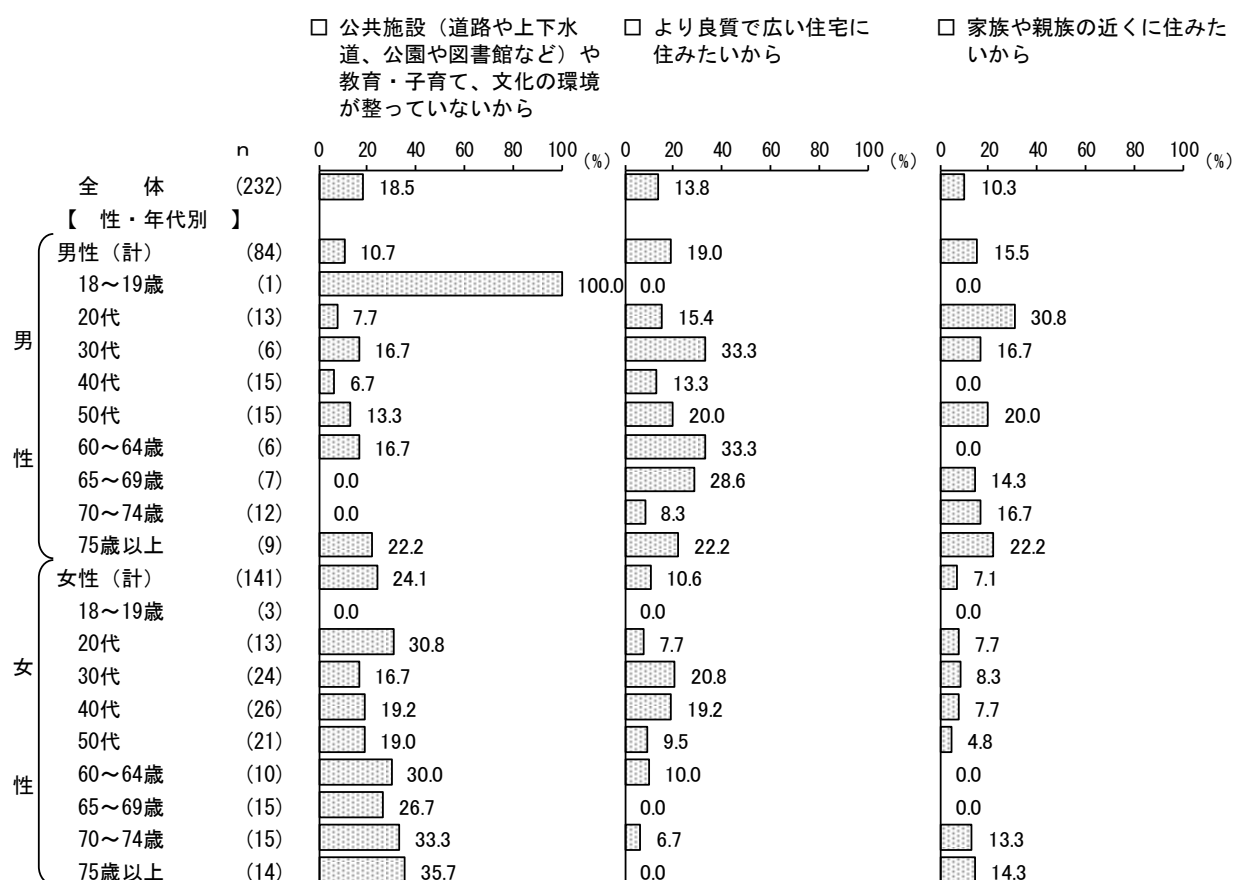
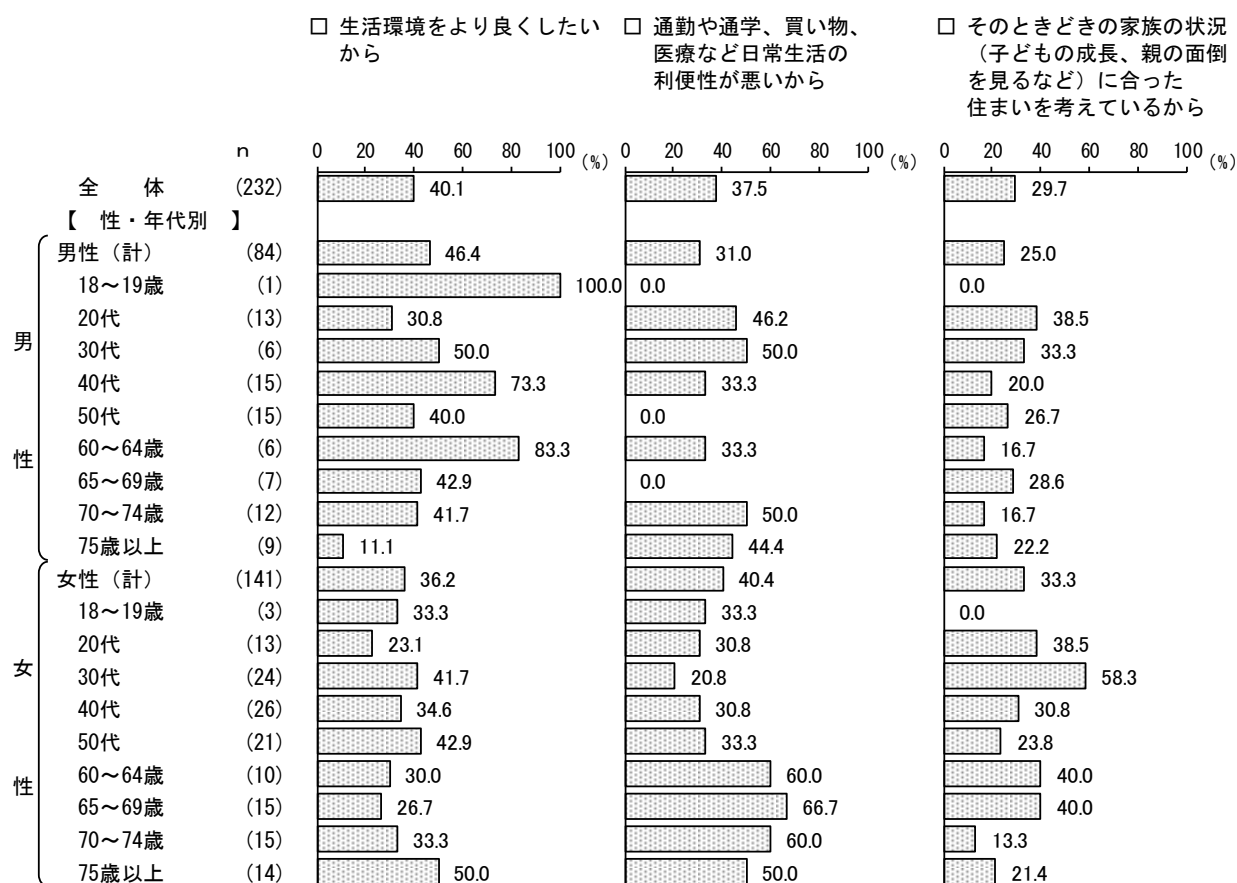
「移りたい」と回答した232人を対象に、移りたい理由を聞いたところ、「生活環境をより良くしたいから」（40.1%）が４割で最も高く、以下、「通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性が悪いから」（37.5%）、「そのときどきの家族の状況（子どもの成長、親の面倒を見るなど）に合った住まいを考えているから」（29.7%）、「公共施設（道路や上下水道、公園や図書館など）や教育・子育て、文化の環境が整っていないから」（18.5%）が続く。（図表１－５）

※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

（８ページ「報告書の見方（５）」を参照）（図表１－６）

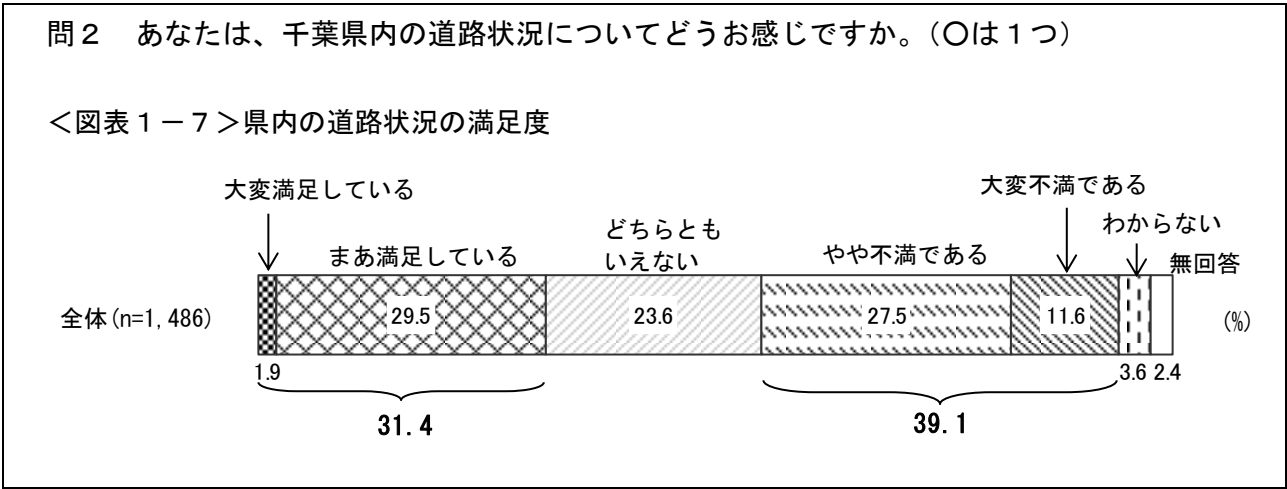
[参考]＜図表 1－6＞移りたい理由（3つまでの複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）





（２）県内の道路状況の満足度

◇『満足している（計）』が３割を超える



県内の道路状況の満足度を聞いたところ、「大変満足している」（1.9％）と「まあ満足している」（29.5％）を合わせた『満足している（計）』（31.4％）が３割を超えている。

一方、「やや不満である」（27.5％）と「大変不満である」（11.6％）を合わせた『不満である（計）』（39.1％）は約４割となっている。（図表１－７）

〔参考〕令和５年度・６年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

	n	満足している（計）	不満である（計）	無回答または どちらともいえない またはわからない
令和５年度調査	（1,561）	30.7	39.8	29.5
令和６年度調査	（1,535）	31.7	39.3	29.1
令和７年度調査	（1,486）	31.4	39.1	29.5

【地域別】

地域別にみると、『満足している（計）』は“印旛地域”（38.8％）が約４割で高くなっている。

一方『不満である（計）』は“葛南地域”（46.3％）が４割台半ばで高くなっている。

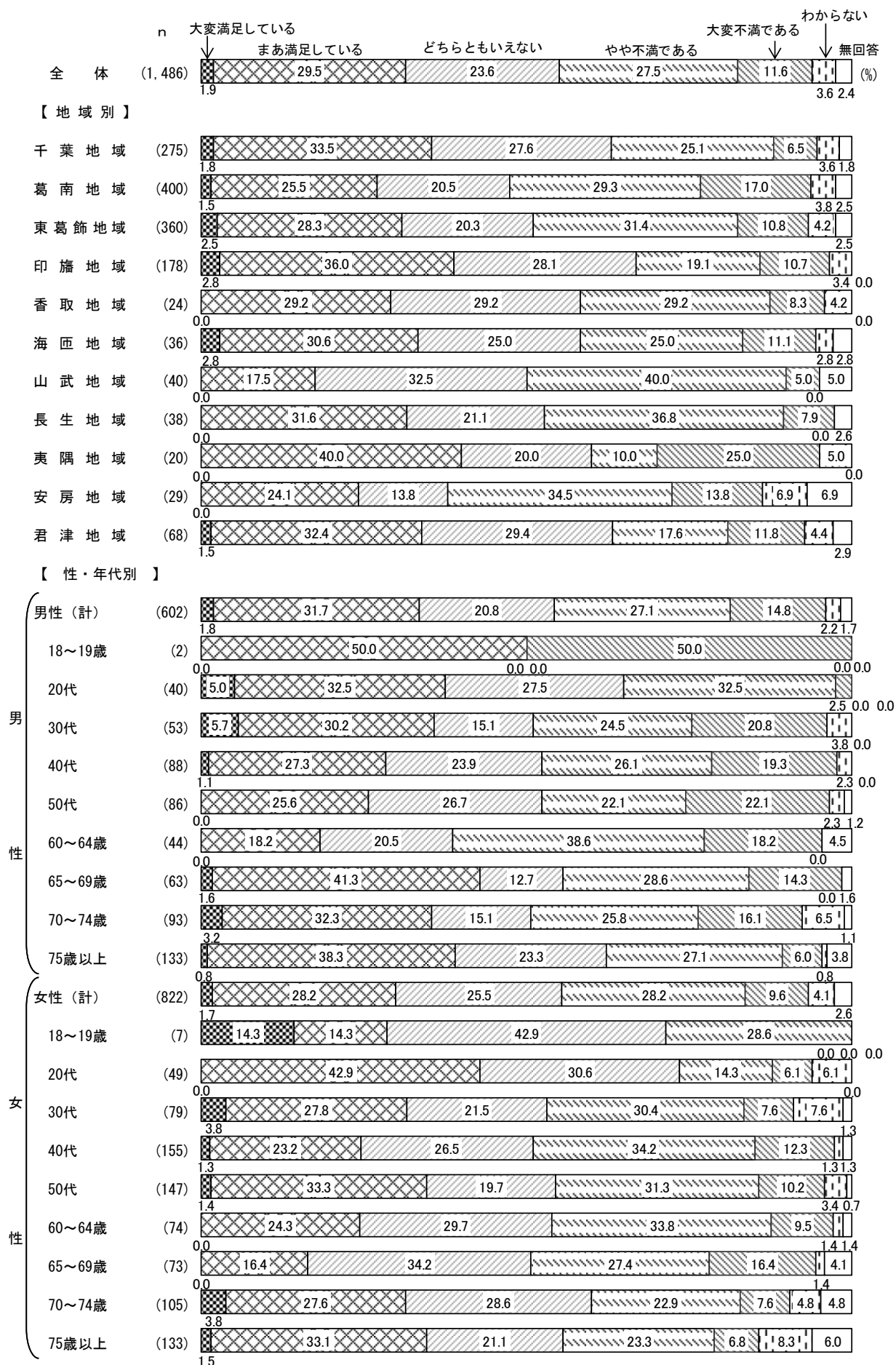
（図表１－８）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『満足している（計）』は男性の65～69歳（42.9％）が４割を超え、男性の75歳以上（39.1％）が約４割で高くなっている。

一方、『不満である（計）』は男性の60～64歳（56.8％）が５割台半ば、女性の40代（46.5％）が４割台半ばで高くなっている。（図表１－８）

＜図表 1－8＞県内の道路状況の満足度／地域別、性・年代別

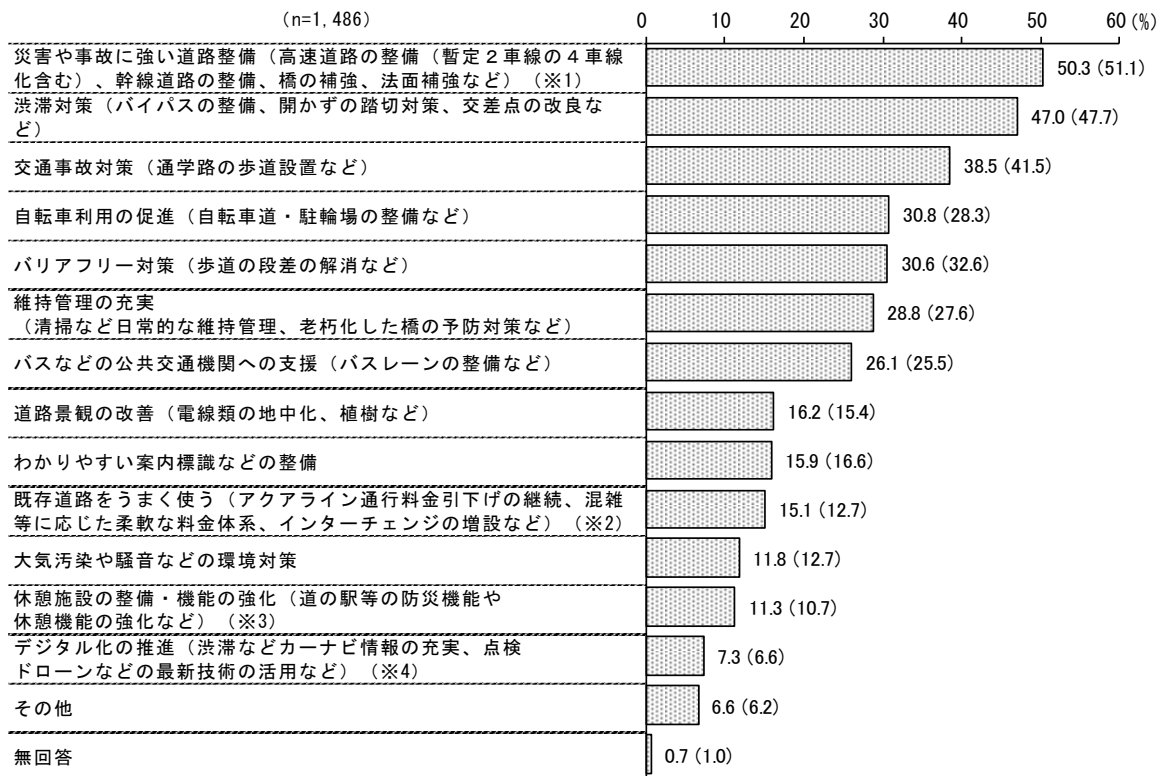


### （３）今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題

◇「災害や事故に強い道路整備（高速道路の整備（暫定２車線の４車線化含む）、幹線道路の整備、橋の補強、法面補強など）」が５割

問３ あなたは、今後、道路整備をしていく上で、優先的に対策すべき課題は何だと思いますか。（○はいくつでも）

＜図表１－９＞今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題（複数回答）



注）（ ）の数字は令和６年度の同様の項目による調査結果 n=1,535

（※１）令和６年度調査では「災害に強い道路整備（高速道路の整備、幹線道路の整備、橋の補強など）」

（※２）令和６年度調査では「既存道路の有効活用（アクアラインの通行料金の引下げの継続、インターチェンジの増設など）」

（※３）令和６年度調査では「休憩施設の整備（道の駅等）」

（※４）令和６年度調査では「カーナビ情報の充実（地図情報、渋滞情報の充実など）」

今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題を聞いたところ、「災害や事故に強い道路整備（高速道路の整備（暫定２車線の４車線化含む）、幹線道路の整備、橋の補強、法面補強など）」（50.3%）が５割で最も高く、以下、「渋滞対策（バイパスの整備、開かずの踏切対策、交差点の改良など）」（47.0%）、「交通事故対策（通学路の歩道設置など）」（38.5%）、「自転車利用の促進（自転車道・駐輪場の整備など）」（30.8%）が続く。（図表１－９）

#### 【地域別】

地域別にみると、「災害や事故に強い道路整備（高速道路の整備（暫定２車線の４車線化含む）、幹線道路の整備、橋の補強、法面補強など）」は「君津地域」（63.2%）が６割を超えて高くなっている。

「渋滞対策（バイパスの整備、開かずの踏切対策、交差点の改良など）」は「葛南地域」（56.8%）

が 5 割台半ばで高くなっている。「自転車利用の促進（自転車道・駐輪場の整備など）」は“葛南地域”（37.0%）が約 4 割、“東葛飾地域”（36.4%）が 3 割台半ばで高くなっている。（図表 1－10）

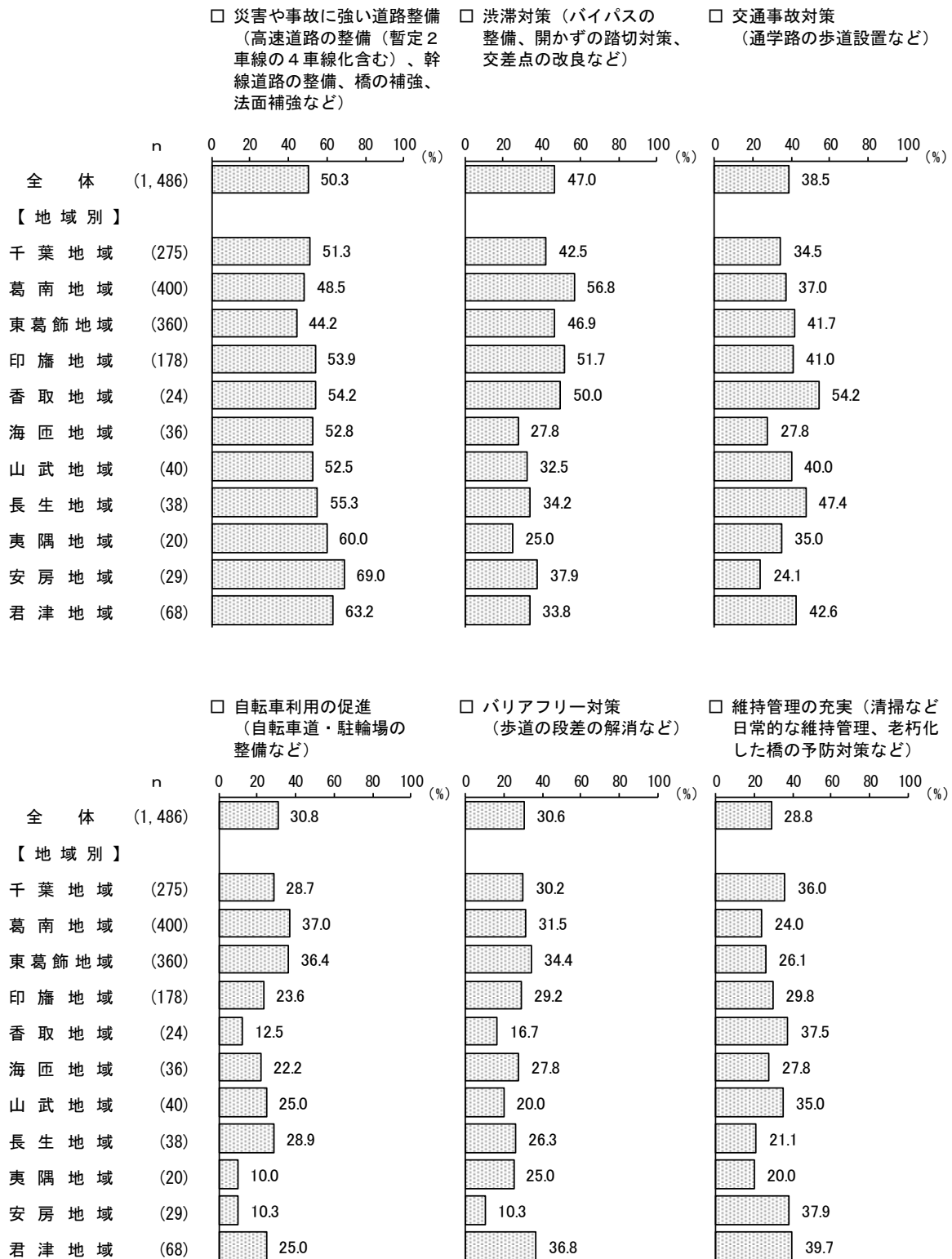
**【性・年代別】**

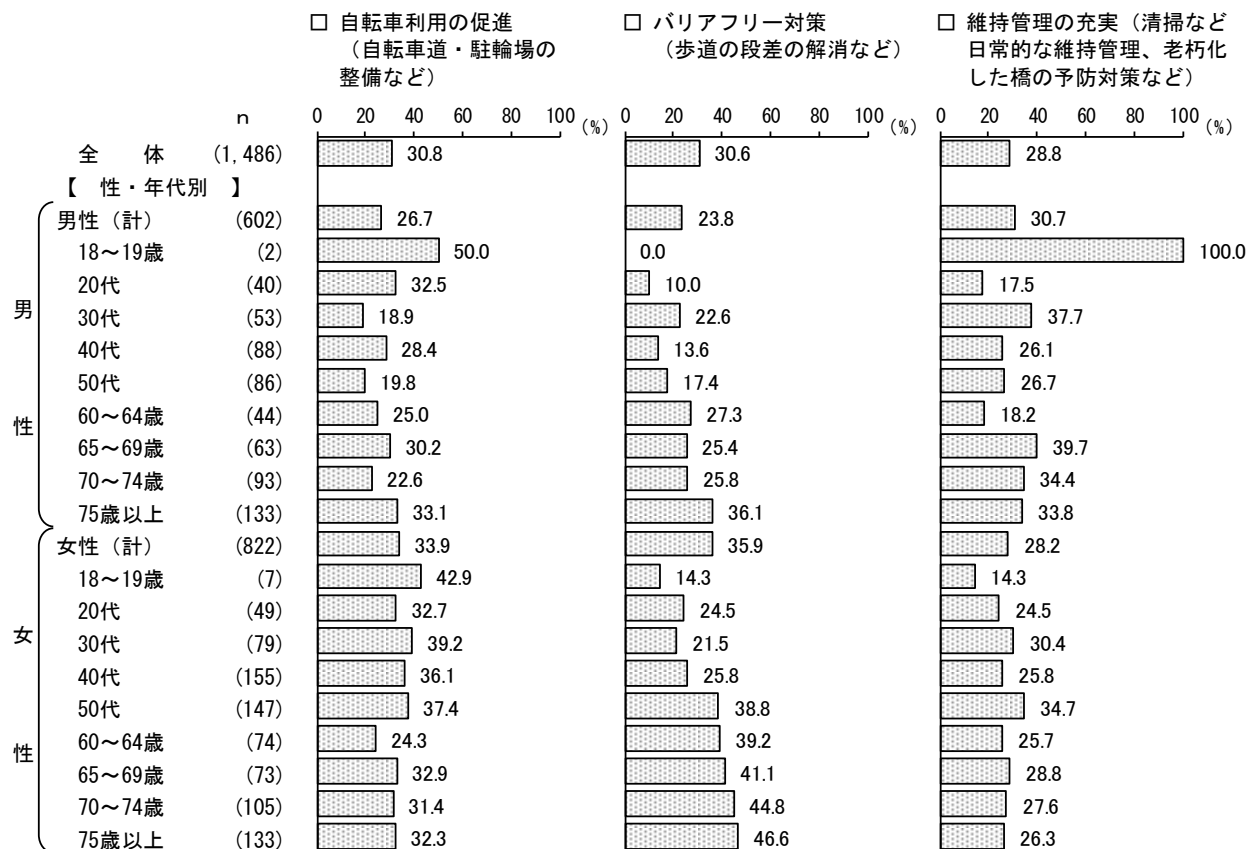
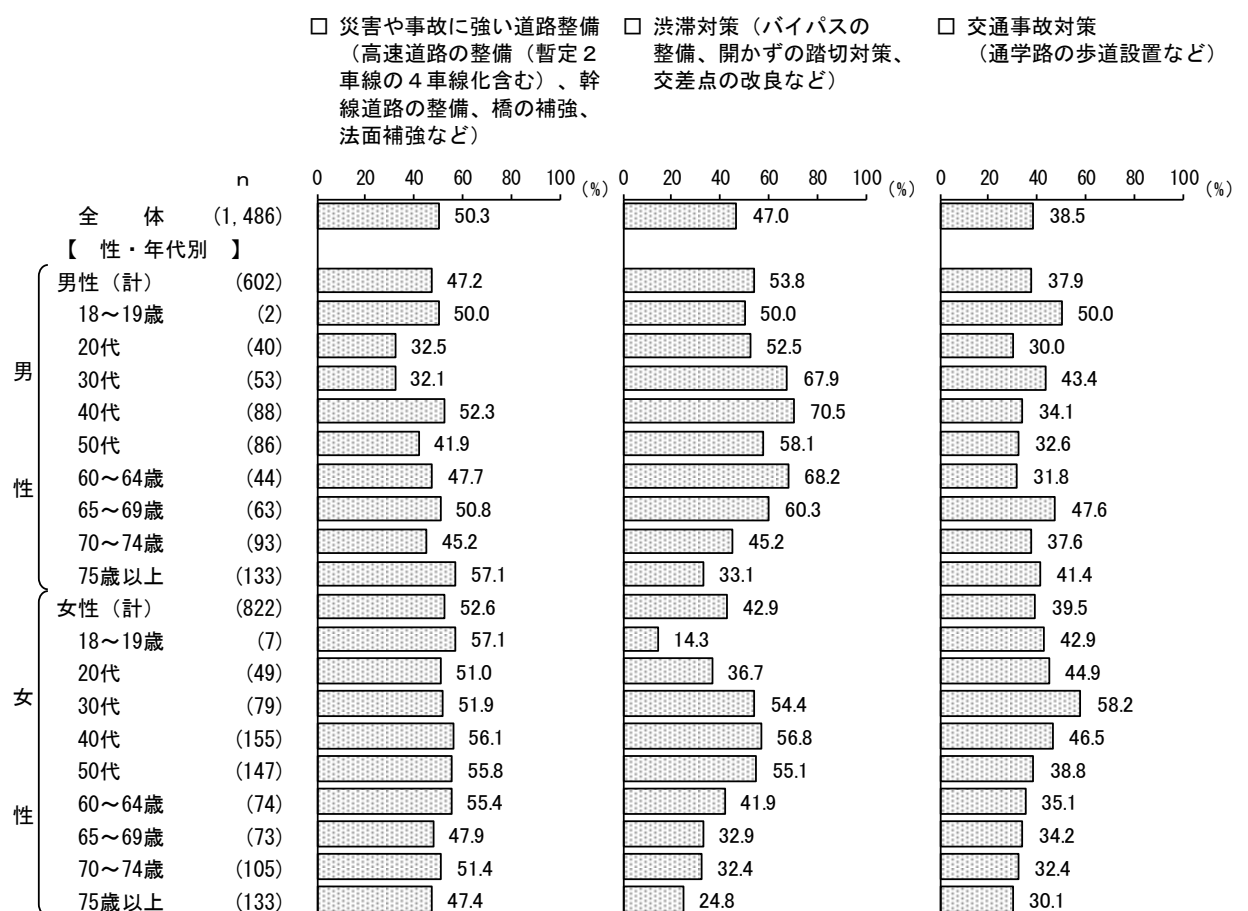
性・年代別にみると、「渋滞対策（バイパスの整備、開かずの踏切対策、交差点の改良など）」は男性の 40 代（70.5%）が 7 割、男性の 60～64 歳（68.2%）と男性の 30 代（67.9%）が約 7 割、男性の 65～69 歳（60.3%）が 6 割、男性の 50 代（58.1%）が約 6 割、女性の 40 代（56.8%）と女性の 50 代（55.1%）が 5 割台半ばで高くなっている。「交通事故対策（通学路の歩道設置など）」は女性の 30 代（58.2%）が約 6 割、女性の 40 代（46.5%）が 4 割台半ばで高くなっている。

（図表 1－10）

＜図表 1－10＞今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位 6 項目）



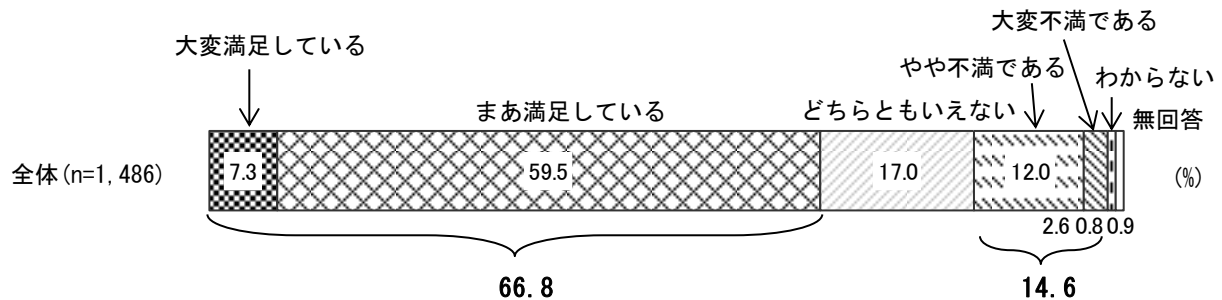


#### （４）住生活全般の満足度

◇『満足している（計）』が６割台半ば

問４ 現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）についてどう感じですか。（○は１つ）

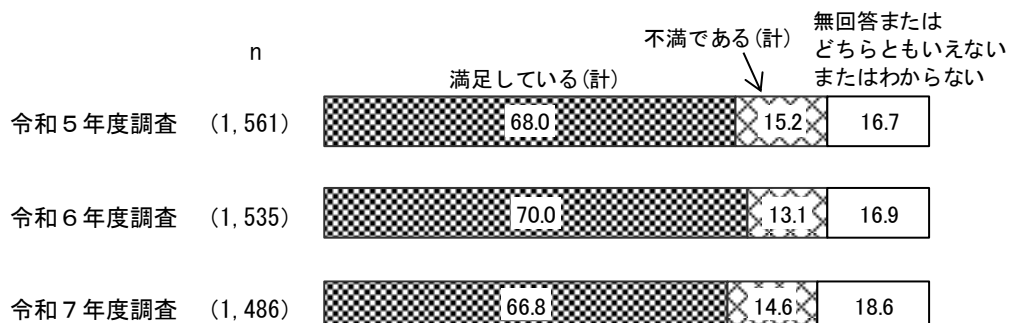
＜図表１－11＞住生活全般の満足度



現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」（7.3%）と「まあ満足している」（59.5%）を合わせた『満足している（計）』（66.8%）が６割台半ばとなっている。

一方、「やや不満である」（12.0%）と「大変不満である」（2.6%）を合わせた『不満である（計）』（14.6%）が１割台半ばとなっている。（図表１－11）

〔参考〕令和５年度・６年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



##### 【地域別】

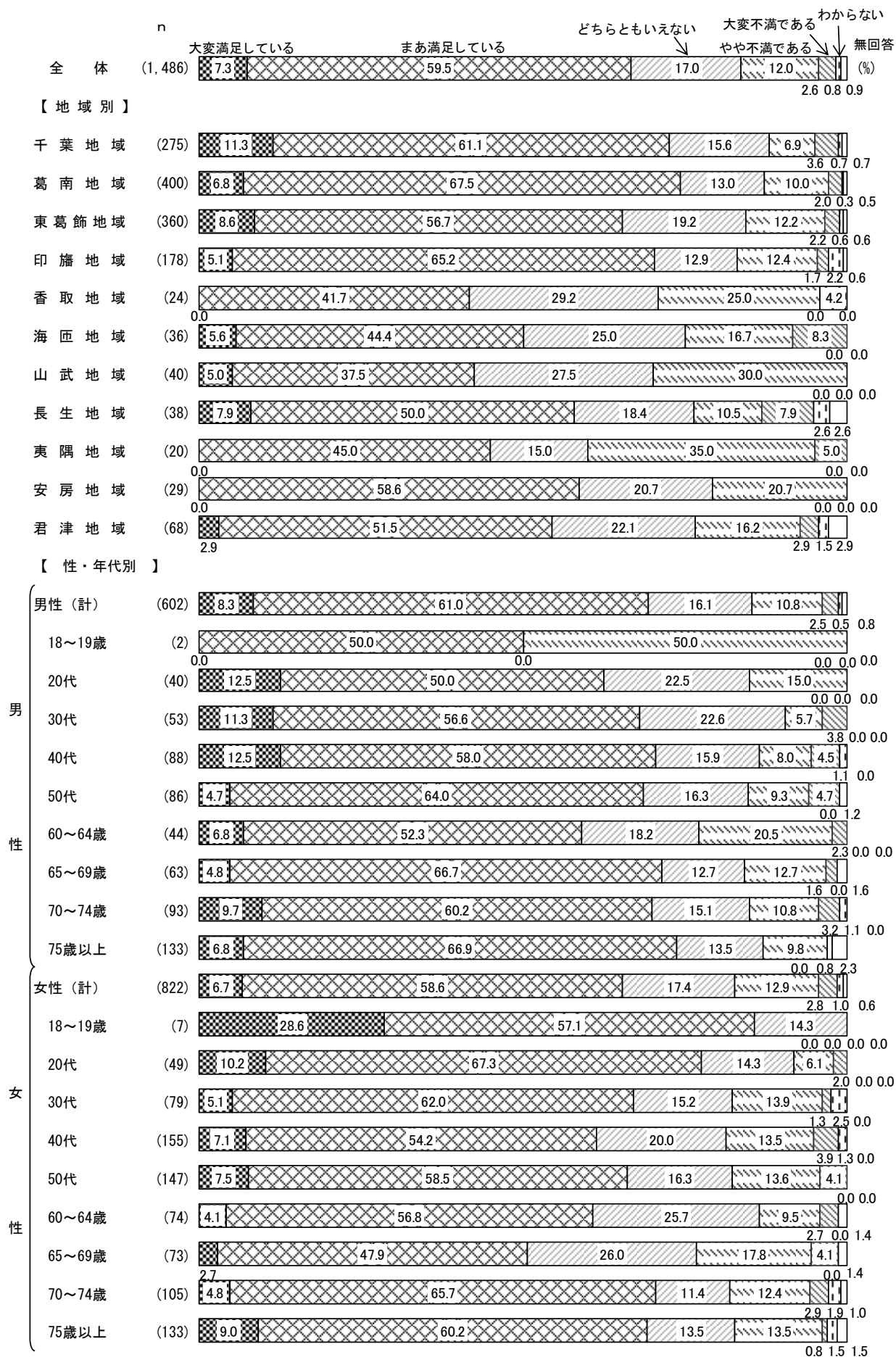
地域別にみると、『満足している（計）』は“葛南地域”（74.3%）が７割台半ば、“千葉地域”（72.4%）が７割を超えて高くなっている。

一方、『不満である（計）』は“山武地域”（30.0%）が３割で高くなっている。（図表１－12）

##### 【性・年代別】

性・年代別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表１－12）

<図表 1-12>住生活全般の満足度／地域別、性・年代別

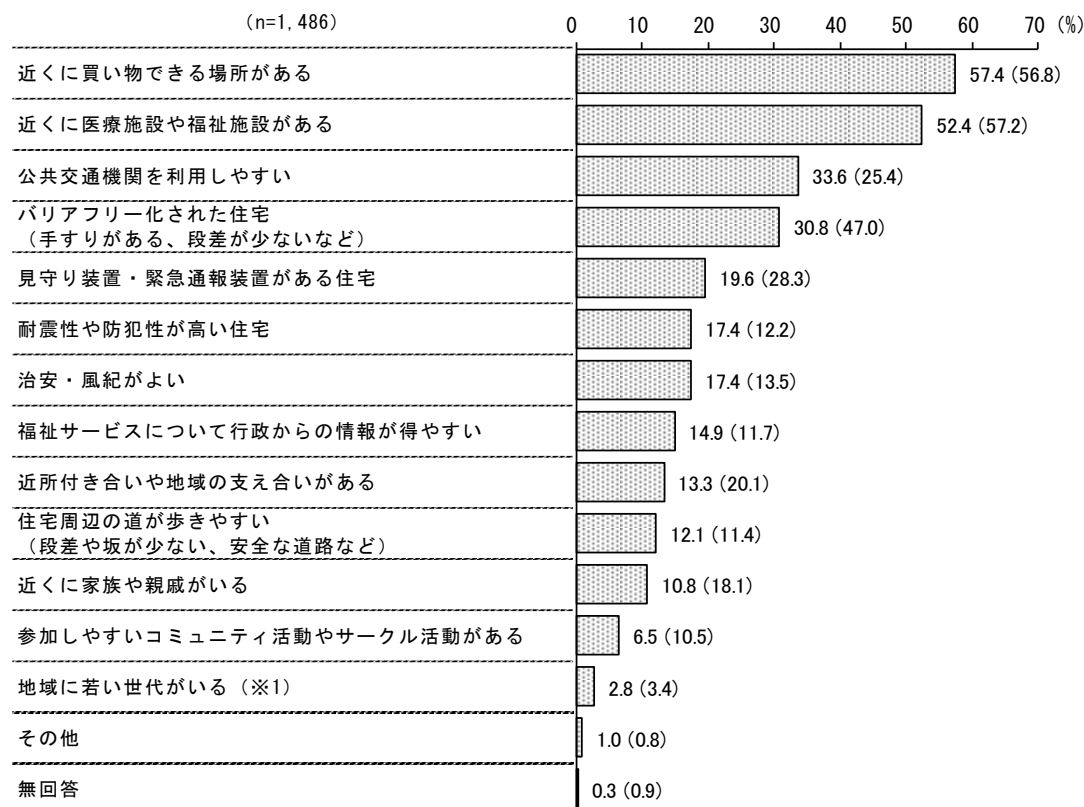


## （５）高齢期の住まいで重要なこと

◇「近くに買い物できる場所がある」が約６割

問５ 高齢期における住まいで重要なことは何だと思いますか。（○は３つまで）

<図表１－13> 高齢期の住まいで重要なこと（３つまでの複数回答）



注）（ ）の数字は令和２年度の同様の項目による調査結果 n=1,529

（※1）令和２年度調査では「地域に若い世代もいる」

高齢期の住まいで重要なことについて聞いたところ、「近くに買い物できる場所がある」（57.4%）が約６割で最も高く、以下、「近くに医療施設や福祉施設がある」（52.4%）、「公共交通機関を利用しやすい」（33.6%）、「バリアフリー化された住宅（手すりがある、段差が少ないなど）」（30.8%）が続く。（図表１－13）

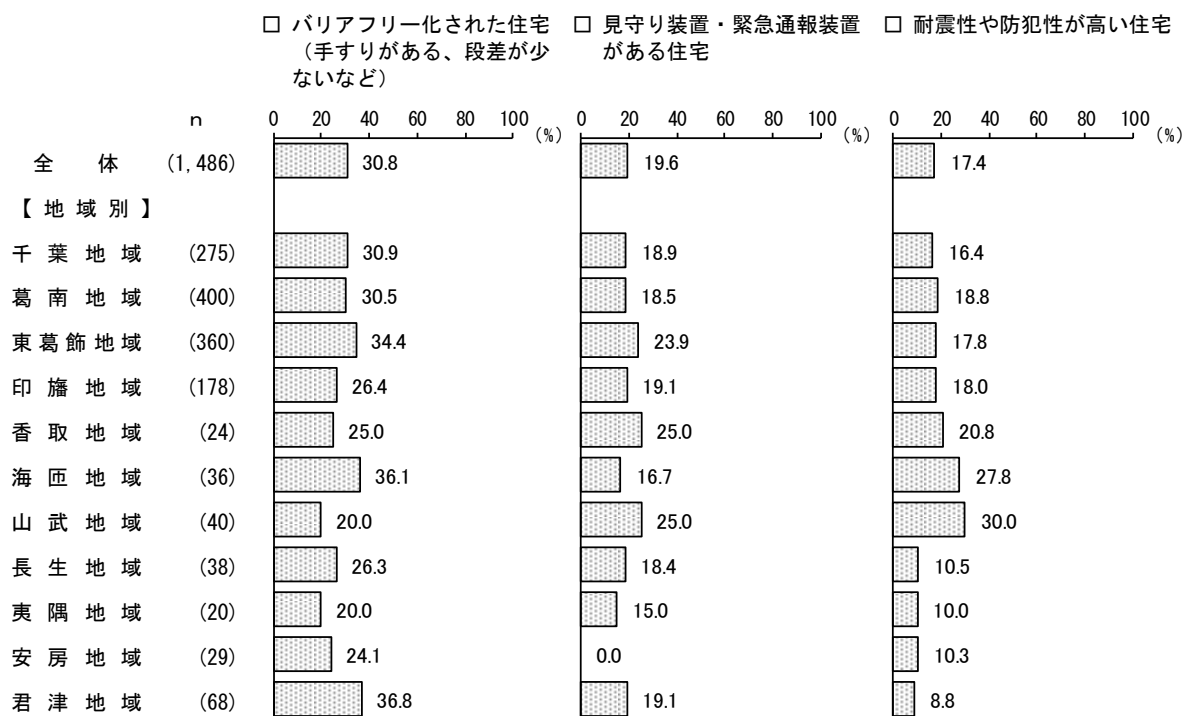
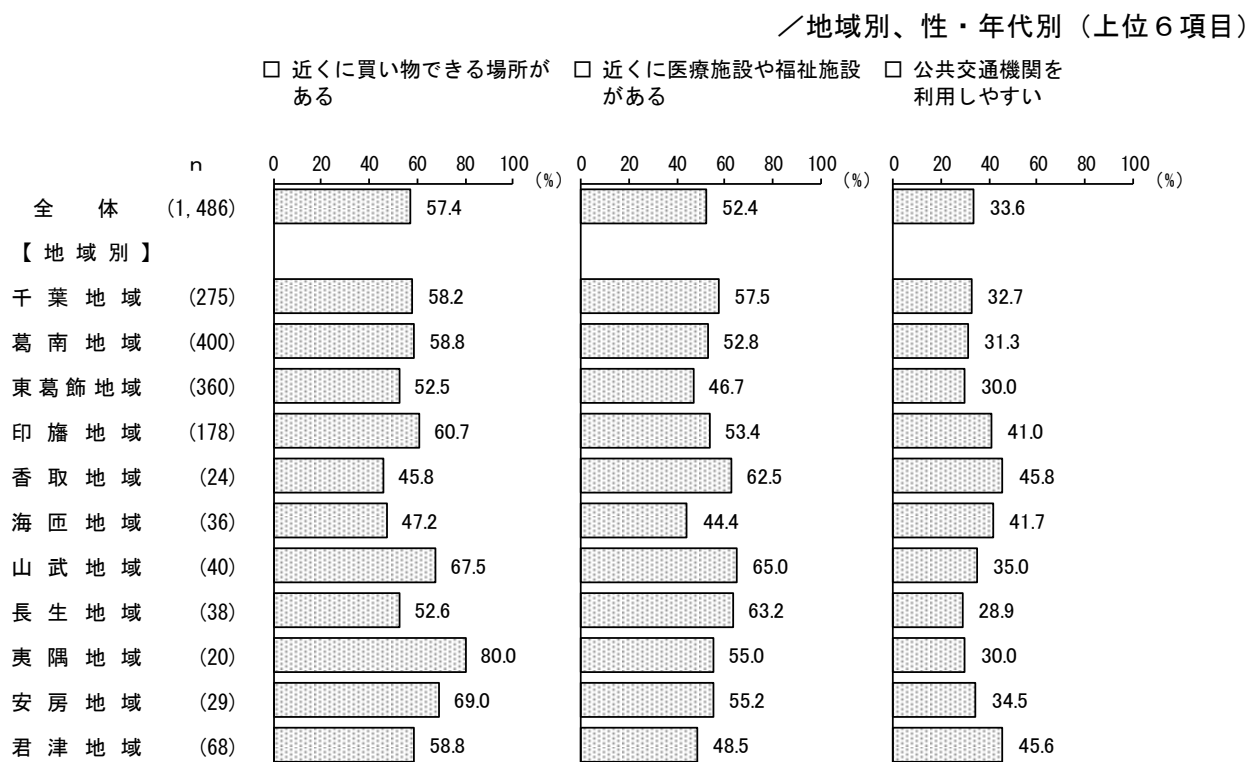
### 【地域別】

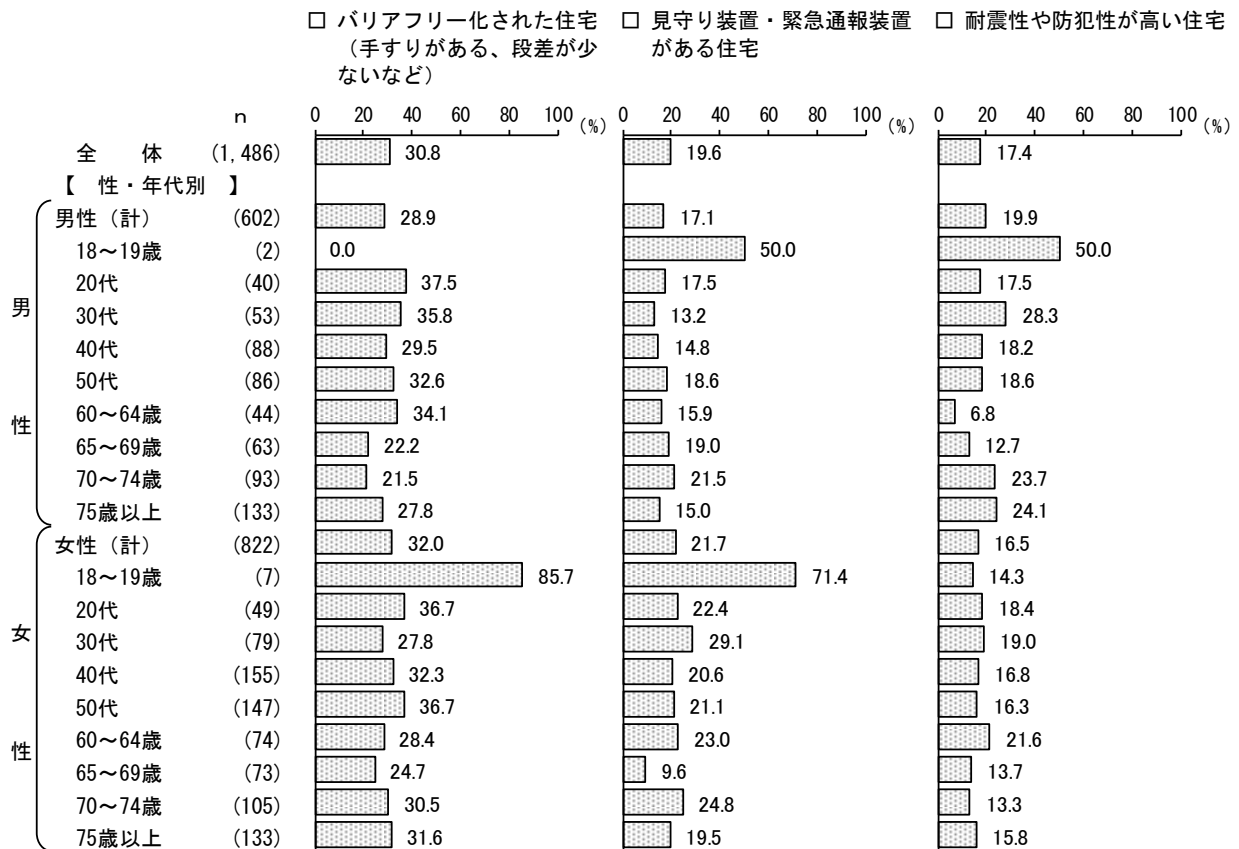
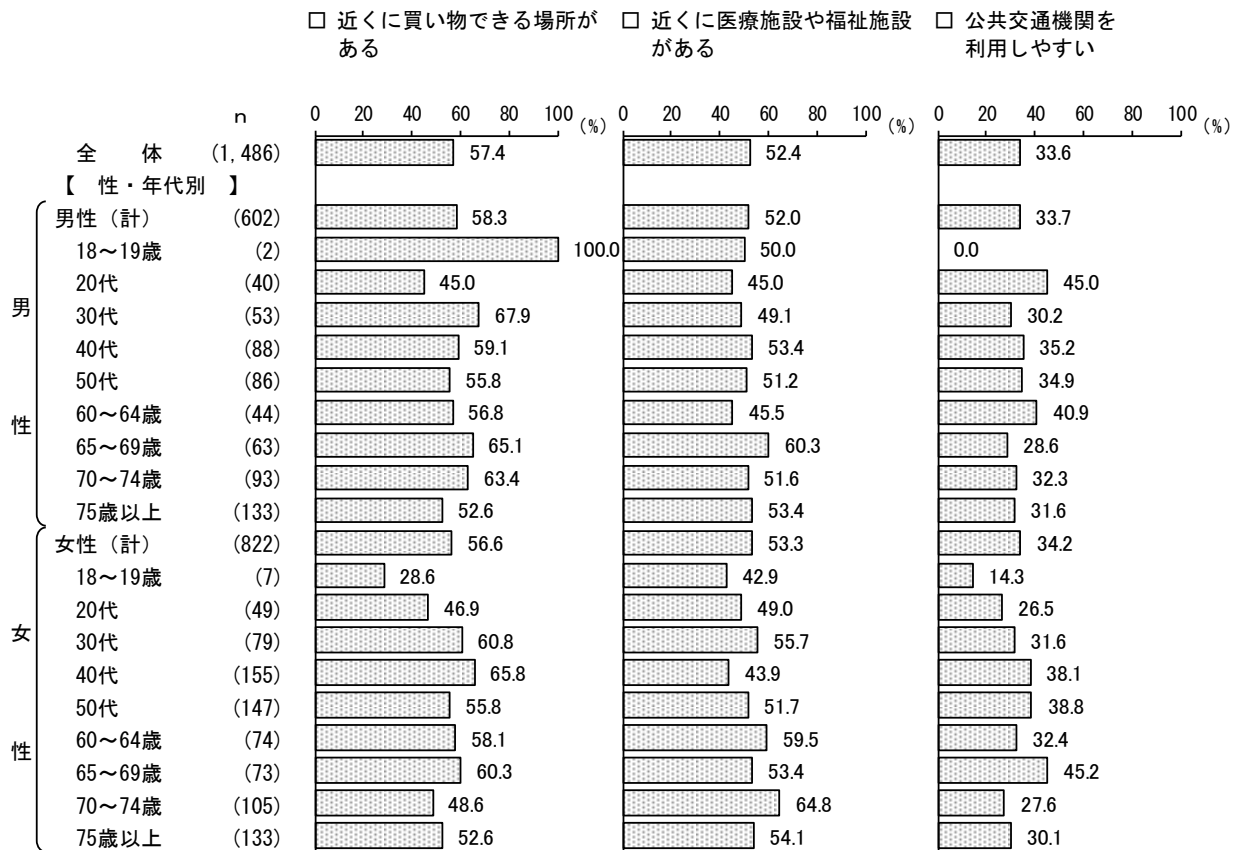
地域別にみると、「公共交通機関を利用しやすい」は“君津地域”（45.6%）が４割台半ば、“印旛地域”（41.0%）が４割を超えて高くなっている。（図表１－14）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「近くに買い物できる場所がある」は女性の40代（65.8%）が６割台半ばで高くなっている。「近くに医療施設や福祉施設がある」は、女性の70～74歳（64.8%）が６割台半ばで高くなっている。「公共交通機関を利用しやすい」は、女性の65～69歳（45.2%）が４割台半ばで高くなっている。（図表１－14）

＜図表 1－14＞高齢期の住まいで重要なこと（3つまでの複数回答）



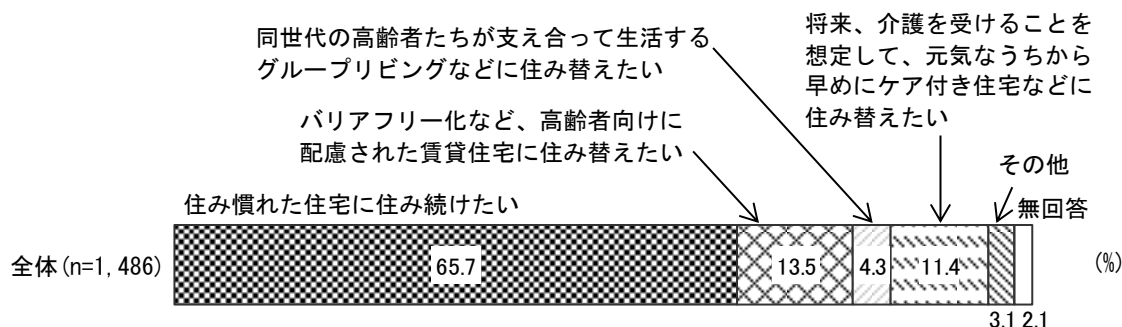


## （６）高齢期に住みたい住宅

◇「住み慣れた住宅に住み続けたい」が６割台半ば

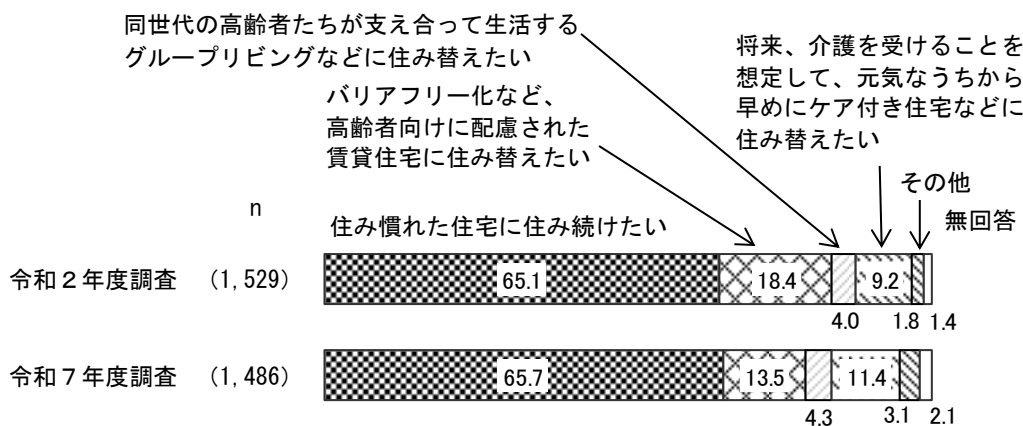
問 6 あなたは、高齢期を迎えたとき、どのような住宅に住みたいと思いますか。（○は１つ）

＜図表 1－15＞高齢期に住みたい住宅



高齢期に住みたい住宅について聞いたところ、「住み慣れた住宅に住み続けたい」（65.7%）が６割台半ばで最も高く、以下、「バリアフリー化など、高齢者向けに配慮された賃貸住宅に住み替えたい」（13.5%）、「将来、介護を受けることを想定して、元気なうちから早めにケア付き住宅などに住み替えたい」（11.4%）が続く。（図表 1－15）

〔参考〕令和２年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



### 【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表 1－16）

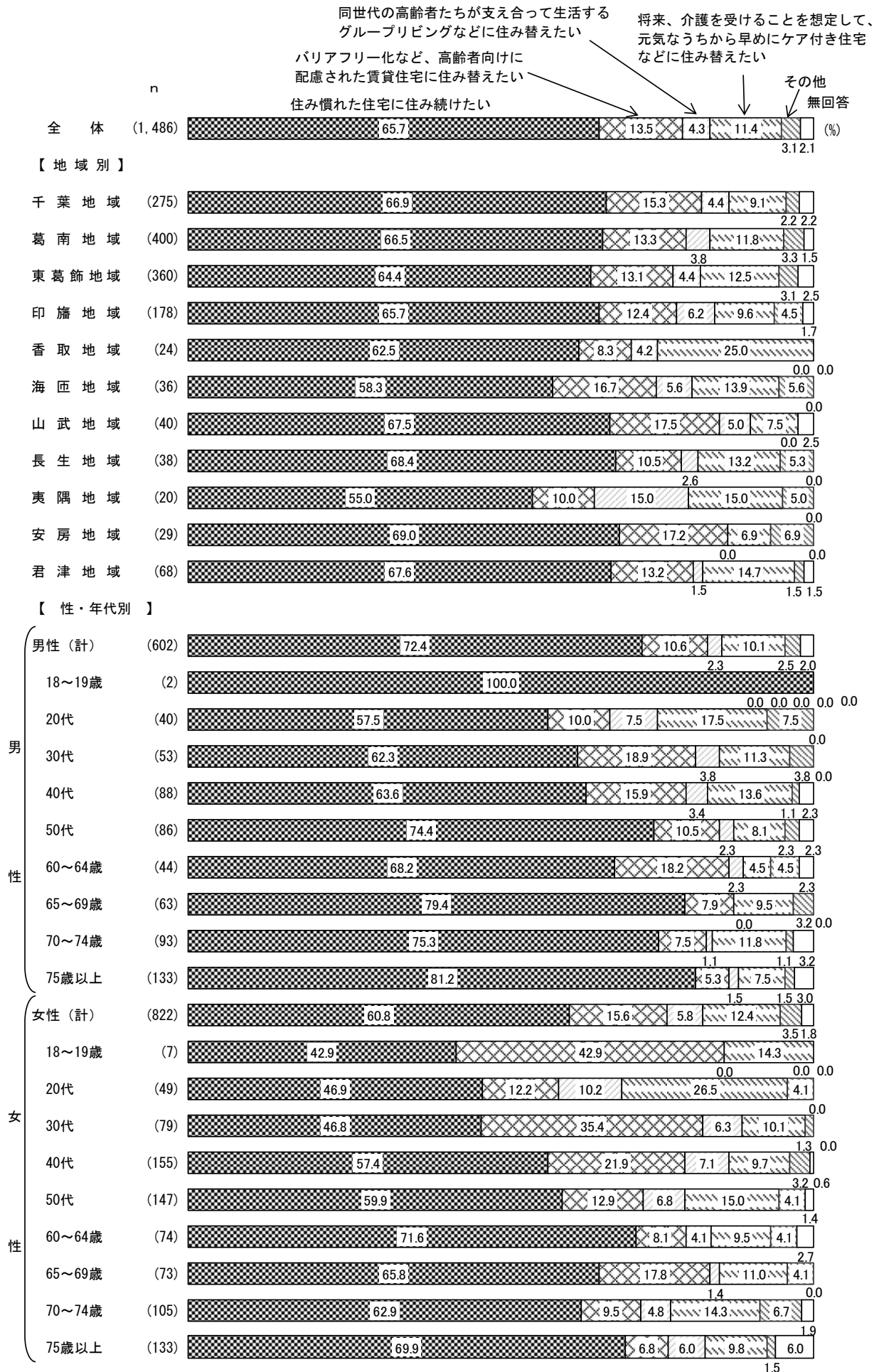
### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「住み慣れた住宅に住み続けたい」は、男性の75歳以上（81.2%）が８割を超え、男性の65～69歳（79.4%）が約８割、男性の70～74歳（75.3%）が７割台半ばで高くなっている。

「バリアフリー化など、高齢者向けに配慮された賃貸住宅に住み替えたい」は、女性の30代（35.4%）が３割台半ば、女性の40代（21.9%）が２割を超えて高くなっている。

「将来、介護を受けることを想定して、元気なうちから早めにケア付き住宅などに住み替えたい」は、女性の20代（26.5%）が２割台半ばで高くなっている。（図表 1－16）

＜図表 1－16＞高齢期に住みたい住宅／地域別、性・年代別

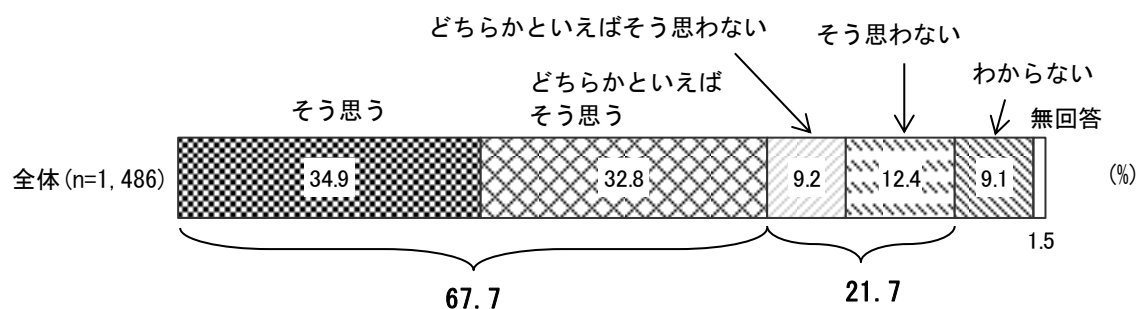


## （７）高齢期に備えた住宅の建て替え、買い替え、リフォームの必要性

◇『そう思う（計）』が約７割

問７ 高齢期に備え、あなたがお住まいの住宅の建て替え、買い替え、リフォームなどが必要だと思いますか。予定の有無にかかわらずお答えください。（○は１つ）

＜図表 1－17＞高齢期に備えた住宅の建て替え、買い替え、リフォームの必要性

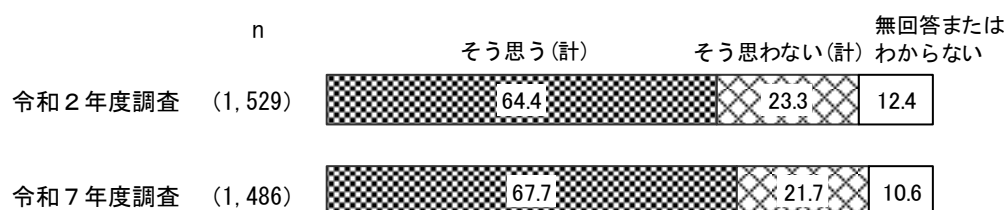


高齢期に備えた住宅の建て替え、買い替え、リフォームの必要性について聞いたところ、「そう思う」（34.9%）と「どちらかといえばそう思う」（32.8%）を合わせた『そう思う（計）』（67.7%）が約７割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（9.2%）と「そう思わない」（12.4%）を合わせた『そう思わない（計）』（21.7%）が２割を超えている。

また、「わからない」（9.1%）が約１割となっている。（図表 1－17）

〔参考〕令和２年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



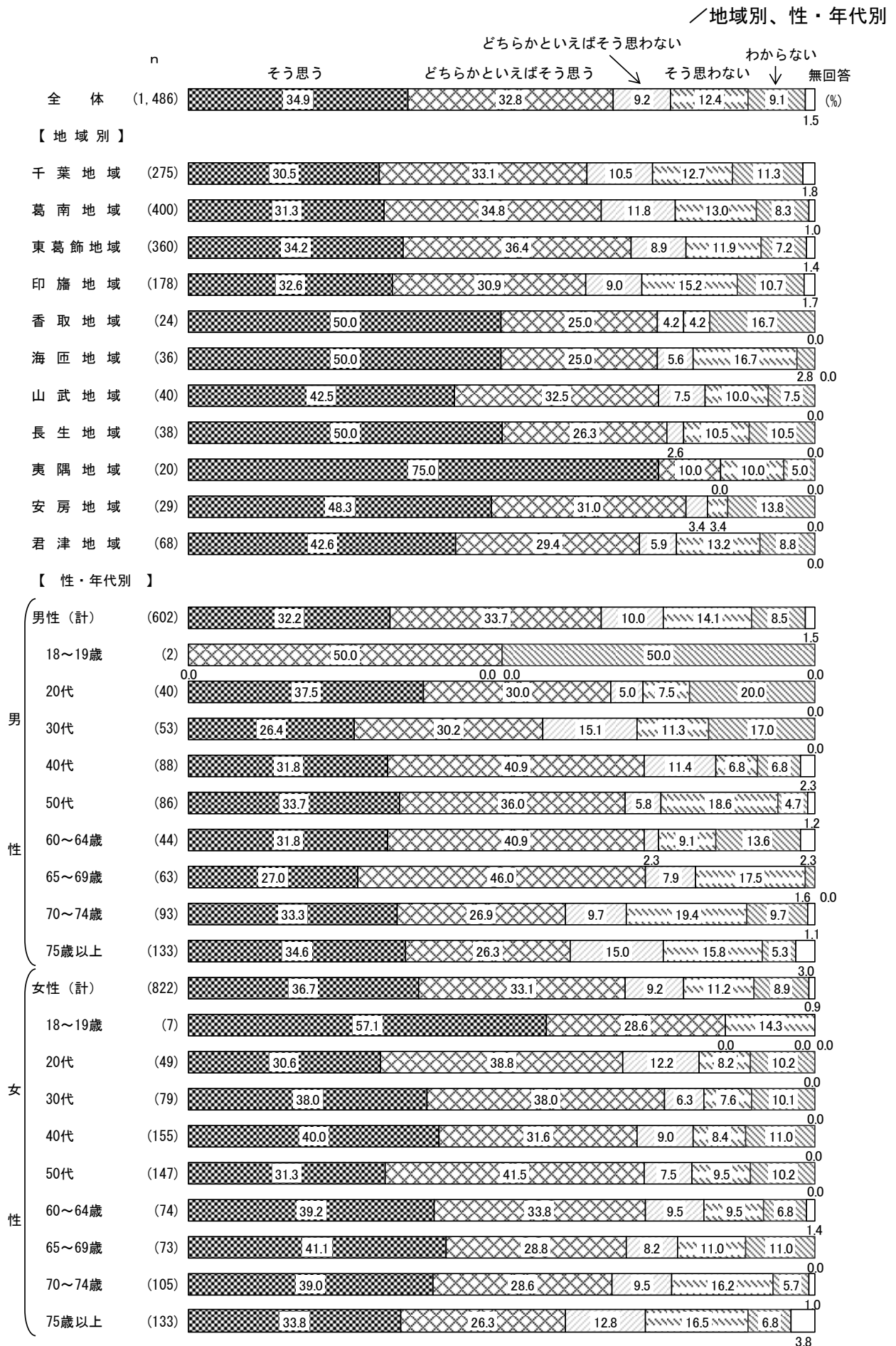
### 【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表 1－18）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思わない（計）』は男性の75歳以上（30.8%）が３割、女性の75歳以上（29.3%）が約３割で高くなっている。（図表 1－18）

＜図表 1－18＞高齢期に備えた住宅の建て替え、買い替え、リフォームの必要性

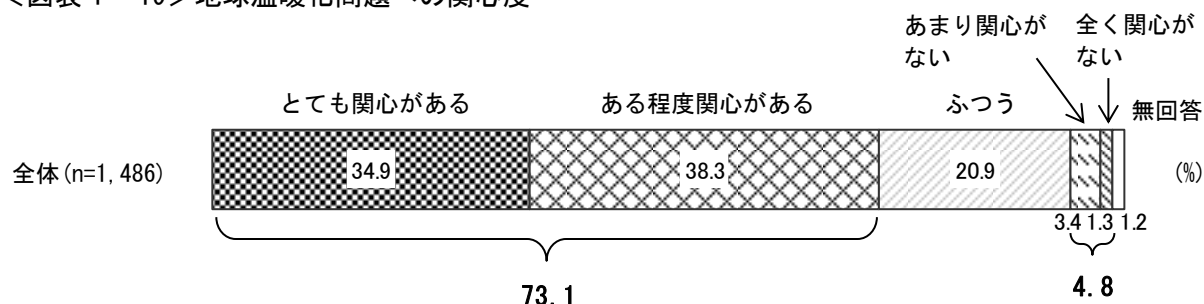


## （８）地球温暖化問題の関心度

◇『関心がある（計）』が 7 割を超える

問 8 あなたは、地球温暖化問題にどの程度関心がありますか。（○は 1 つ）

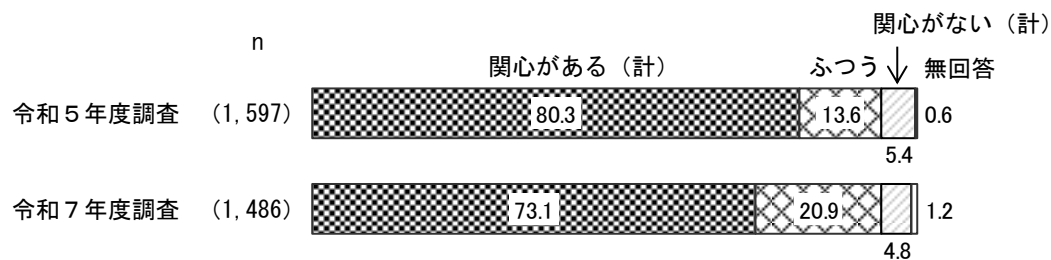
＜図表 1－19＞地球温暖化問題への関心度



地球温暖化問題について、その関心度を聞いたところ、「とても関心がある」（34.9%）と「ある程度関心がある」（38.3%）を合わせた『関心がある（計）』（73.1%）が 7 割を超えている。

一方、「あまり関心がない」（3.4%）と「全く関心がない」（1.3%）をあわせた『関心がない（計）』（4.8%）が 1 割未満、「ふつう」（20.9%）は 2 割となっている。（図表 1－19）

〔参考〕令和 5 年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



注）令和 5 年度は、以下の説明を提示して実施

「地球温暖化問題」は、その予想される影響の大きさや深刻さから見て、最も重要な環境問題の 1 つとされており、既に世界的にも平均気温の上昇、雪氷の融解、海面水位の上昇が観測されています。

### 【地域別】

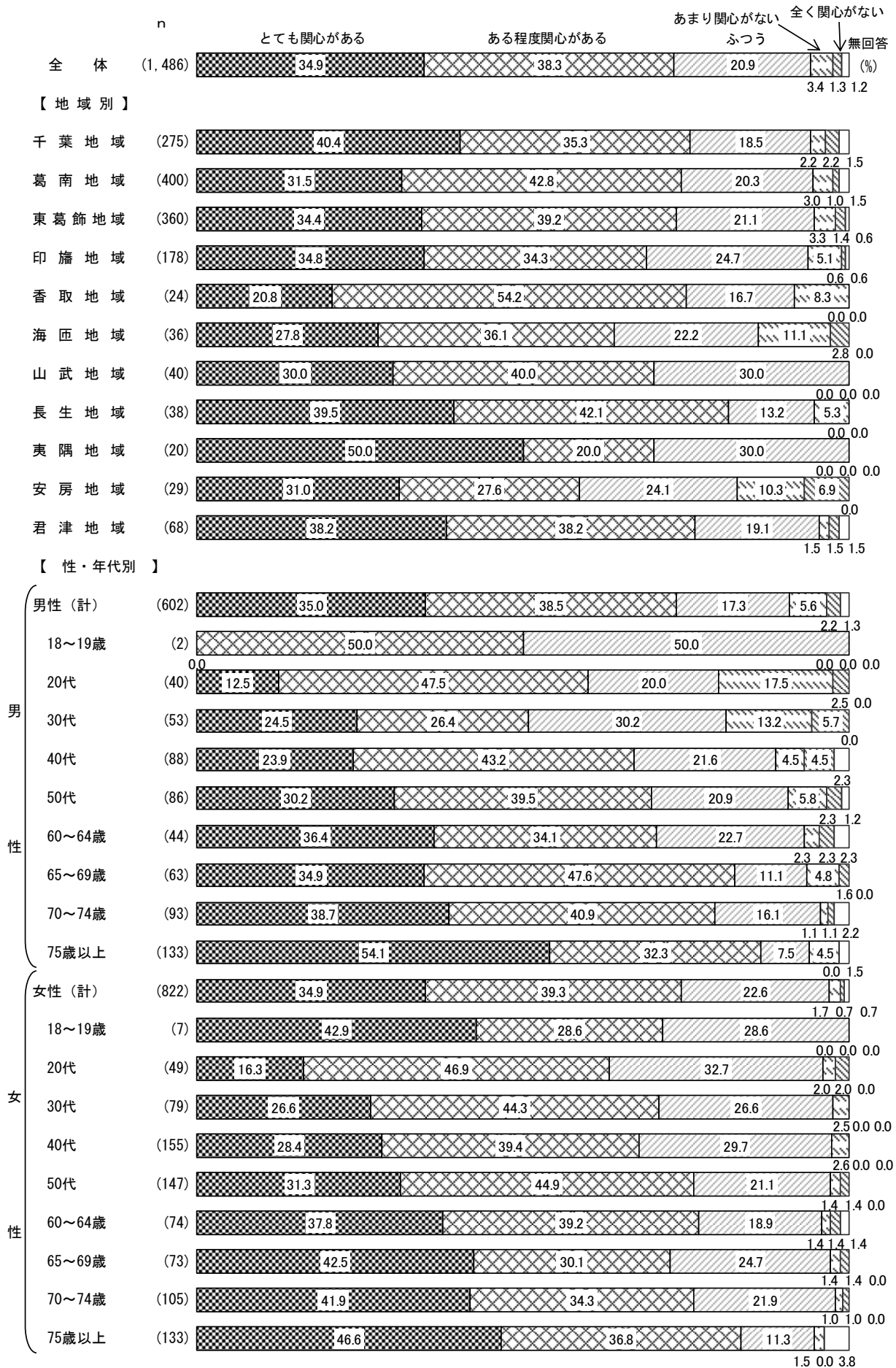
地域別にみると、『関心がない（計）』は“海匝地域”（13.9%）が 1 割台半ばで高くなっている。（図表 1－20）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『関心がある（計）』は、男性の 75 歳以上（86.5%）と女性の 75 歳以上（83.5%）が 8 割台半ばで高くなっている。

一方、『関心がない（計）』は、男性の 20 代（20.0%）が 2 割、男性の 30 代（18.9%）が約 2 割で高くなっている。（図表 1－20）

＜図表 1－20＞地球温暖化問題への関心度／地域別、性・年代別

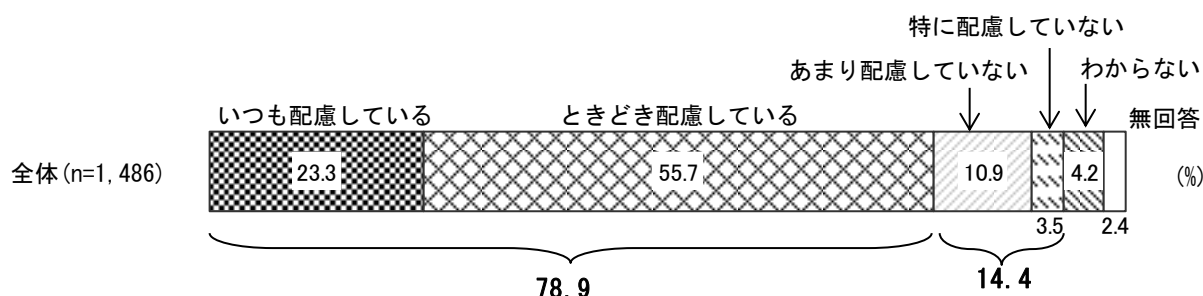


## （９）環境に配慮した行動

◇『配慮している（計）』が約 8 割

問 9 日常生活の中で環境に配慮して行動していますか。（○は 1 つ）

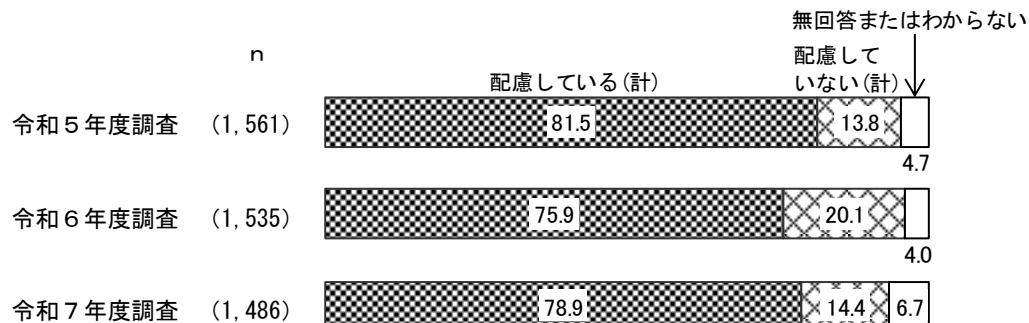
＜図表 1－21＞環境に配慮した行動



日常生活の中で環境に配慮して行動しているか聞いたところ、「いつも配慮している」（23.3%）と「ときどき配慮している」（55.7%）を合わせた『配慮している（計）』（78.9%）が約 8 割となっている。

一方、「あまり配慮していない」（10.9%）と「特に配慮していない」（3.5%）を合わせた『配慮していない（計）』（14.4%）が 1 割台半ばとなっている。（図表 1－21）

〔参考〕令和 5 年度・6 年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



### 【地域別】

地域別にみると、『配慮していない（計）』は“海匠地域”（27.8%）が約 3 割で高くなっている。（図表 1－22）

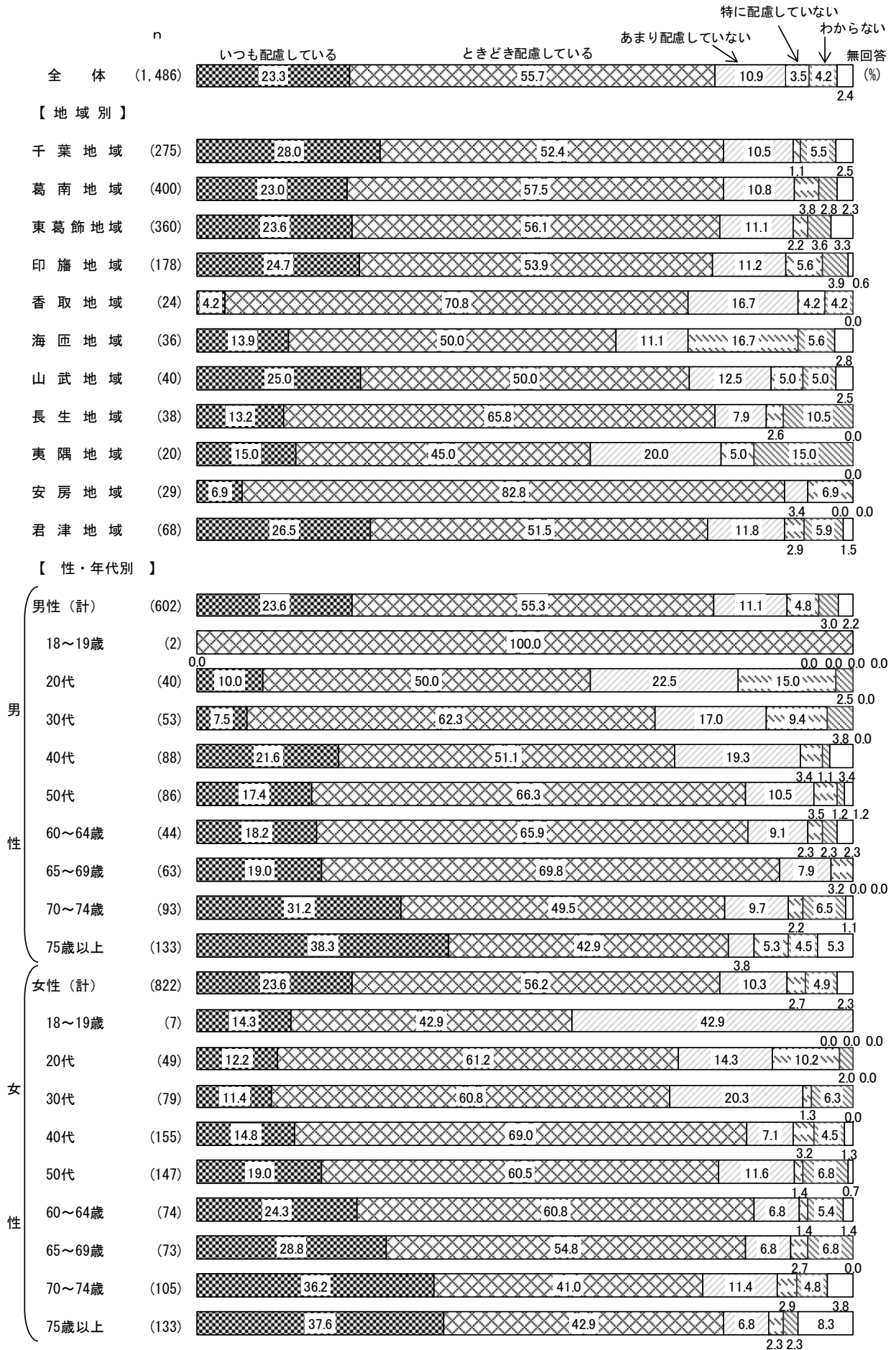
### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『配慮している（計）』は男性の 65～69 歳（88.9%）が約 9 割で高くなっている。

一方、『配慮していない（計）』は男性の 20 代（37.5%）が約 4 割、男性の 30 代（26.4%）と女性の 20 代（24.5%）は 2 割台半ば、男性の 40 代（22.7%）が 2 割を超えて高くなっている。

（図表 1－22）

<図表 1-22>環境に配慮した行動／地域別、性・年代別



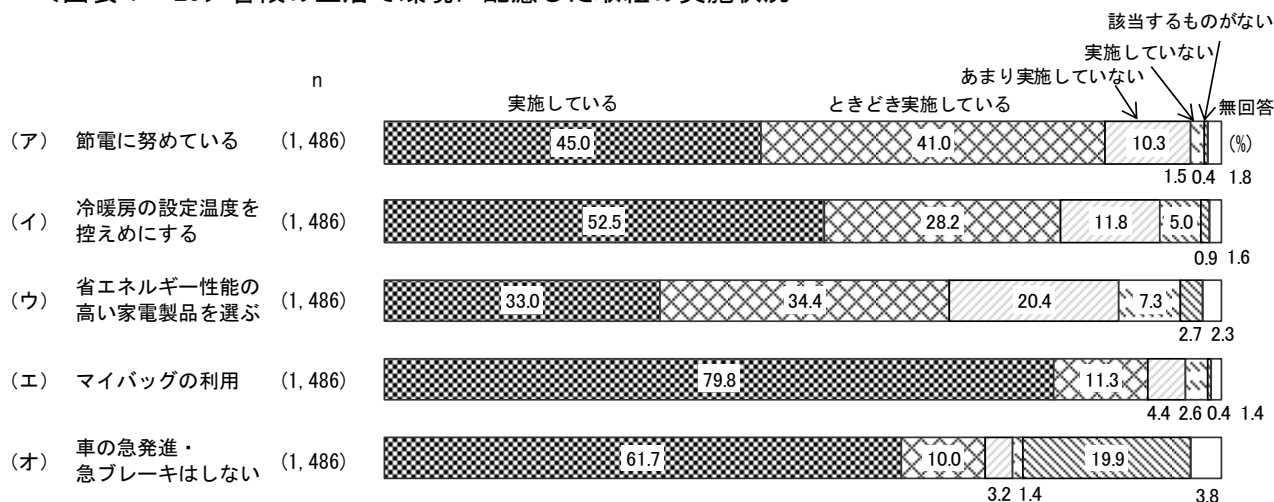
## (10) 普段の生活で環境に配慮した取組の実施状況

◇『実施している（計）』が最も高いのは〈マイバッグの利用〉で9割を超える

問10 あなたは、普段の生活で環境に配慮した次のような取組を行っていますか。

（○はそれぞれ1つずつ）

＜図表 1－23＞普段の生活で環境に配慮した取組の実施状況

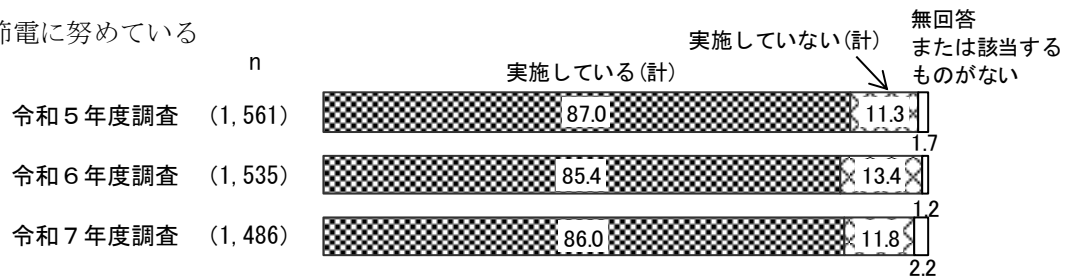


普段の生活で行っている環境保全の取組に関する5つの項目について、それぞれの実施状況を聞いたところ、「実施している」と「ときどき実施している」を合わせた『実施している（計）』が最も高いのは、「(エ) マイバッグの利用」(91.1%)で9割を超え、以下、「(ア) 節電に努めている」(86.0%)が8割台半ば、「(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする」(80.7%)が8割で続く。

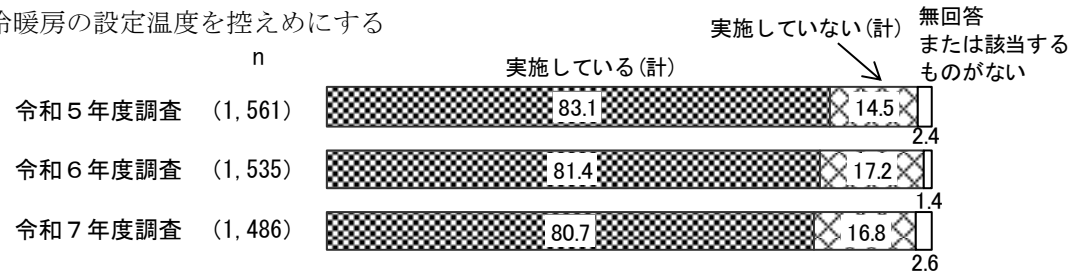
一方、「あまり実施していない」と「実施していない」を合わせた『実施していない（計）』が最も高いのは、「(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」(27.7%)で約3割となっており、以下、「(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする」(16.8%)が1割台半ば、「(ア) 節電に努めている」(11.8%)が1割を超えて続く。(図表 1－23)

## [参考] 令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

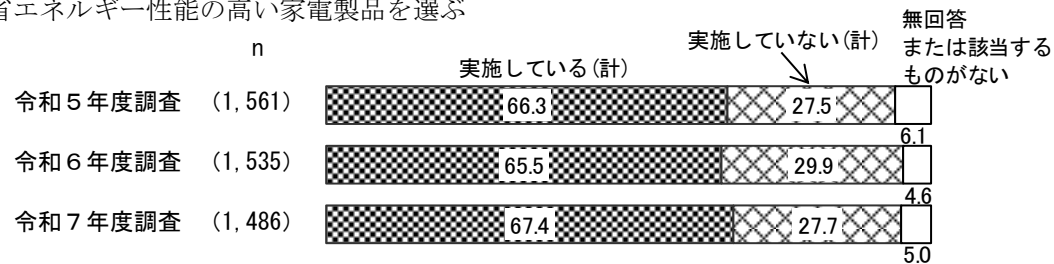
## (ア) 節電に努めている



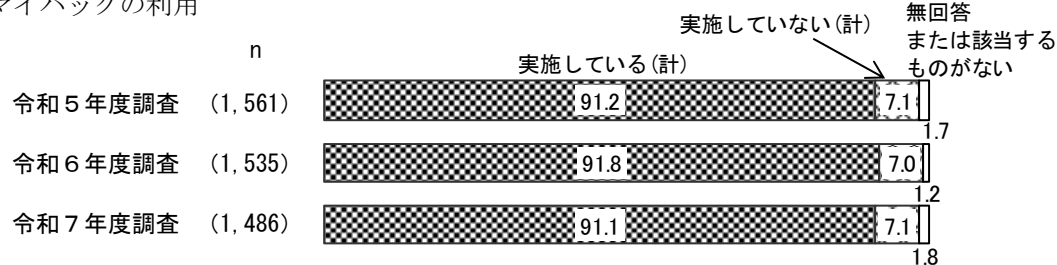
## (イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする



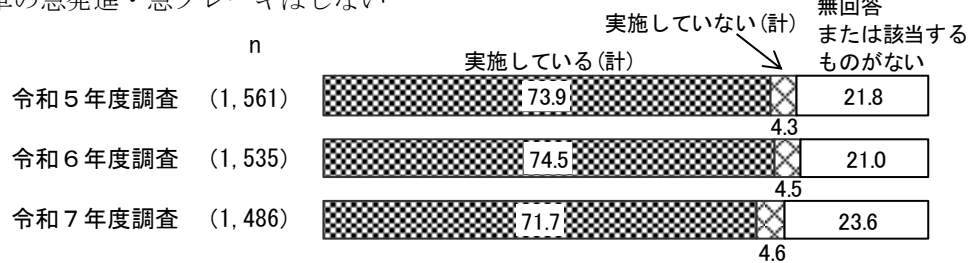
## (ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ



## (エ) マイバッグの利用



## (オ) 車の急発進・急ブレーキはしない



### 【地域別】

地域別にみると、「(ア) 節電に努めている」で大きな傾向の違いは見られない。

「(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする」の『実施している（計）』は“君津地域”（94.1%）が 9 割台半ばで高くなっている。

「(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」の『実施していない（計）』は“山武地域”（42.5%）が 4 割を超えて高くなっている。

「(エ) マイバッグの利用」の『実施している（計）』は“東葛飾地域”（93.9%）が 9 割台半ばで高くなっている。

「(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない」の『実施している（計）』は“君津地域”（88.2%）が約 9 割、“長生地域”（86.8%）が 8 割台半ばで高くなっている。（図表 1－24）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 節電に努めている」の『実施している（計）』は女性60～64歳（95.9%）と女性65～69歳（95.9%）が 9 割台半ばで高くなっている。

一方、『実施していない（計）』は男性の20代（30.0%）が 3 割、男性の30代（24.5%）が 2 割台半ばで高くなっている。

「(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする」の『実施している（計）』は男性の75歳以上（91.0%）が 9 割を超え、女性の70～74歳（89.5%）と女性の75歳以上（87.2%）が約 9 割で高くなっている。

一方、『実施していない（計）』は男性の30代（41.5%）が 4 割を超え、男性の20代（37.5%）が約 4 割、女性の20代（30.6%）が 3 割、男性の50代（24.4%）が 2 割台半ばで高くなっている。

「(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」の『実施している（計）』は女性の60～64歳（79.7%）が約 8 割、女性の50代（75.5%）が 7 割台半ばで高くなっている。

一方、『実施していない（計）』は女性の20代（59.2%）が約 6 割、男性の20代（52.5%）が 5 割を超え、男性の30代（47.2%）が約 5 割、女性の30代（38.0%）が約 4 割で高くなっている。

「(エ) マイバッグの利用」の『実施している（計）』は女性の40代（98.1%）、女性の70～74歳（98.1%）、女性の30代（97.5%）が約10割、女性の50代（96.6%）が 9 割台半ばで高くなっている。

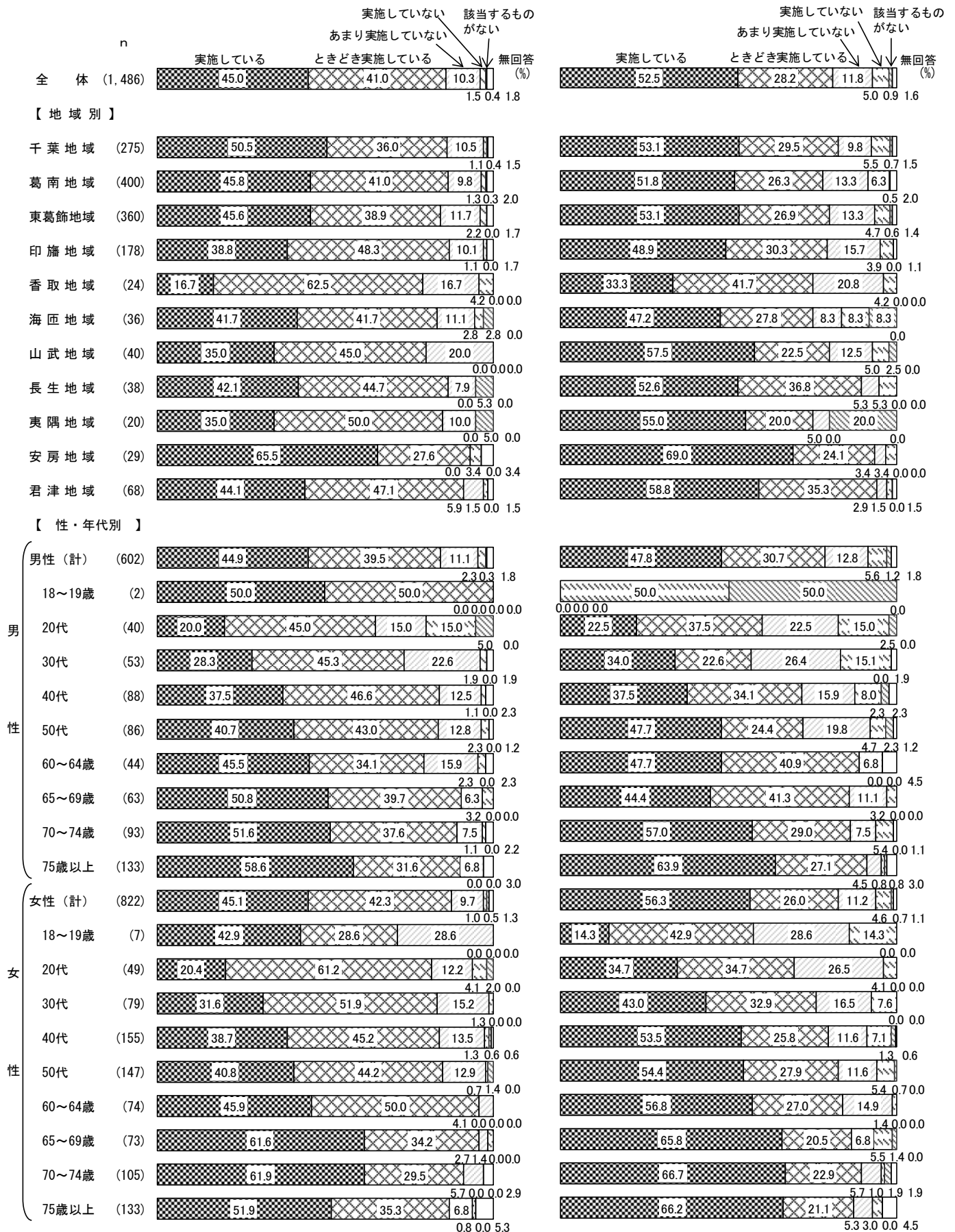
一方、『実施していない（計）』は男性の20代（32.5%）が 3 割を超え、男性の40代（17.0%）が約 2 割、男性の50代（12.8%）が 1 割を超えて高くなっている。

「(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない」の『実施している（計）』は男性の65～69歳（92.1%）が 9 割を超え、男性の70～74歳（86.0%）が 8 割台半ばで高くなっている。（図表 1－24）

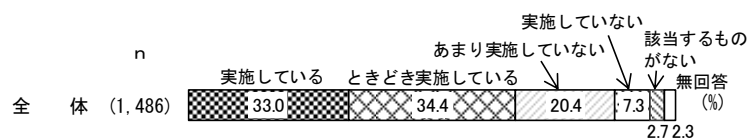
＜図表 1－24＞普段の生活で環境に配慮した取組の実施状況／地域別、性・年代別

（ア）節電に努めている

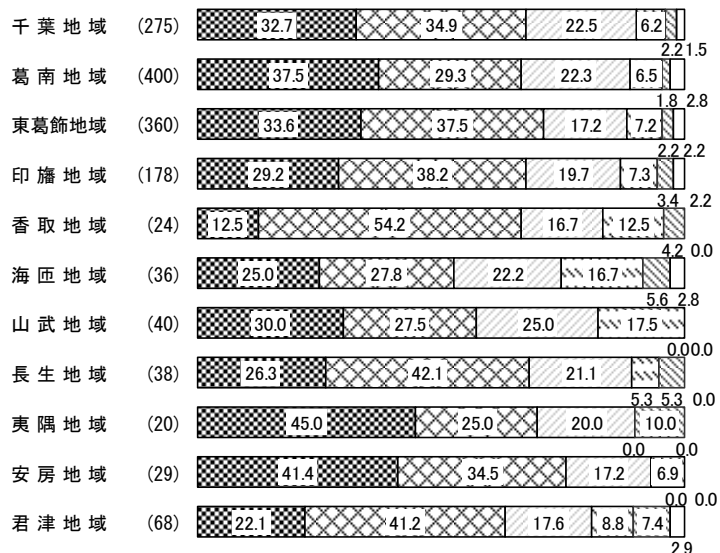
（イ）冷暖房の設定温度を控えめにする



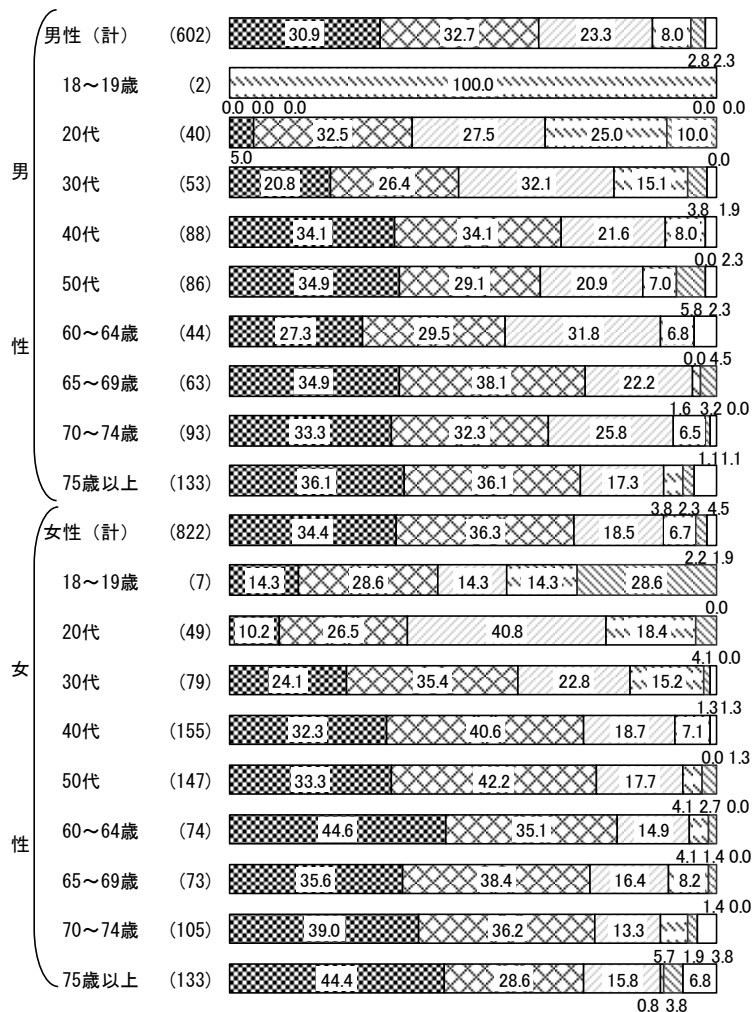
(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ



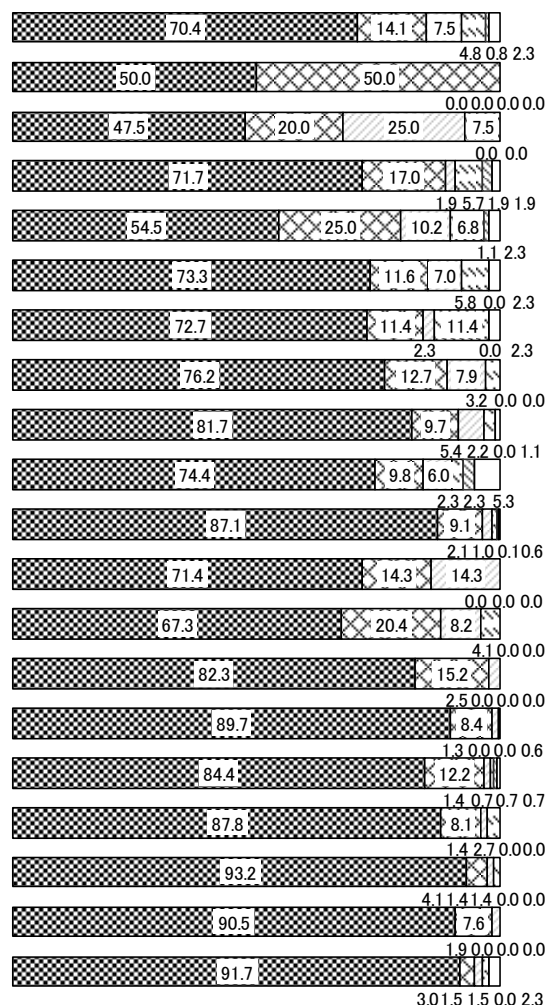
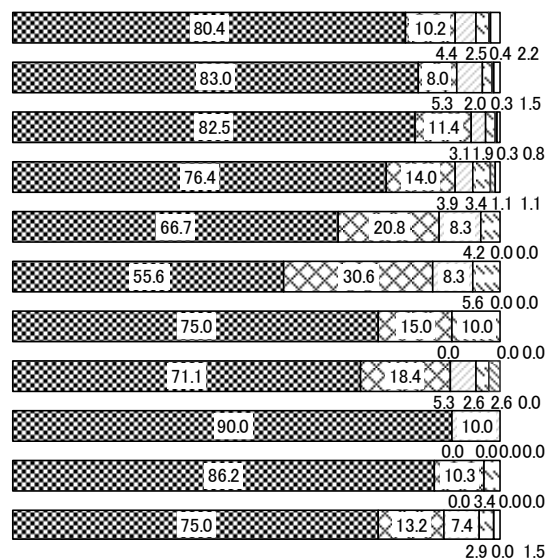
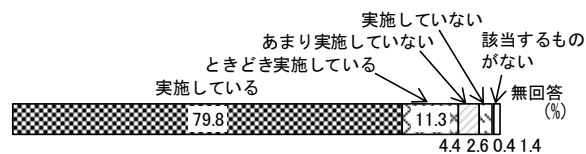
【地域別】



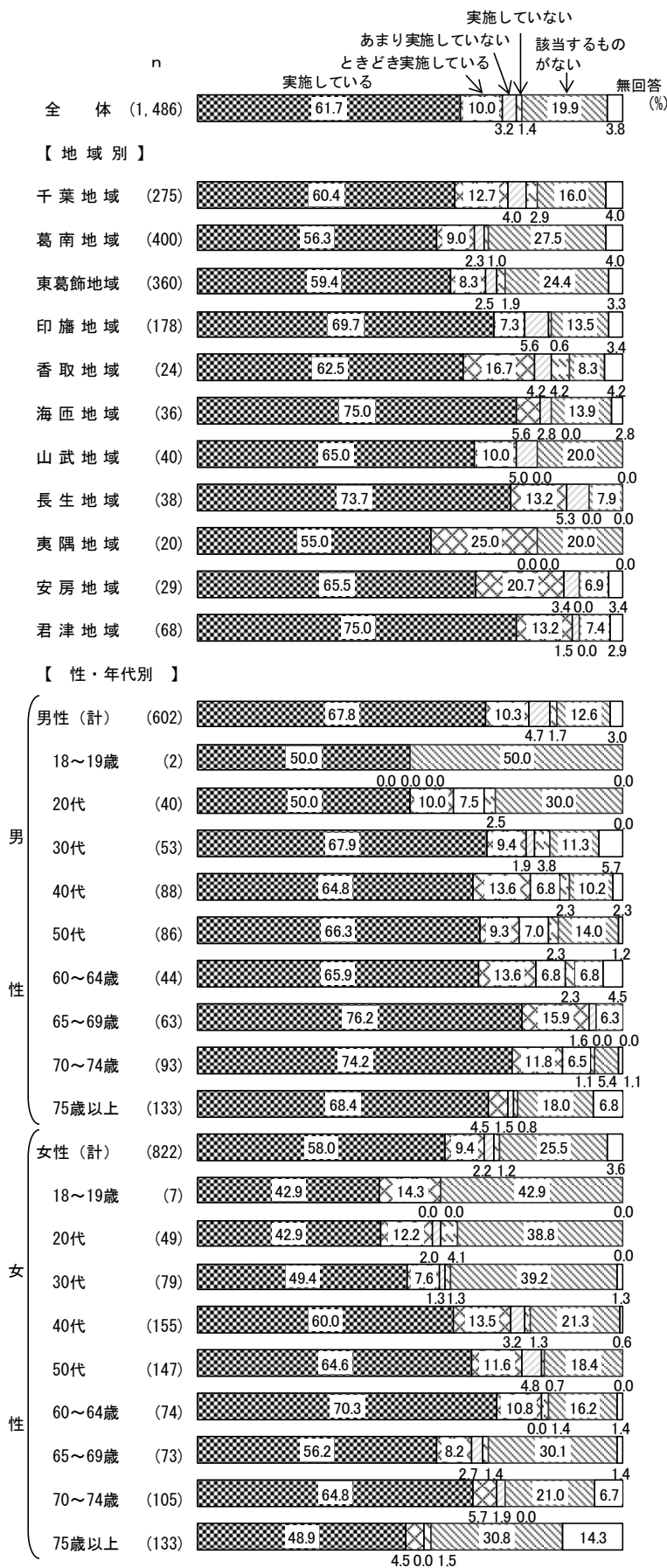
【性・年代別】



(エ) マイバッグの利用



(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない

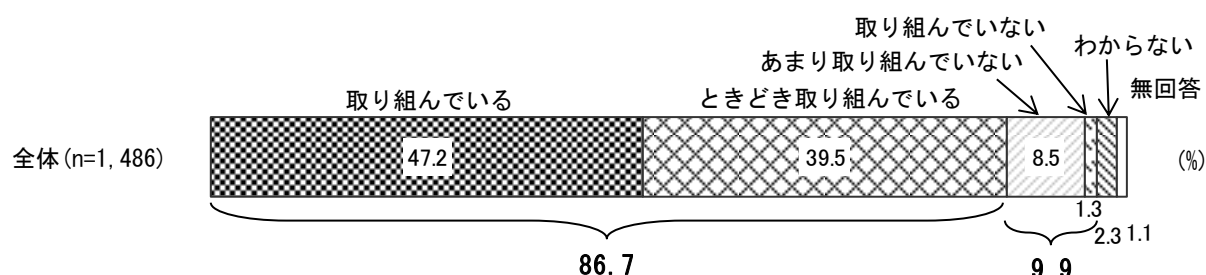


## （11）食品ロス削減の取組状況

◇『取り組んでいる（計）』が8割台半ば

問11 あなたは、「食品ロス」の削減に取り組んでいますか。（○は1つ）

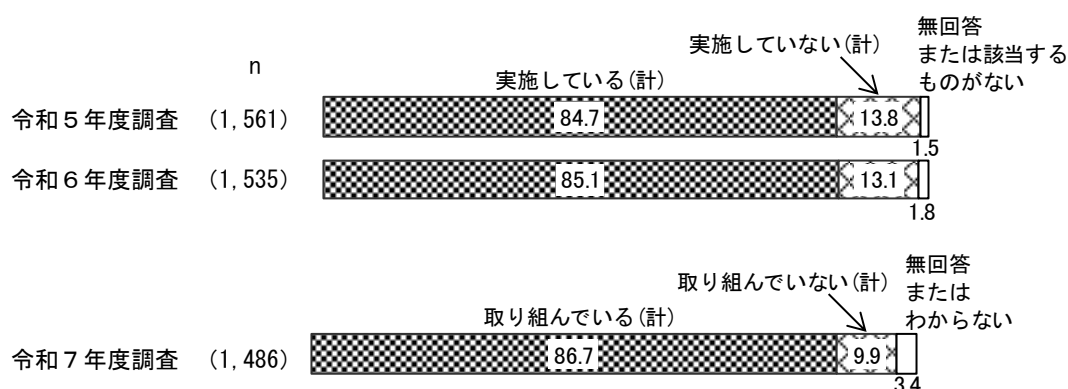
＜図表 1－25＞食品ロス削減の取組状況



食品ロス削減の取組状況を聞いたところ、「取り組んでいる」（47.2%）と「ときどき取り組んでいる」（39.5%）を合わせた『取り組んでいる（計）』（86.7%）が8割台半ばとなっている。

一方、「あまり取り組んでいない」（8.5%）と「取り組んでいない」（1.3%）を合わせた『取り組んでいない（計）』（9.9%）は約1割となっている。（図表 1－25）

〔参考〕令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



注）令和7年度調査は回答選択肢を変更

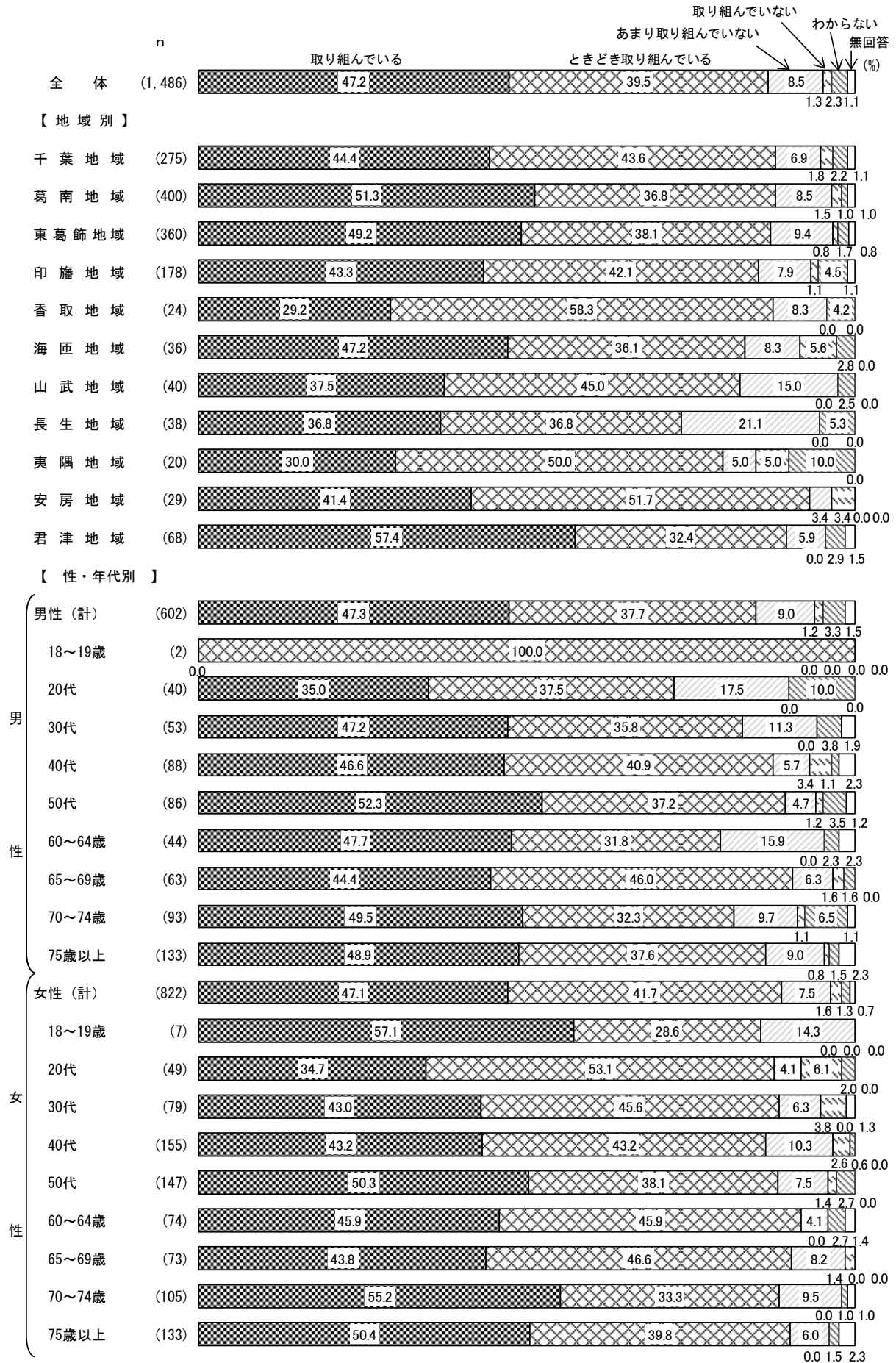
### 【地域別】

地域別にみると、『取り組んでいない（計）』は“長生地域”（21.1%）が2割を超えて高くなっている。（図表 1－26）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表 1－26）

＜図表 1－26＞食品ロス削減の取組状況／地域別、性・年代別

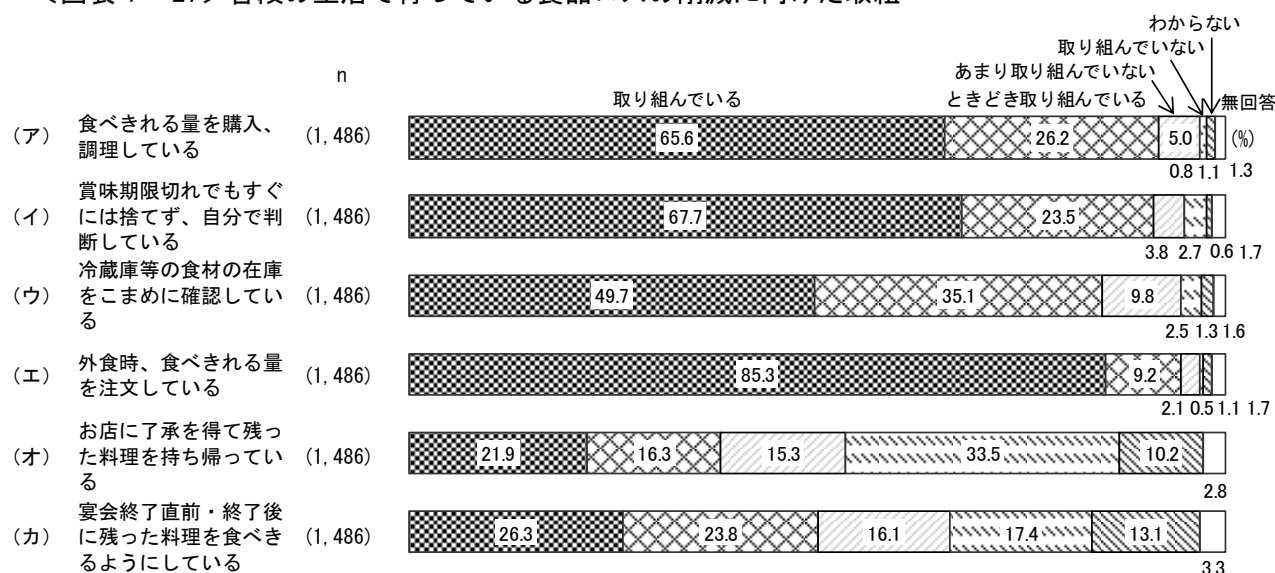


## (12) 普段の生活で行っている食品ロスの削減に向けた取組

◇『取り組んでいる（計）』が最も高いのは〈外食時、食べきれる量を注文している〉で9割台半ば

問12 あなたは、普段の生活で食品ロスの削減に向けた次のような取組を行っていますか。  
(○はそれぞれ1つずつ)

＜図表 1－27＞普段の生活で行っている食品ロスの削減に向けた取組



普段の生活で行っている食品ロスの削減に向けた取組に関する6つの項目について、それぞれの取組状況を聞いたところ、「取り組んでいる」と「ときどき取り組んでいる」を合わせた『取り組んでいる（計）』が最も高いのは、「(エ) 外食時、食べきれる量を注文している」(94.5%)が9割台半ば、以下、「(ア) 食べきれる量を購入、調理している」(91.8%)と「(イ) 賞味期限切れでもすぐには捨てず、自分で判断している」(91.2%)が9割を超えて続く。

一方、「あまり取り組んでいない」と「取り組んでいない」を合わせた『取り組んでいない（計）』が最も高いのは、「(オ) お店に了承を得て残った料理を持ち帰っている」(48.8%)が約5割、以下、「(カ) 宴会終了直前・終了後に残った料理を食べるようにしている」(33.4%)が3割を超え、「(ウ) 冷蔵庫等の食材の在庫をこまめに確認している」(12.3%)が1割を超えて続く。

(図表 1－27)

### 【地域別】

地域別にみると、「(ア) 食べきれる量を購入、調理している」の『取り組んでいる（計）』は“葛南地域”(95.3%)が9割台半ばで高くなっている。一方、『取り組んでいない（計）』は“山武地域”(15.0%)が1割台半ばで高くなっている。

「(ウ) 冷蔵庫等の食材の在庫をこまめに確認している」の『取り組んでいない（計）』は“山武地域”(22.5%)が2割を超えて高くなっている。

「(イ) 賞味期限切れでもすぐには捨てず、自分で判断している」、「(エ) 外食時、食べきれる量を注文している」、「(オ) お店に了承を得て残った料理を持ち帰っている」は大きな傾向の違いは見られない。

「(カ)宴会終了直前・終了後に残った料理を食べるようにしている」の『取り組んでいる(計)』は“君津地域”(64.7%)が6割台半ばで高くなっている。(図表1-28)

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア)食べきれる量を購入、調理している」の『取り組んでいる(計)』は女性の30代(98.7%)が約10割で高くなっている。一方、『取り組んでいない(計)』は男性の40代(11.4%)が1割を超えて高くなっている。

「(イ)賞味期限切れでもすぐには捨てず、自分で判断している」の『取り組んでいない(計)』は男性の20代(15.0%)が1割台半ばで高くなっている。

「(ウ)冷蔵庫等の食材の在庫をこまめに確認している」の『取り組んでいる(計)』は女性の65～69歳(94.5%)が9割台半ば、女性の50代(93.2%)、女性の70～74歳(91.4%)、女性の75歳以上(91.0%)が9割を超えて高くなっている。一方、『取り組んでいない(計)』は男性の20代(22.5%)が2割を超え、男性の40代(20.5%)が2割で高くなっている。

「(エ)外食時、食べきれる量を注文している」の『取り組んでいる(計)』は男性の65～69歳(100.0%)が10割、女性の40代(99.4%)が約10割で高くなっている。

「(オ)お店に了承を得て残った料理を持ち帰っている」の『取り組んでいない(計)』は男性の70～74歳(62.4%)が6割を超えて高くなっている。

「(カ)宴会終了直前・終了後に残った料理を食べるようにしている」の『取り組んでいる(計)』は女性の20代(67.3%)が約7割、男性の30代(66.0%)が6割台半ばで高くなっている。

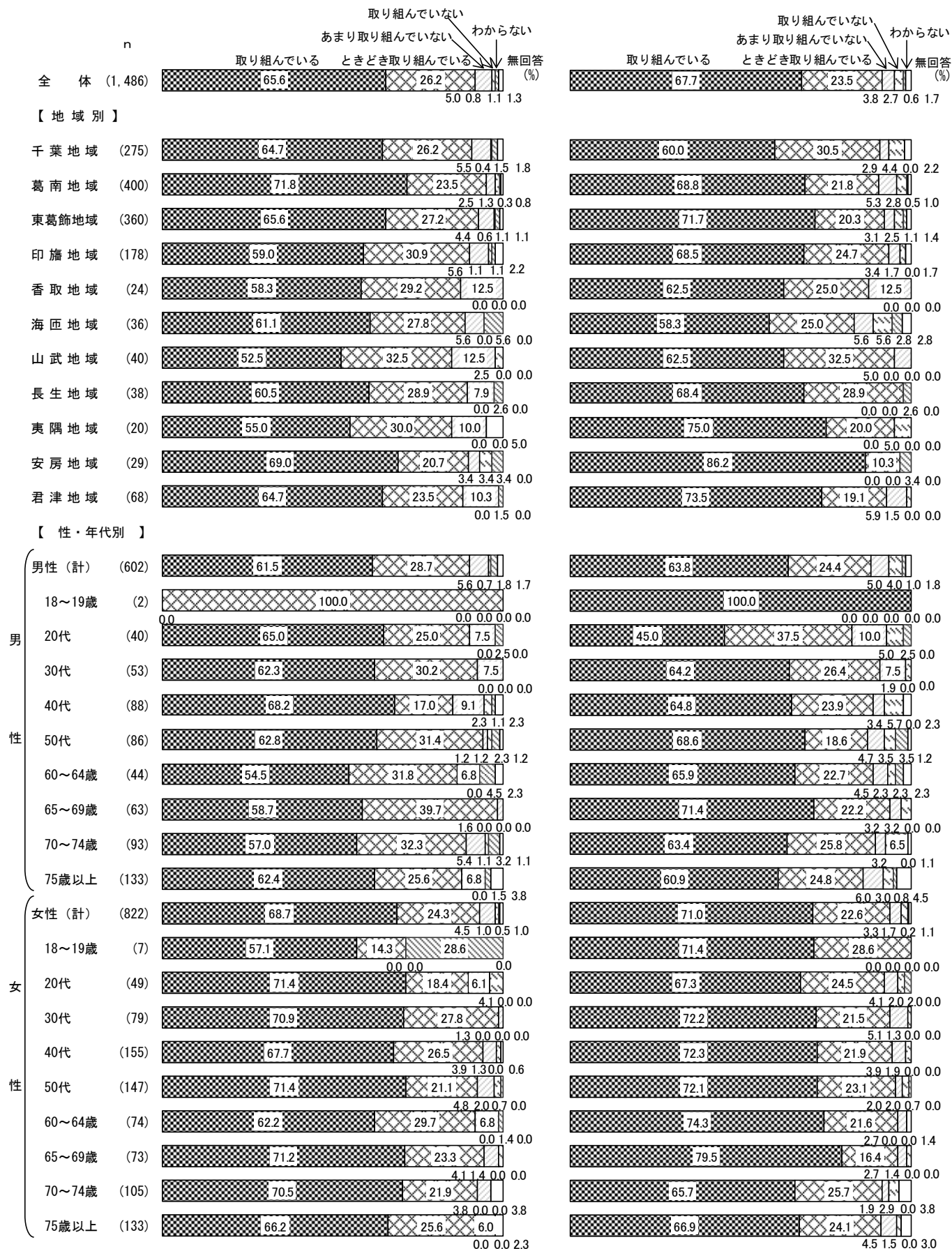
一方、『取り組んでいない(計)』は男性の70～74歳(51.6%)が5割を超え、男性の75歳以上(41.4%)が4割を超えて高くなっている。(図表1-28)

&lt;図表 1-28&gt; 普段の生活で行っている食品ロスの削減に向けた取組／地域別、性・年代別

(ア) 食べきれる量を購入、調理している

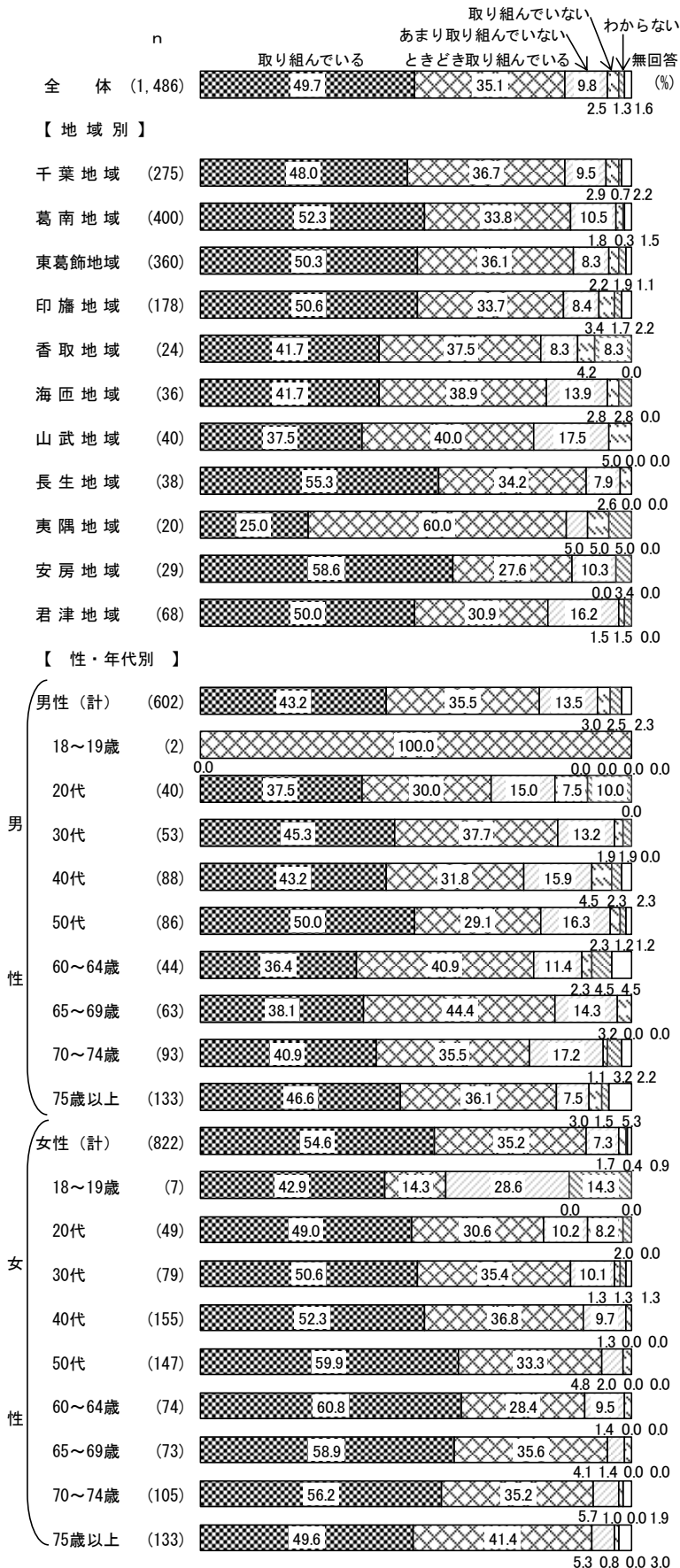
(イ) 賞味期限切れでもすぐには捨てず、

自分で判断している

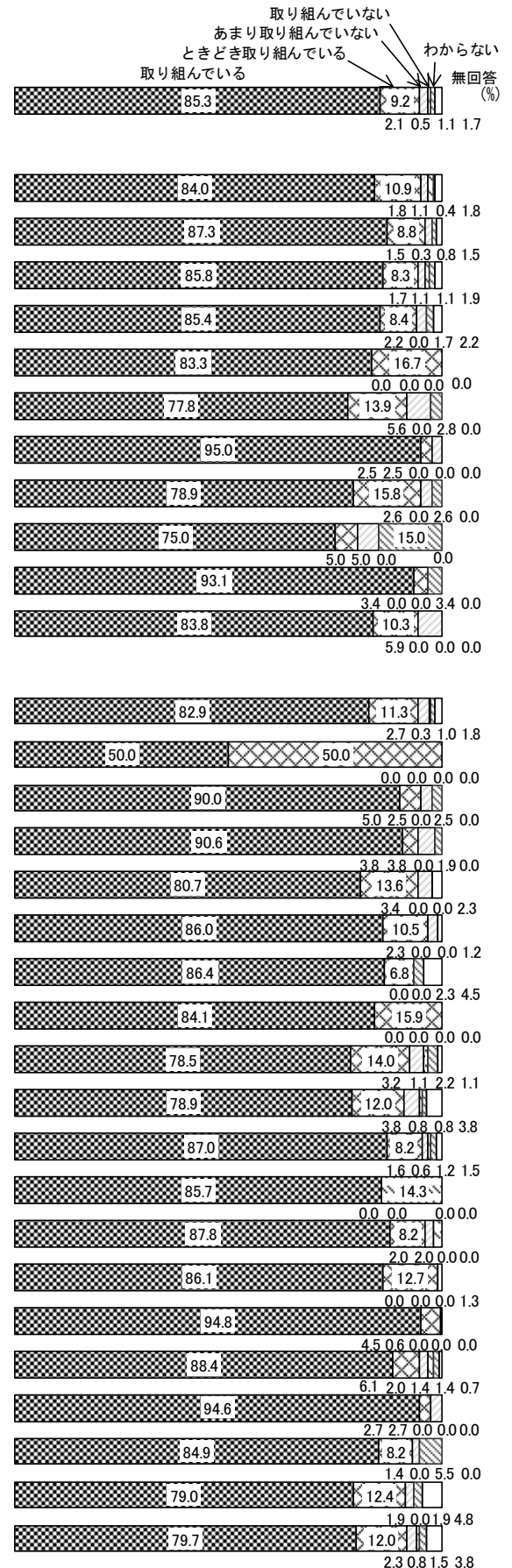


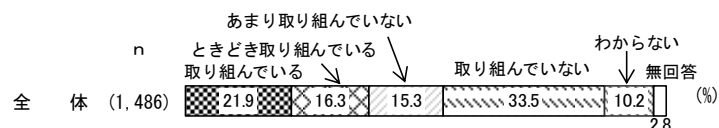
(ウ) 冷蔵庫等の食材の在庫をこまめに

確認している

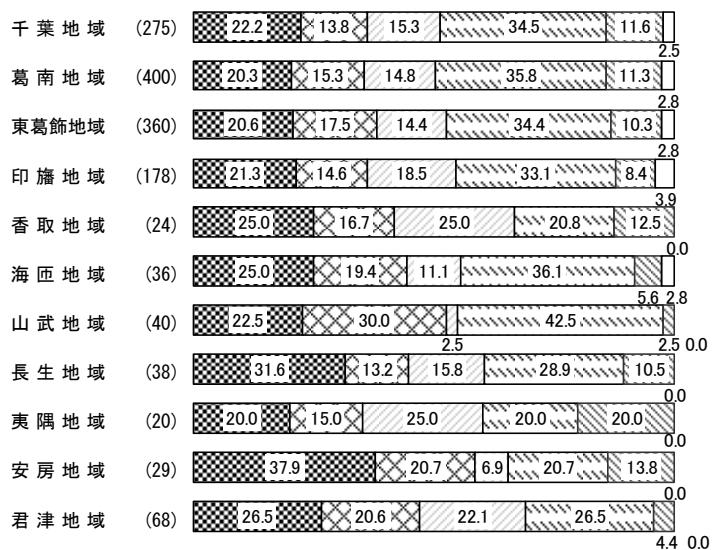
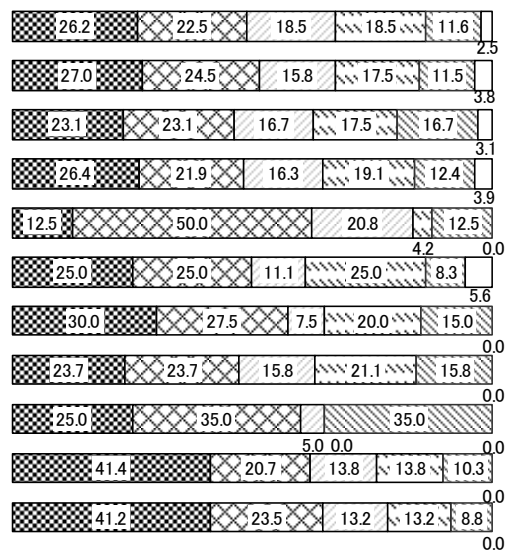
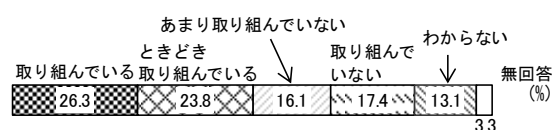


(エ) 外食時、食べきれる量を注文している



(オ) お店に了承を得て残った料理を  
持ち帰っている

## 【 地域別 】

(カ) 宴会終了直前・終了後に残った料理を  
食べきるようにしている

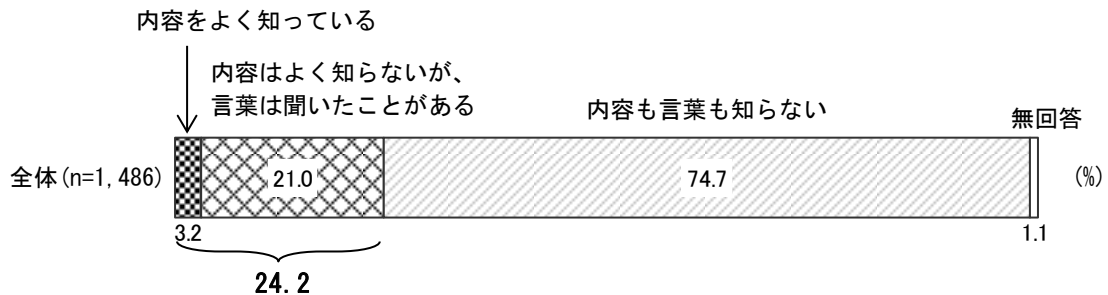
### (13) 「ちば食品ロス削減エコスタイル」の認知度

◇『聞いたことがある（計）』が2割台半ば

問13 「ちば食品ロス削減エコスタイル」※を知っていますか。（○は1つ）

※ 「ちば食品ロス削減エコスタイル」とは、食品ロスを減らすために、身の回りでできることを実践するライフスタイルのことです。

<図表 1－29> 「ちば食品ロス削減エコスタイル」の認知度



「ちば食品ロス削減エコスタイル」の認知を聞いたところ、「内容をよく知っている」（3.2%）と「内容はよく知らないが、言葉は聞いたことがある」（21.0%）を合わせた『聞いたことがある（計）』（24.2%）が2割台半ばとなっている。

一方、「内容も言葉も知らない」（74.7%）は7割台半ばとなっている。（図表 1－29）

#### 【地域別】

地域別にみると、『聞いたことがある（計）』は“千葉地域”（32.4%）が3割を超えて高くなっている。

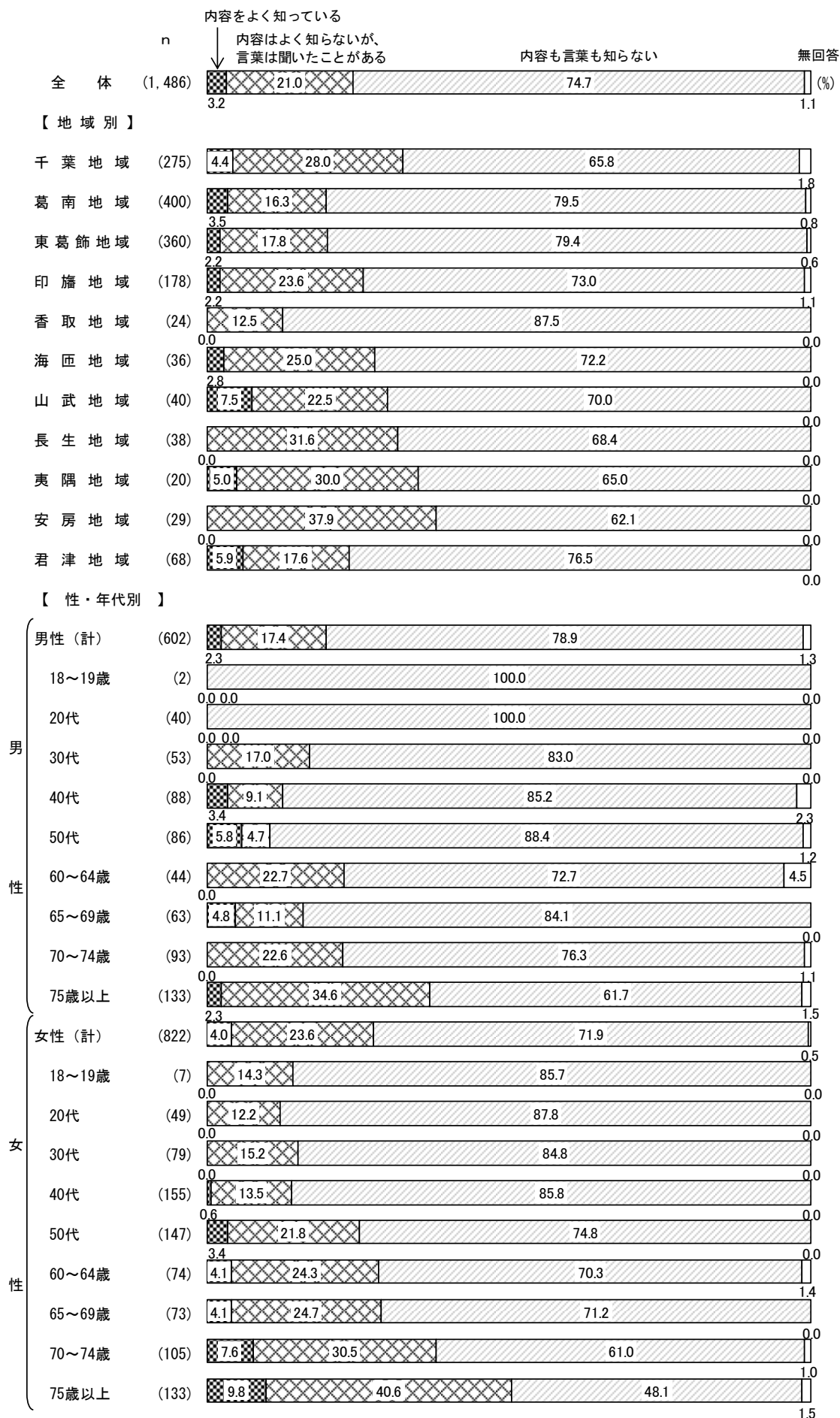
一方、「内容も言葉も知らない」は、“葛南地域”（79.5%）と“東葛飾地域”（79.4%）が約8割で高くなっている。（図表 1－30）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『聞いたことがある（計）』は女性の75歳以上（50.4%）が5割、女性の70～74歳（38.1%）が約4割、男性の75歳以上（36.8%）が3割台半ばで高くなっている。

一方、「内容も言葉も知らない」は男性の20代（100.0%）が10割、男性の50代（88.4%）と女性の20代（87.8%）が約9割、女性の40代（85.8%）、男性の40代（85.2%）、女性の30代（84.8%）が8割台半ばで高くなっている。（図表 1－30）

＜図表 1－30＞「ちば食品ロス削減エコスタイル」の認知度／地域別、性・年代別



### （13－１）「ちば食品ロス削減エコスタイル」の認知経路

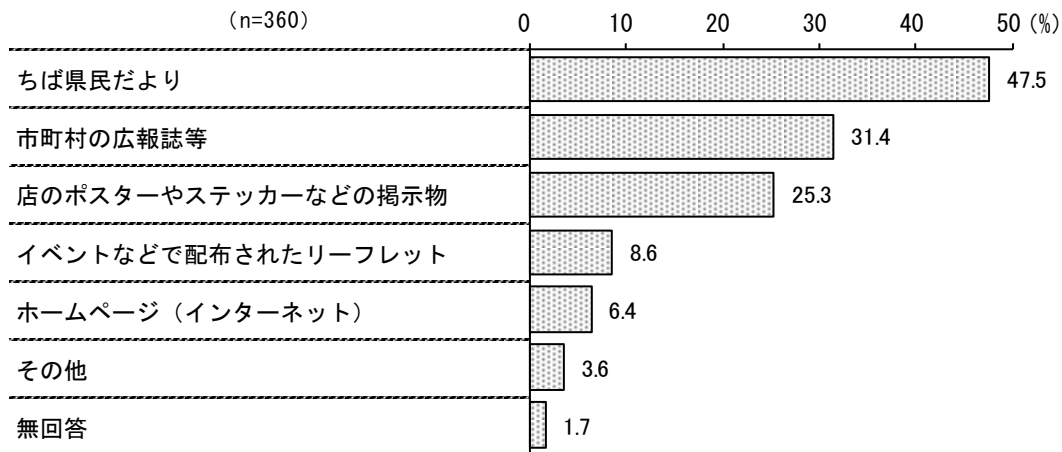
◇「ちば県民だより」が約５割

（問13で「内容をよく知っている」「内容はよく知らないが、言葉は聞いたことがある」のいずれかをお答えの方に）

問13－１ どのような方法で「ちば食品ロス削減エコスタイル」を知りましたか。

（○はいくつでも）

＜図表１－31＞「ちば食品ロス削減エコスタイル」の認知経路（複数回答）

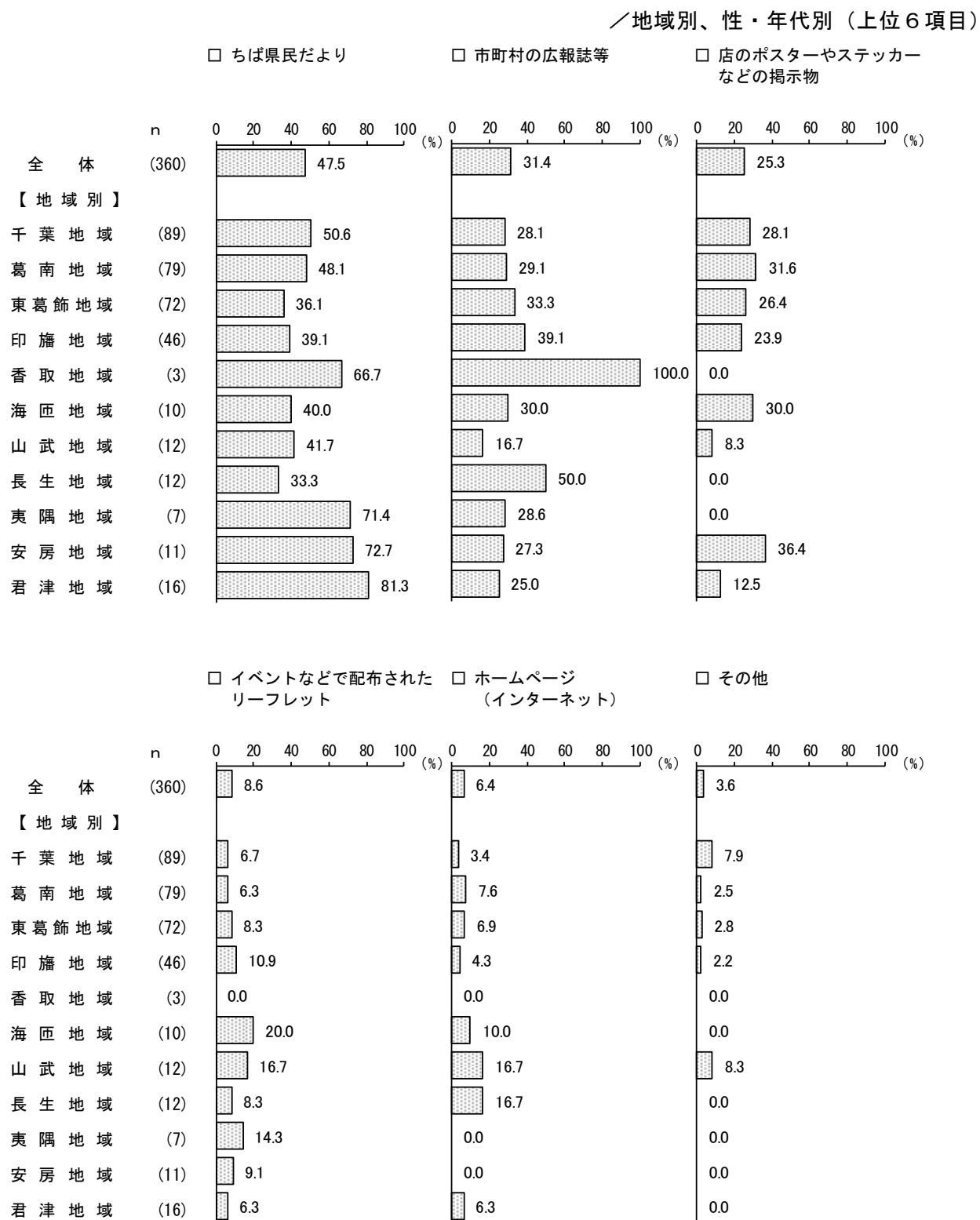


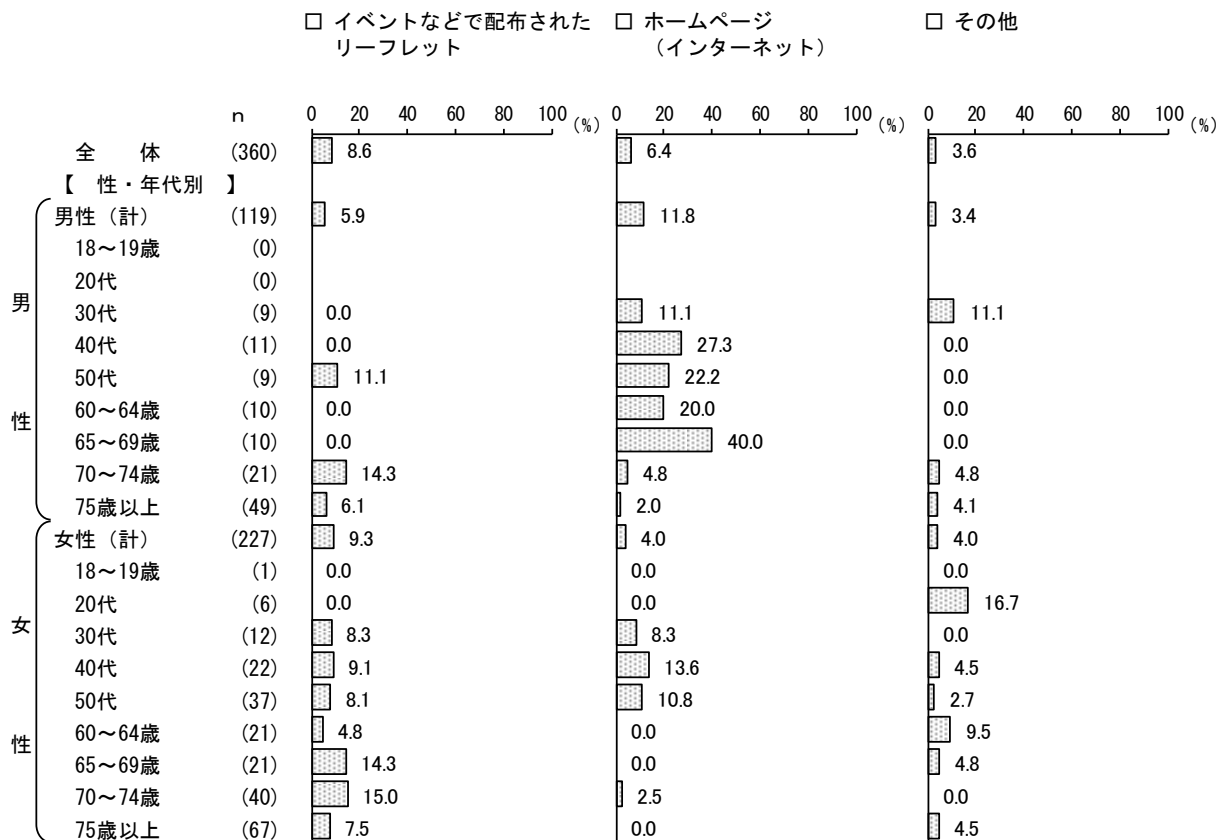
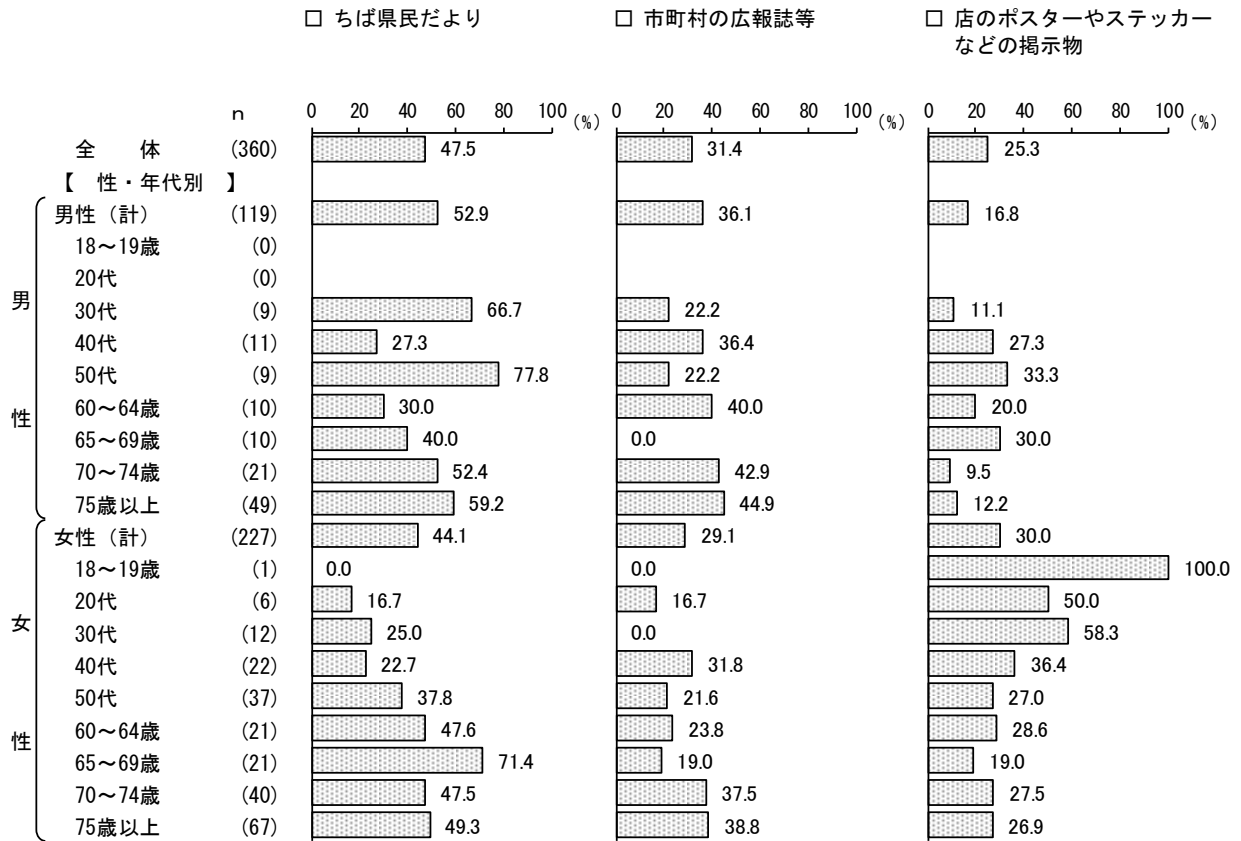
「ちば食品ロス削減エコスタイル」を「聞いたことがある」と回答した360人を対象に、認知経路を聞いたところ、「ちば県民だより」（47.5％）が約５割で最も高く、以下、「市町村の広報誌等」（31.4％）、「店のポスターやステッカーなどの掲示物」（25.3％）が続く。（図表１－31）

※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

（8ページ「報告書の見方（５）」を参照）（図表１－32）

[参考] <図表 1-32> 「ちば食品ロス削減エコスタイル」の認知経路（複数回答）





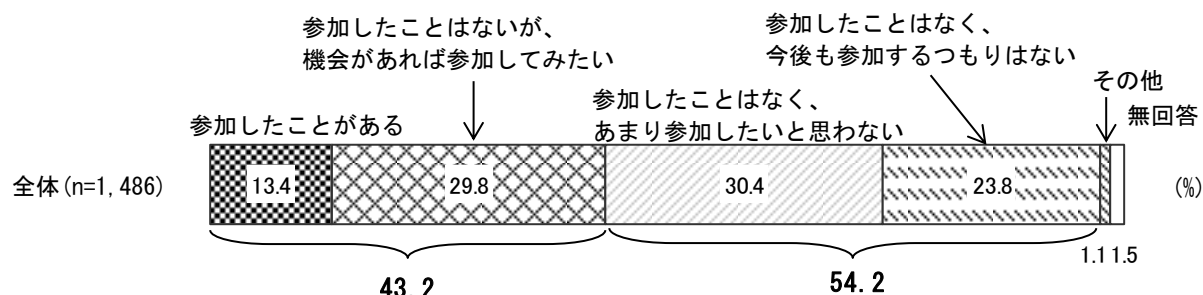
## (14) 環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況

◇『参加意向あり（計）』が4割を超える

問14 これまでに環境保全に関する講演やセミナー（オンラインでの参加を含む）、あるいは環境ボランティア活動（植林や清掃活動など）に参加したことがありますか。

（○は1つ）

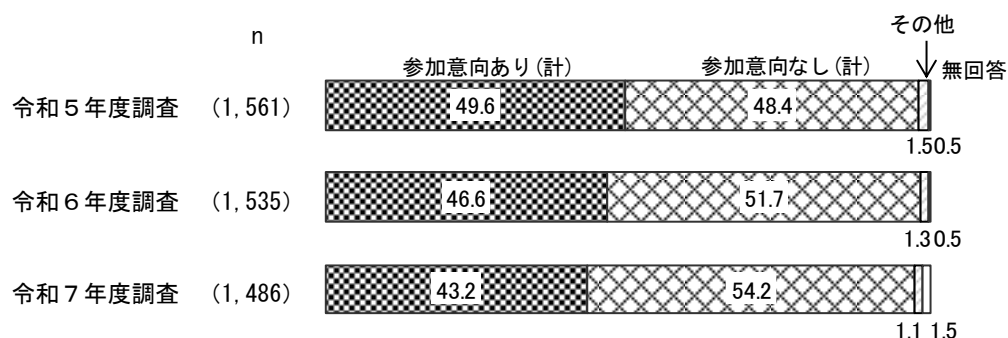
＜図表 1－33＞環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況



環境保全に関する講演やセミナー（オンライン参加含む）、環境ボランティア活動への参加状況を聞いたところ、「参加したことがある」（13.4%）が1割を超えており、これと「参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」（29.8%）を合わせた『参加意向あり（計）』（43.2%）が4割を超えている。

一方、「参加したことはなく、あまり参加したいと思わない」（30.4%）と「参加したことはなく、今後も参加するつもりはない」（23.8%）を合わせた『参加意向なし（計）』（54.2%）が5割台半ばとなっている。（図表 1－33）

〔参考〕令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



### 【地域別】

地域別にみると、『参加意向なし（計）』は“山武地域”（80.0%）が8割で高くなっている。

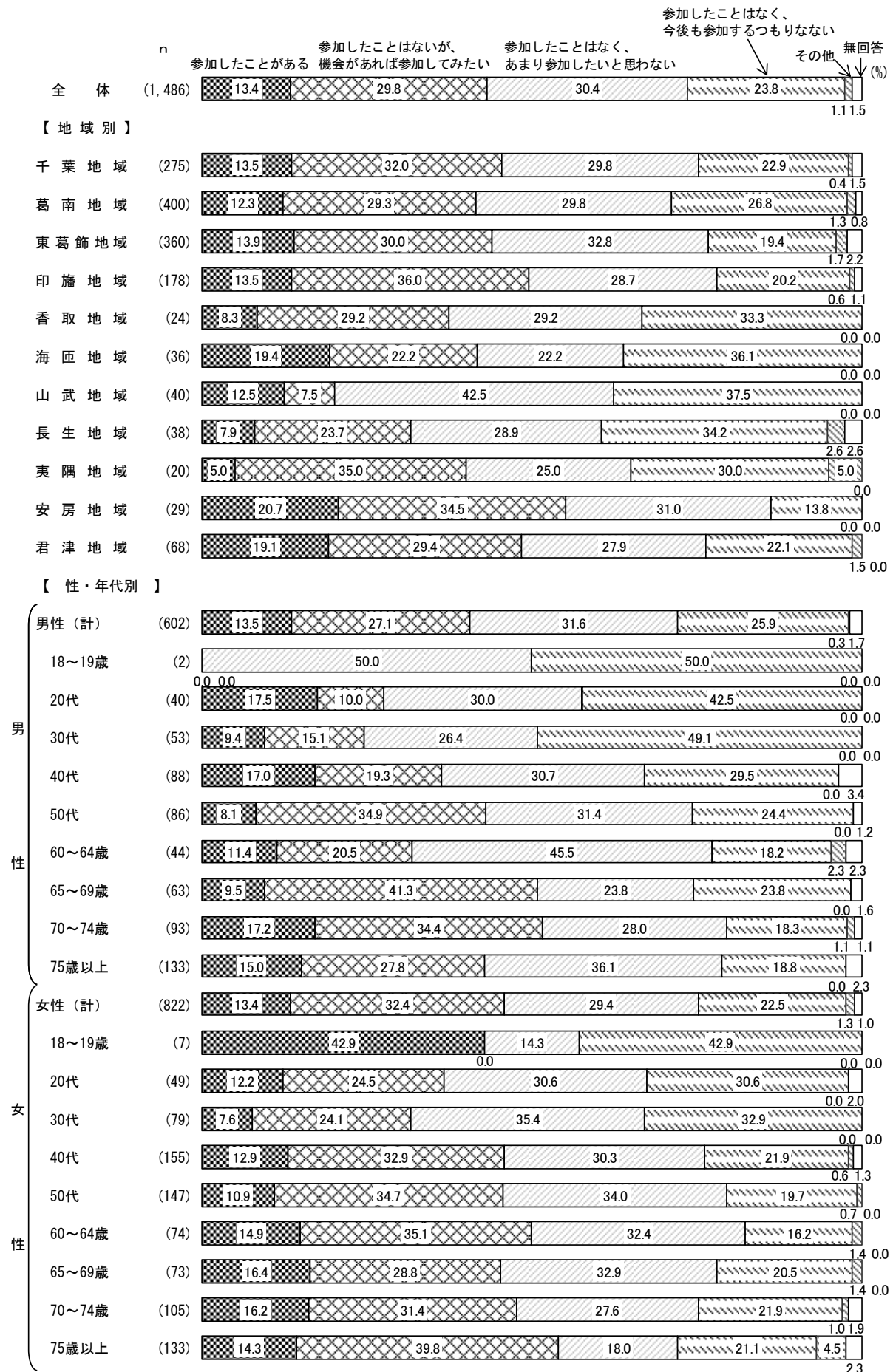
（図表 1－34）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『参加意向あり（計）』は女性の75歳以上（54.1%）が5割台半ばで高くなっている。一方、『参加意向なし（計）』は男性の30代（75.5%）が7割台半ば、男性の20代（72.5%）が7割を超え、女性の30代（68.4%）が約7割で高くなっている。（図表 1－34）

＜図表 1－34＞環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況

／地域別、性・年代別

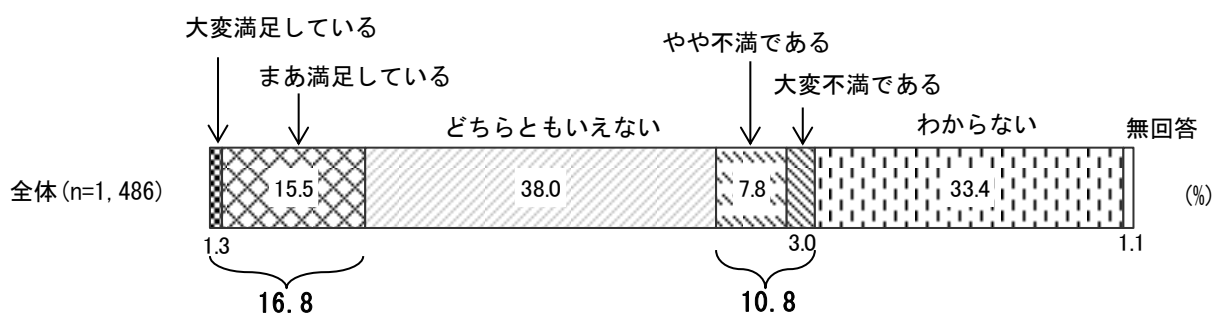


## （15）消費生活全般の満足度

◇『満足している（計）』が1割台半ば

問15 消費生活全般（消費者トラブルの相談体制、消費者教育の機会、悪質商法への対策、生活必需品の安定供給など）について、どうお感じですか。（○は1つ）

＜図表 1－35＞消費生活全般の満足度



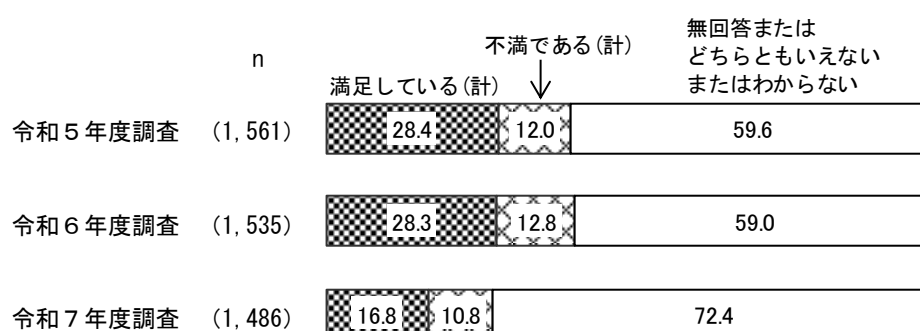
消費生活全般（消費者トラブルの相談体制、消費者教育の機会、悪質商法への対策、生活必需品の安定供給など）について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」（1.3%）と「まあ満足している」（15.5%）を合わせた『満足している（計）』（16.8%）が1割台半ばとなっている。

一方、「やや不満である」（7.8%）と「大変不満である」（3.0%）を合わせた『不満である（計）』（10.8%）が1割となっている。

また、「どちらともいえない」（38.0%）が約4割、「わからない」（33.4%）が3割を超えている。

（図表 1－35）

〔参考〕令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



### 【地域別】

地域別にみると、『不満である（計）』は“千葉地域”（14.2%）が1割台半ばで高くなっている。

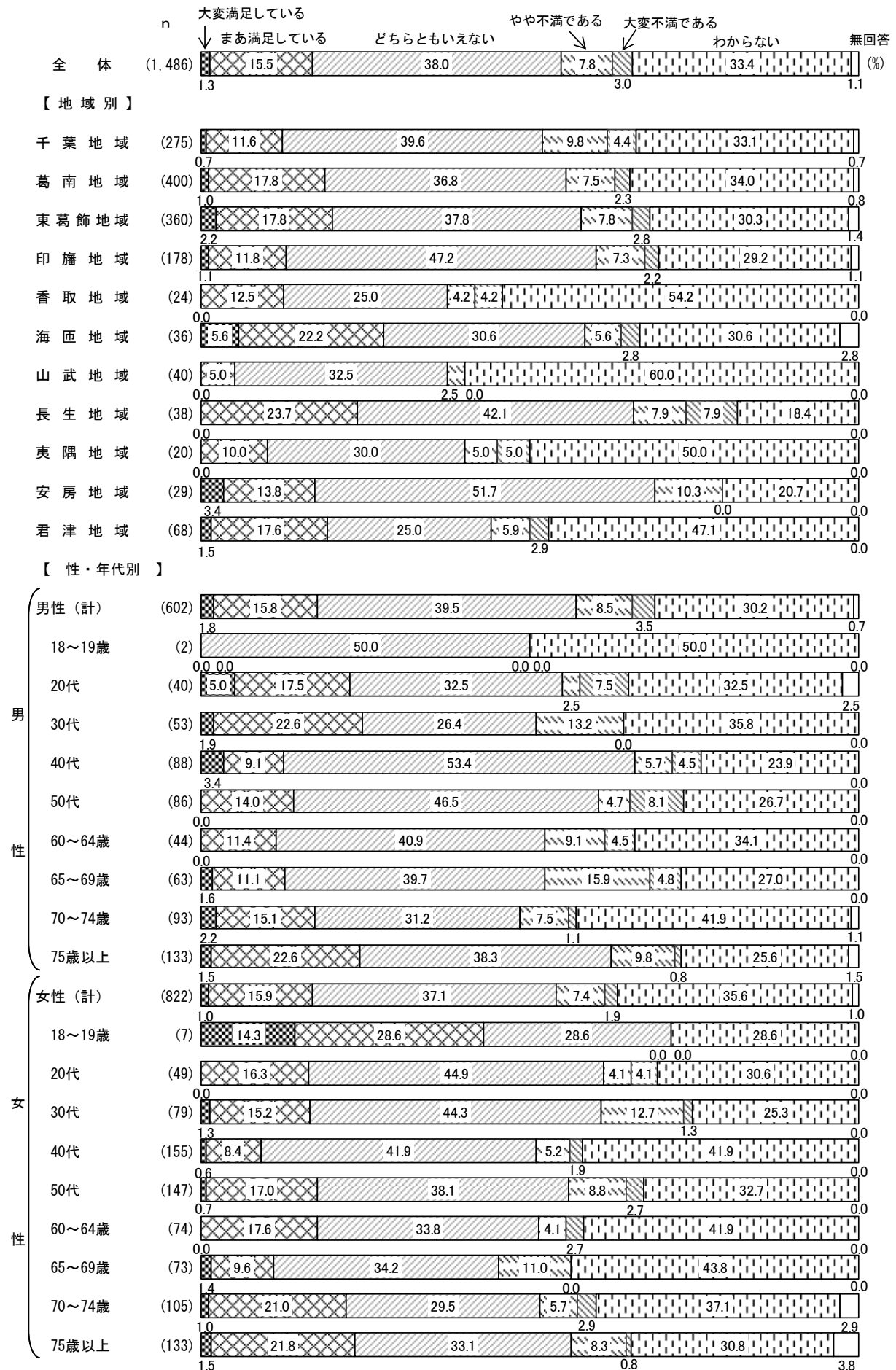
（図表 1－36）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『満足している（計）』は男性の75歳以上（24.1%）が2割台半ば、女性の75歳以上（23.3%）が2割を超えて高くなっている。

一方、『不満である（計）』は男性の65～69歳（20.6%）が2割で高くなっている。（図表 1－36）

＜図表 1－36＞消費生活全般の満足度／地域別、性・年代別

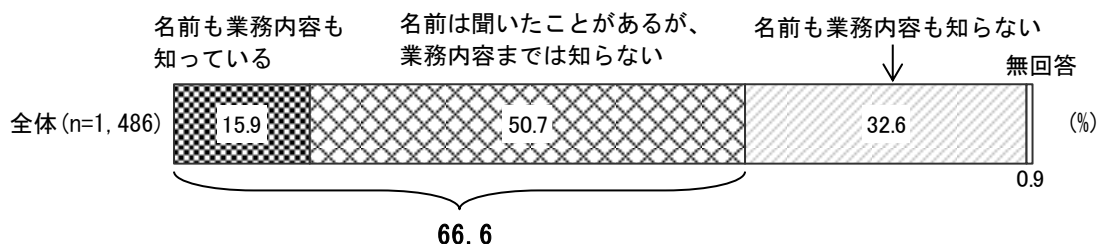


## (16) 「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」の認知度

◇『名前を聞いたことがある（計）』が6割台半ば

問16 あなたは、消費者トラブルなどの相談窓口であり、出前講座等も実施している「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」を知っていますか。（○は1つ）

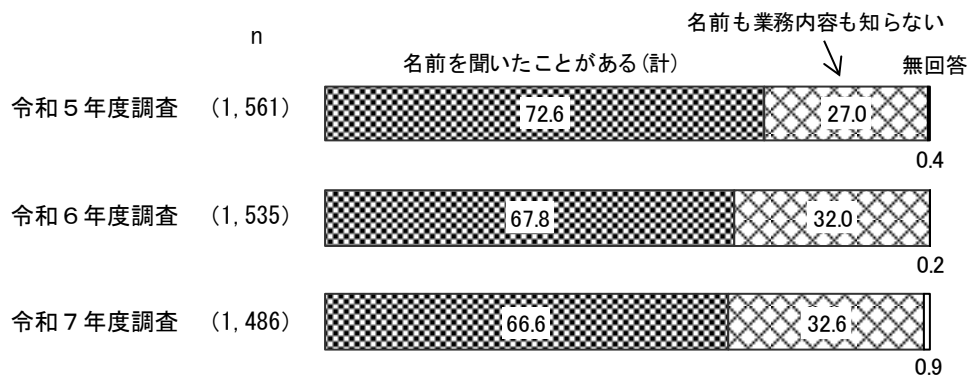
＜図表 1－37＞「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」の認知度



「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」を知っているか聞いたところ、「名前も業務内容も知っている」(15.9%)と「名前を聞いたことがあるが、業務内容までは知らない」(50.7%)を合わせた『名前を聞いたことがある（計）』(66.6%)が6割台半ばとなっている。

一方、「名前も業務内容も知らない」(32.6%)が3割を超えている。(図表 1－37)

〔参考〕令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



### 【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。(図表 1－38)

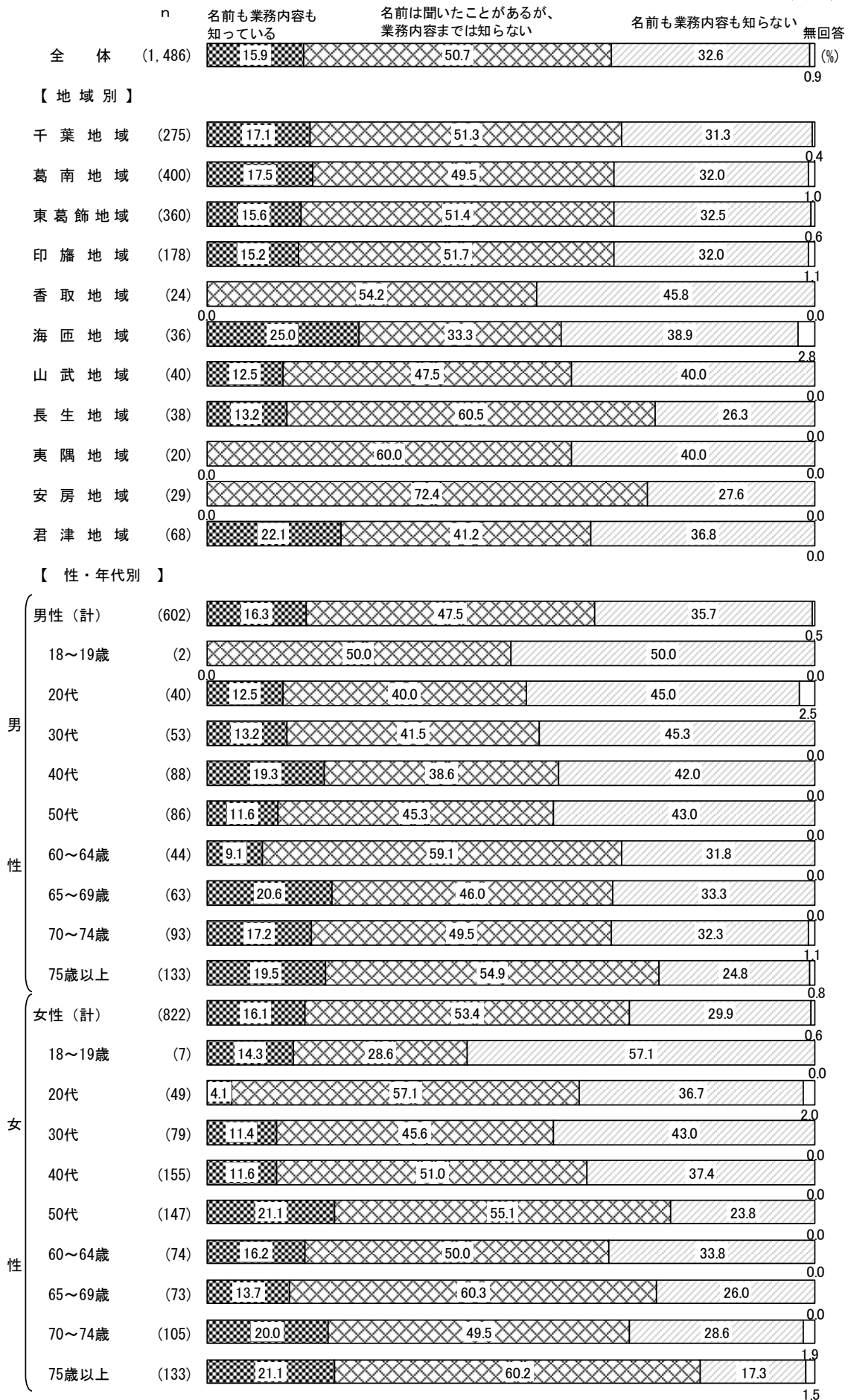
### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『名前を聞いたことがある（計）』は女性の75歳以上(81.2%)が8割を超え、女性の50代(76.2%)と男性の75歳以上(74.4%)が7割台半ばで高くなっている。

一方、「名前も業務内容も知らない」は男性の30代(45.3%)が4割台半ば、男性の50代(43.0%)と女性の30代(43.0%)が4割を超えて高くなっている。(図表 1－38)

&lt;図表 1-38&gt; 「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」の認知度

／地域別、性・年代別



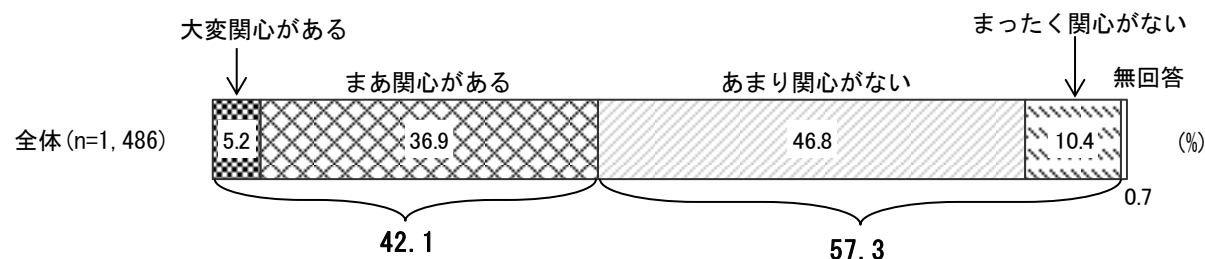
## (17) 市民活動団体やボランティア活動の関心度

◇『関心がある（計）』が4割を超える

問17 市民活動団体※の活動や、ボランティア活動に関心がありますか。（○は1つ）

※ 「市民活動団体」とは、市民の自発性に基づき、福祉や子育て支援、まちづくり、環境等様々な分野の地域課題の解決のために、自立的・継続的に社会貢献活動を行う営利を目的としない団体（行政が認証したNPO法人やボランティア団体等任意団体）です。

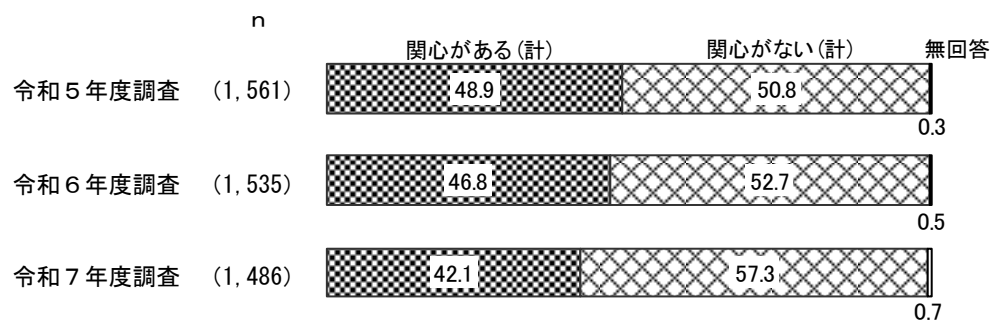
<図表 1－39>市民活動団体やボランティア活動の関心度



市民活動団体の活動や、ボランティア活動への関心度を聞いたところ、「大変関心がある」(5.2%)と「まあ関心がある」(36.9%)を合わせた『関心がある(計)』(42.1%)が4割を超えている。

一方、「あまり関心がない」(46.8%)と「まったく関心がない」(10.4%)を合わせた『関心がない(計)』(57.3%)が約6割となっている。(図表 1－39)

〔参考〕令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



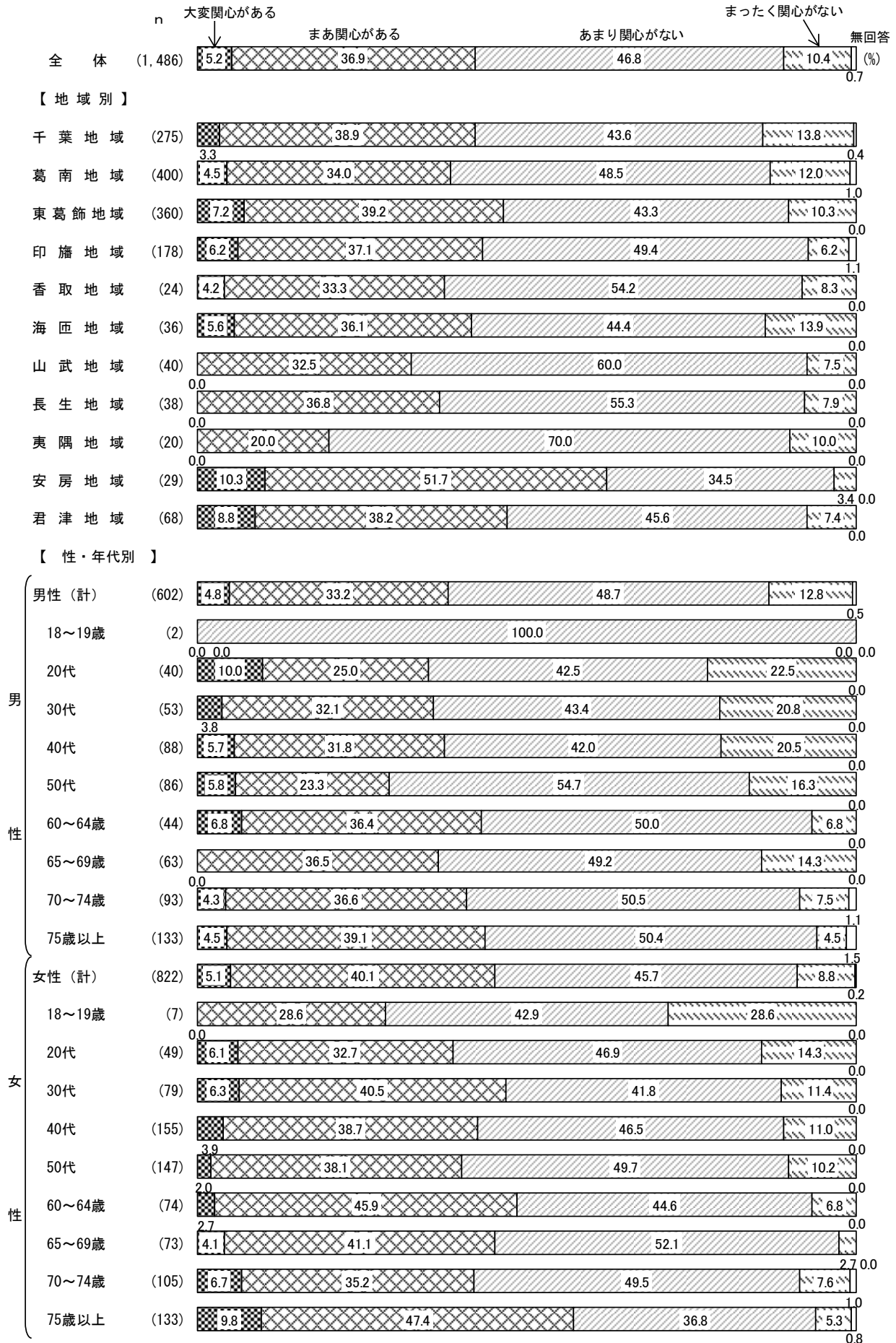
### 【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。(図表 1－40)

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『関心がある(計)』は女性の75歳以上(57.1%)が約6割で高くなっている。一方、『関心がない(計)』は男性の50代(70.9%)が7割で高くなっている。(図表 1－40)

＜図表 1－40＞市民活動団体やボランティア活動の関心度／地域別、性・年代別



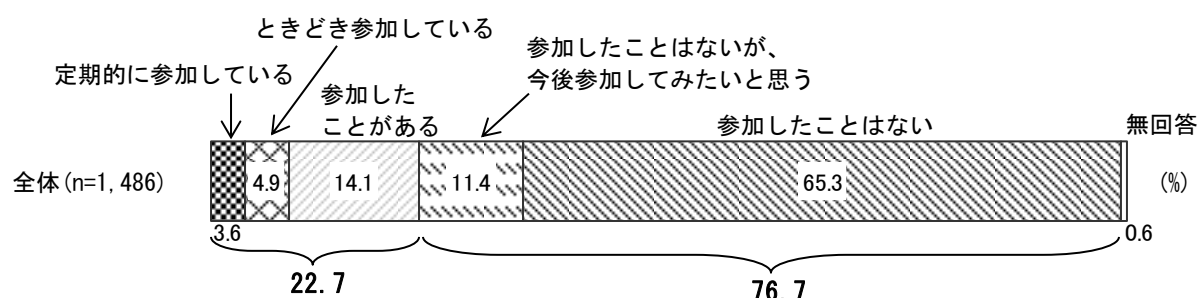
## （18）市民活動団体の活動への参加経験

◇『参加したことがある（計）』が2割を超える

問18 市民活動団体の活動に参加※したことがありますか。（○は1つ）

※ ここでいう「参加」とは、団体の会員やボランティアとしての参加のみならず、団体への資金・物品・技術・場所等の提供・寄付などの支援を通しての参加や、団体が提供するサービスの利用・イベントへの参加などを指します。

＜図表 1－41＞市民活動団体の活動への参加経験

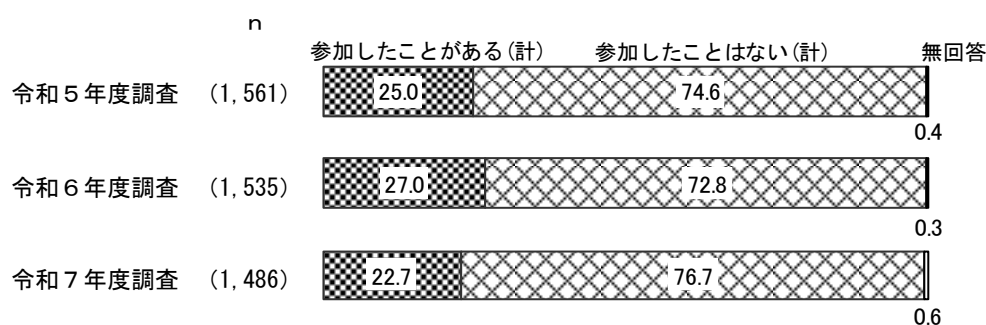


市民活動団体の活動への参加経験を聞いたところ、「定期的に参加している」（3.6%）、「ときどき参加している」（4.9%）、「参加したことがある」（14.1%）の3つを合わせた『参加したことがある（計）』（22.7%）が2割を超えている。

一方、「参加したことはないが、今後参加してみたいと思う」（11.4%）と「参加したことはない」（65.3%）を合わせた『参加したことはない（計）』（76.7%）が7割台半ばとなっている。

（図表 1－41）

〔参考〕令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



### 【地域別】

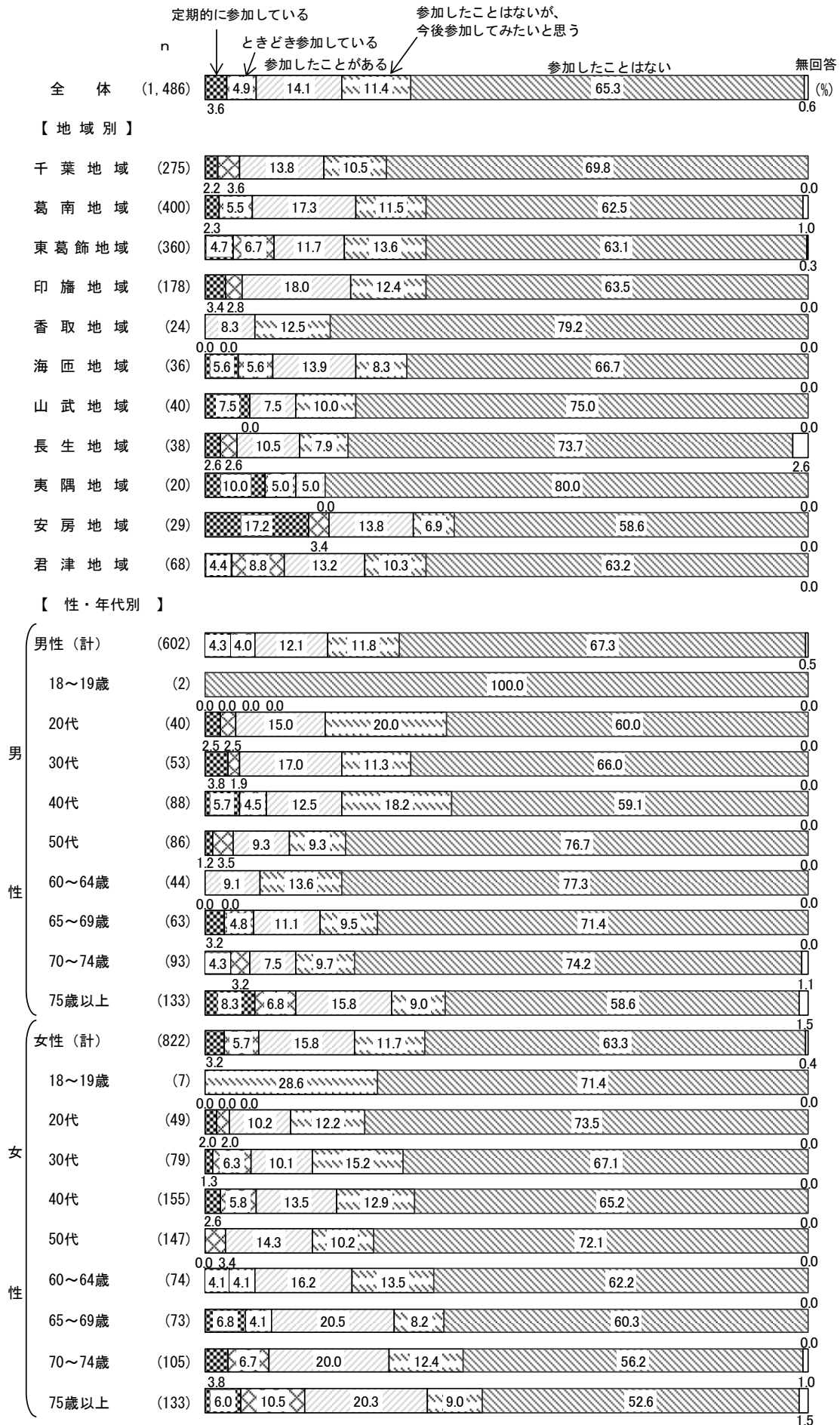
地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表 1－42）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『参加したことがある（計）』は女性の75歳以上（36.8%）が3割台半ば、男性の75歳以上（30.8%）と女性の70～74歳（30.5%）が3割で高くなっている。

一方、『参加したことはない（計）』は男性の60～64歳（90.9%）が9割、男性の50代（86.0%）が8割台半ばで高くなっている。（図表 1－42）

＜図表 1－42＞市民活動団体の活動への参加経験／地域別、性・年代別



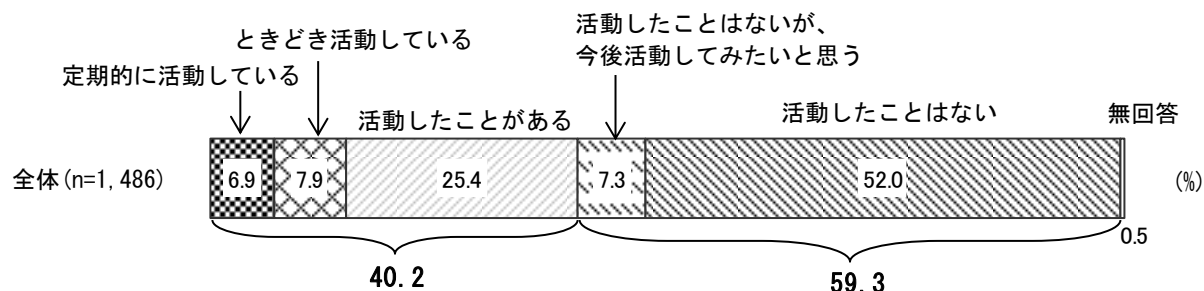
## （19）ボランティア活動経験

◇『活動したことがある（計）』が 4 割

問19 ボランティアとして活動※したことがありますか。（○は 1 つ）

※ ここでいう「ボランティア活動」とは、市民の自発性に基づき地域や社会に貢献する活動（町会・自治会の活動、PTA活動や学校行事の手伝い、子ども会の活動、交通安全運動、道路や公園等の清掃なども含む）のことであり、市民活動団体が行うボランティア活動への参加のみならず、個人として行うものを含むボランティア活動全般を指します。

＜図表 1－43＞ボランティア活動経験

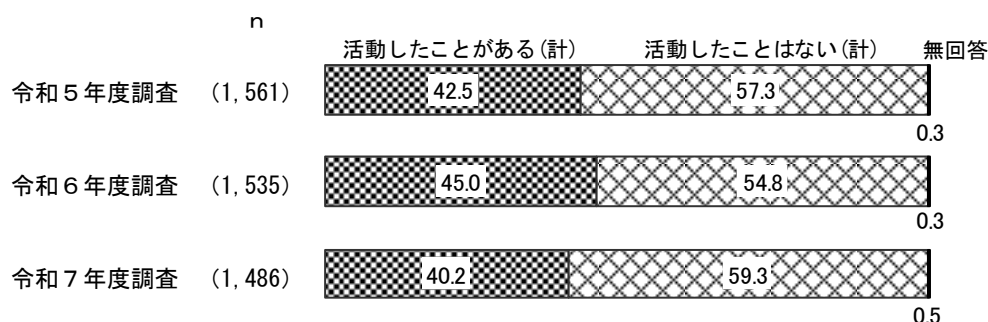


ボランティアとして活動したことがあるか聞いたところ、「定期的に活動している」（6.9%）、「ときどき活動している」（7.9%）、「活動したことがある」（25.4%）の 3 つを合わせた『活動したことがある（計）』（40.2%）が 4 割となっている。

一方、「活動したことはないが、今後活動してみたいと思う」（7.3%）と「活動したことはない」（52.0%）を合わせた『活動したことはない（計）』（59.3%）が約 6 割となっている。

（図表 1－43）

〔参考〕令和 5 年度・6 年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



### 【地域別】

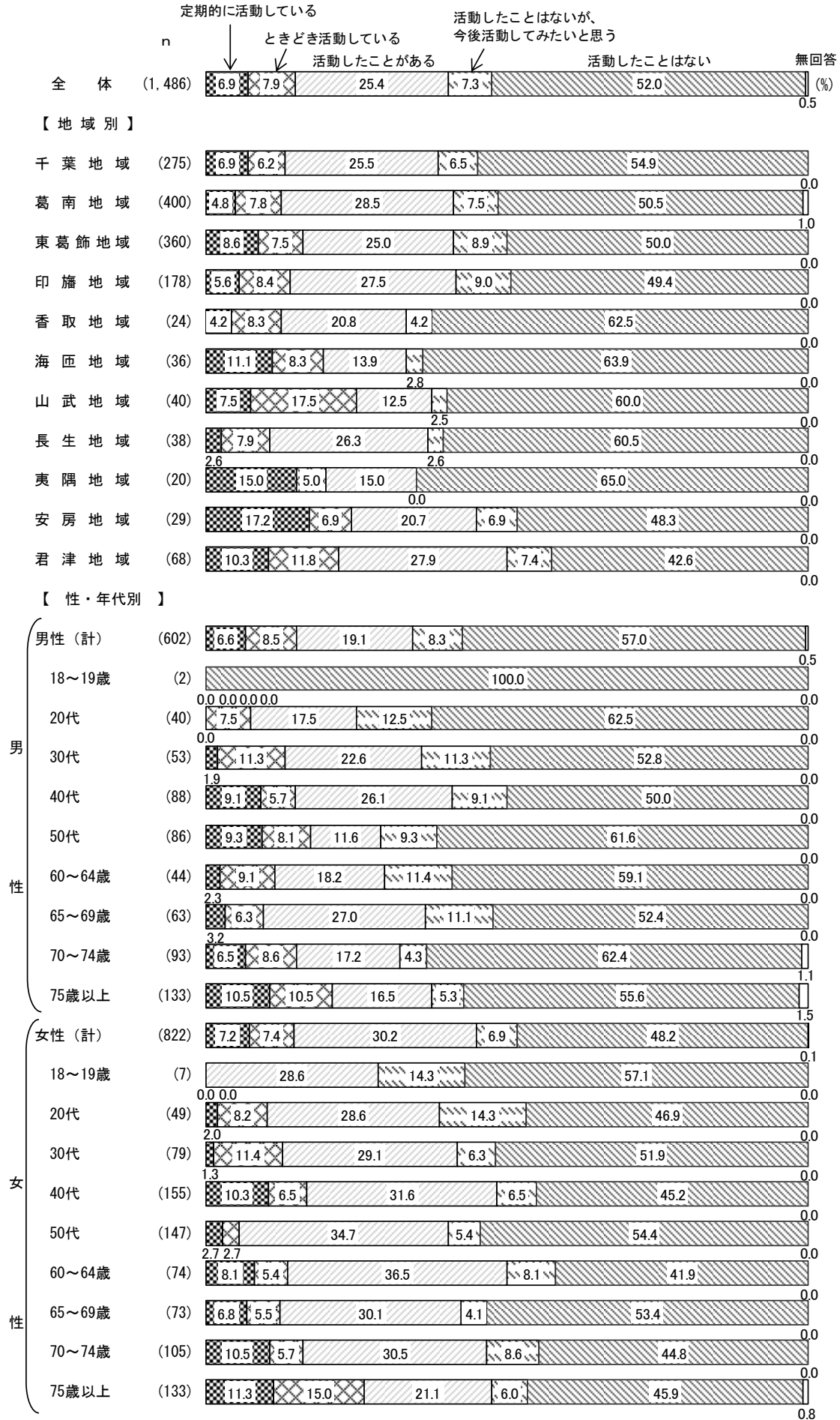
地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表 1－44）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『活動したことがある（計）』は女性の 40 代（48.4%）が約 5 割で高くなっている。

一方、『活動したことはない（計）』は男性の 20 代（75.0%）が 7 割台半ば、男性の 50 代（70.9%）が 7 割で高くなっている。（図表 1－44）

&lt;図表 1-44&gt; ボランティア活動経験／地域別、性・年代別



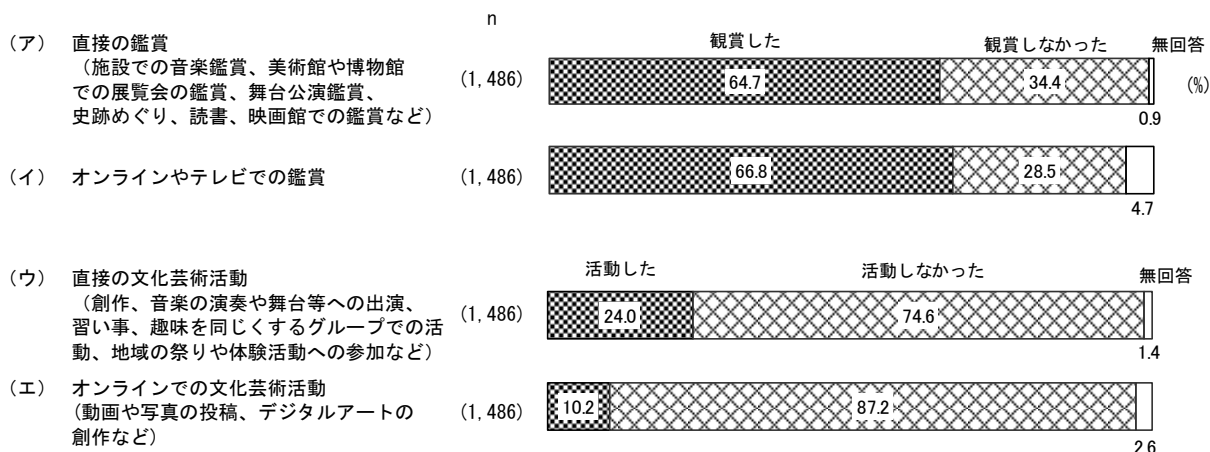
## (20) この 1 年間の文化芸術の鑑賞及び活動の経験

◇鑑賞は〈オンラインやテレビ〉〈直接〉がともに 6 割台半ば、活動は〈直接〉が 2 割台半ば

問20 あなたは、この 1 年間に、文化芸術※を鑑賞しましたか。また、鑑賞ではなく、自分で文化芸術活動をしましたか。（○はそれぞれ 1 つずつ）

※ 「文化芸術」とは、映画（アニメ含む）、音楽（全てのジャンル）、美術（写真・デジタルアート含む）、文芸（マンガ含む）、ダンス、茶道・華道・書道、歌舞伎、地域に伝わる祭り、文化財などを指します。

＜図表 1－45＞この 1 年間の文化芸術の鑑賞及び活動の経験

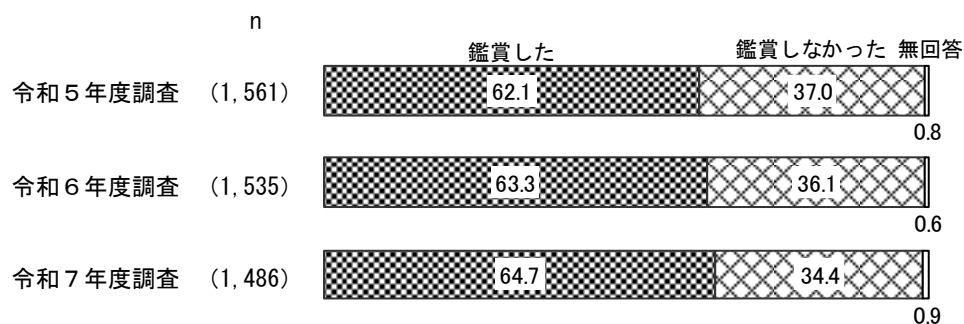


この 1 年間の文化芸術の鑑賞及び活動の経験を聞いたところ、鑑賞については「(イ) オンラインやテレビでの鑑賞」(66.8%)、「(ア) 直接の鑑賞」(64.7%) がともに 6 割台半ばとなっており、(ア) か (イ) いずれか、又はその両方を通じて鑑賞した県民の割合は 78.5% となった。

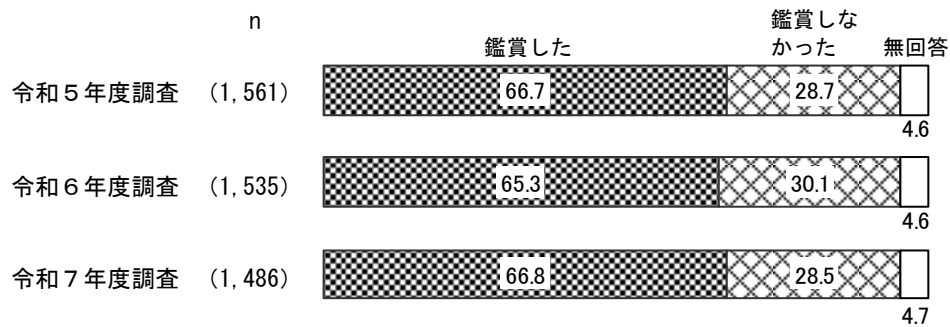
活動については「(ウ) 直接の文化芸術活動」(24.0%) が 2 割台半ば、「(エ) オンラインでの文化芸術活動」(10.2%) が 1 割となっており、(ウ) か (エ) いずれか、又はその両方を通じて活動した県民の割合は 26.9% となった。(図表 1－45)

[参考] 令和 5 年度・6 年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

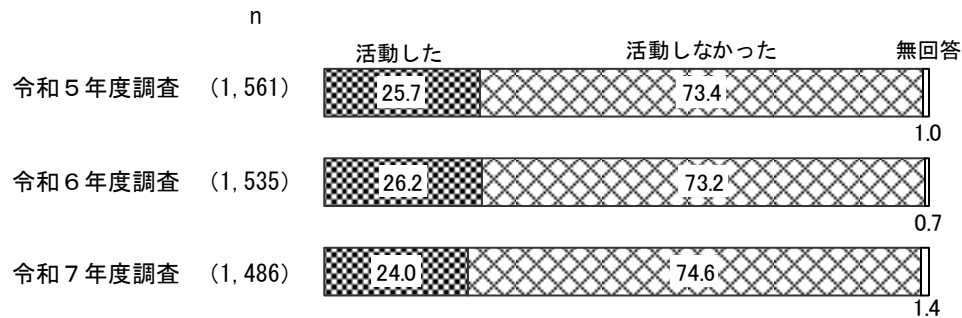
(ア) 直接の鑑賞（施設での音楽鑑賞、美術館や博物館での展覧会の鑑賞、舞台公演鑑賞、史跡めぐり、読書、映画館での鑑賞など）



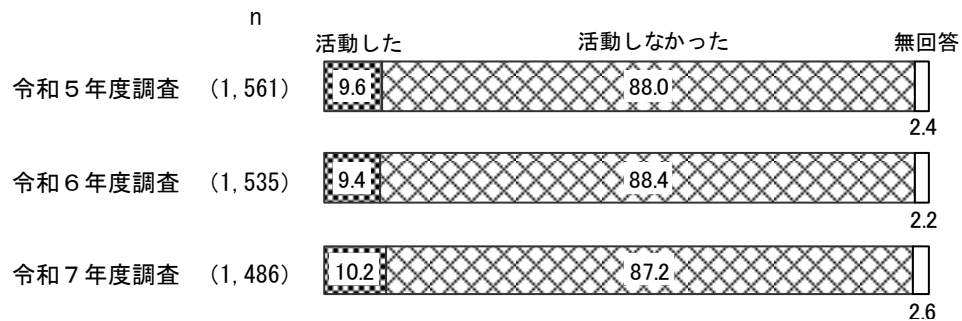
## (イ) オンラインやテレビでの鑑賞



## (ウ) 直接の文化芸術活動（創作、音楽の演奏や舞台等への出演、習い事、趣味を同じくするグループでの活動、地域の祭りや体験活動への参加など）



## (エ) オンラインでの文化芸術活動（動画や写真の投稿、デジタルアートの創作など）



## 【地域別】

地域別にみると、鑑賞について「(ア) 直接の鑑賞」で「鑑賞した」は“東葛飾地域” (69.4%) と“葛南地域” (69.3%) が約7割で高くなっている。一方、「鑑賞しなかった」は“海匝地域” (52.8%) が5割を超えて高くなっている。

「(イ) オンラインやテレビでの鑑賞」は大きな傾向の違いはみられない。

活動については、「(ウ) 直接の文化芸術活動」で「活動しなかった」は“山武地域” (92.5%) が9割を超えて高くなっている。

「(エ) オンラインでの文化芸術活動」は大きな傾向の違いはみられない。(図表1-46)

【性・年代別】

性・年代別にみると、鑑賞について「(ア) 直接の鑑賞」で「鑑賞した」は男性の20代（82.5%）が8割を超え、女性の30代（78.5%）と女性の40代（77.4%）が約8割、女性の50代（76.9%）が7割台半ばで高くなっている。

一方、「鑑賞しなかった」は男性の70～74歳（51.6%）が5割を超え、男性の75歳以上（46.6%）が4割台半ば、女性の75歳以上（42.9%）が4割を超えて高くなっている。

「(イ) オンラインやテレビでの鑑賞」で「鑑賞した」は女性の30代（84.8%）が8割台半ば、男性の20代（82.5%）が8割を超え、女性の50代（74.1%）は7割台半ばで高くなっている。

一方、「鑑賞しなかった」は男性の70～74歳（40.9%）が4割、男性の75歳以上（37.6%）が約4割で高くなっている。

活動について「(ウ) 直接の文化芸術活動」で「活動した」は女性の75歳以上（32.3%）が3割を超えて高くなっている。

一方、「活動しなかった」は男性の50代（86.0%）と男性の70～74歳（84.9%）が8割台半ばで高くなっている。

「(エ) オンラインでの文化芸術活動」で「活動した」は女性の20代（30.6%）が3割、女性の30代（25.3%）が2割台半ば、男性の20代（22.5%）が2割を超え、女性の40代（17.4%）が約2割で高くなっている。

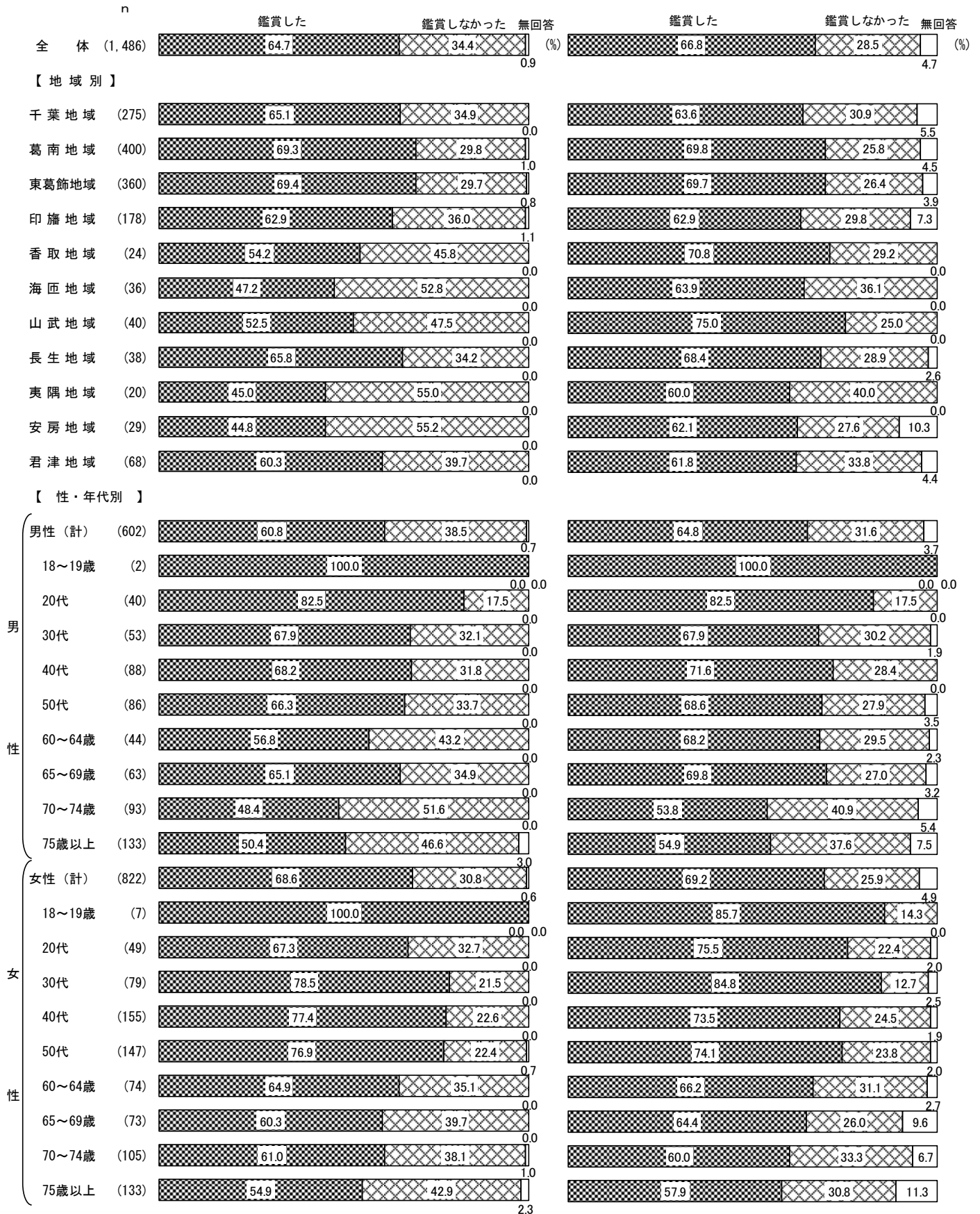
一方、「活動しなかった」は女性の50代（92.5%）が9割を超えて高くなっている。

（図表 1－46）

&lt;図表 1-46&gt;この1年間の文化芸術の鑑賞及び活動の経験／地域別、性・年代別

(ア) 直接の鑑賞

(イ) オンラインやテレビでの鑑賞

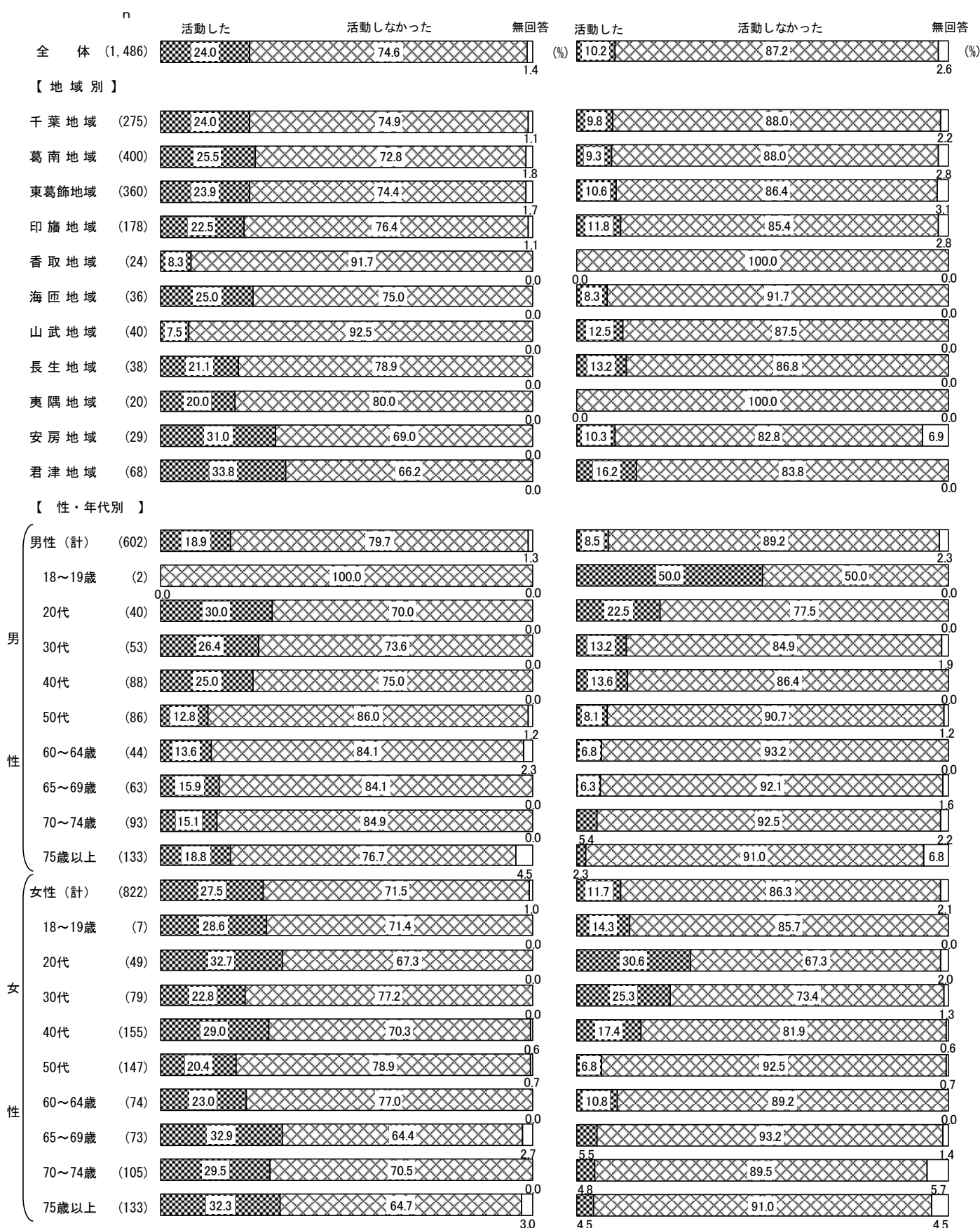
(施設での音楽鑑賞、美術館や博物館での  
展覧会の鑑賞、舞台公演鑑賞、史跡めぐり、  
読書、映画館での鑑賞など)

（ウ）直接の文化芸術活動

（創作、音楽の演奏や舞台等への出演、習い事、趣味を同じくするグループでの活動、地域の祭りや体験活動への参加など）

（エ）オンラインでの文化芸術活動

（動画や写真の投稿、デジタルアートの創作など）



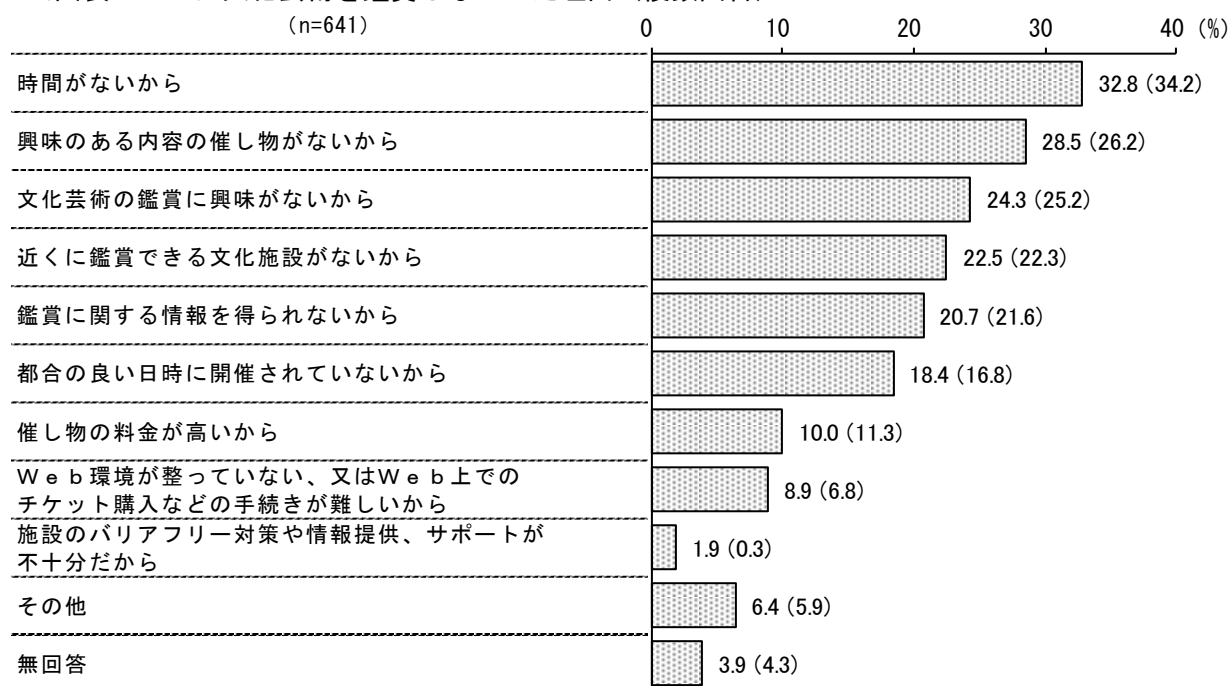
## (20－1) 文化芸術を鑑賞しなかった理由

◇「時間がないから」が3割を超える

(問20 (ア) (イ) のいずれかで「鑑賞しなかった」をお答えの方に)

問20－1 「鑑賞しなかった」とお答えの主な理由は何ですか。(○はいくつでも)

&lt;図表 1－47&gt;文化芸術を鑑賞しなかった理由（複数回答）



注) ( ) の数字は令和6年度の同様の項目による調査結果 n=690

この1年間の文化芸術の鑑賞について、直接またはオンラインやテレビで鑑賞しなかったと回答した641人を対象に、鑑賞しなかった理由を聞いたところ、「時間がないから」(32.8%)が3割を超えて最も高く、以下、「興味のある内容の催し物がないから」(28.5%)、「文化芸術の鑑賞に興味がないから」(24.3%)、「近くに鑑賞できる文化施設がないから」(22.5%)が続く。(図表1－47)

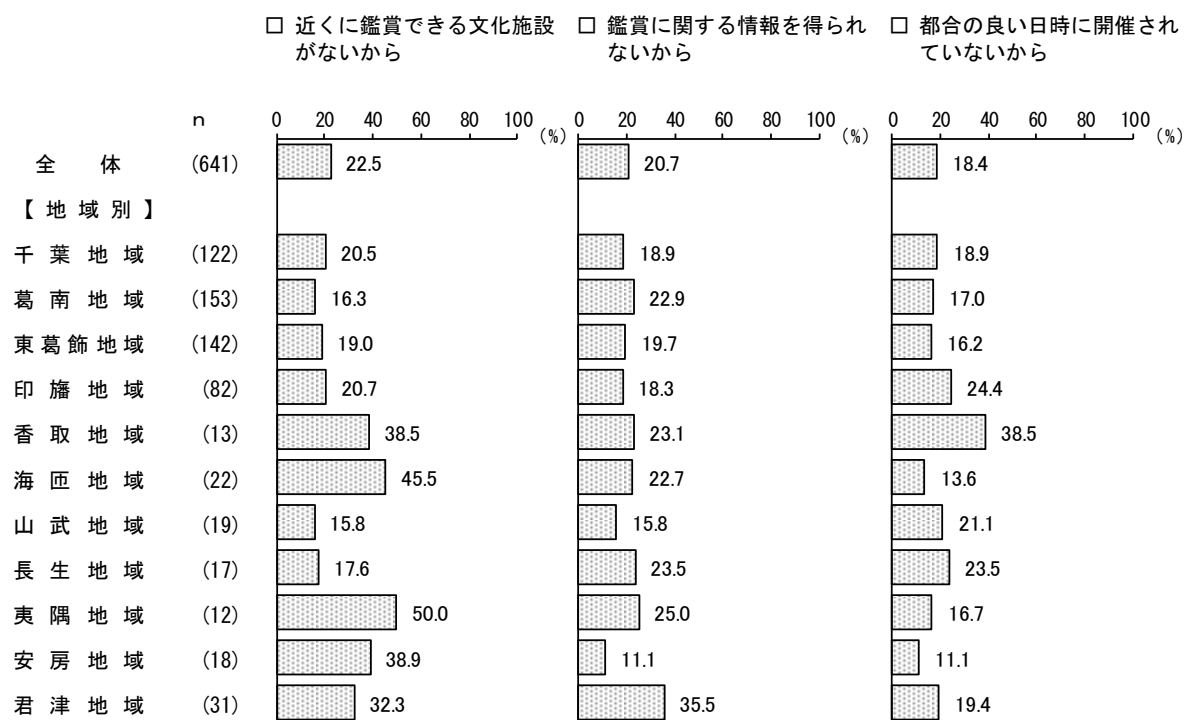
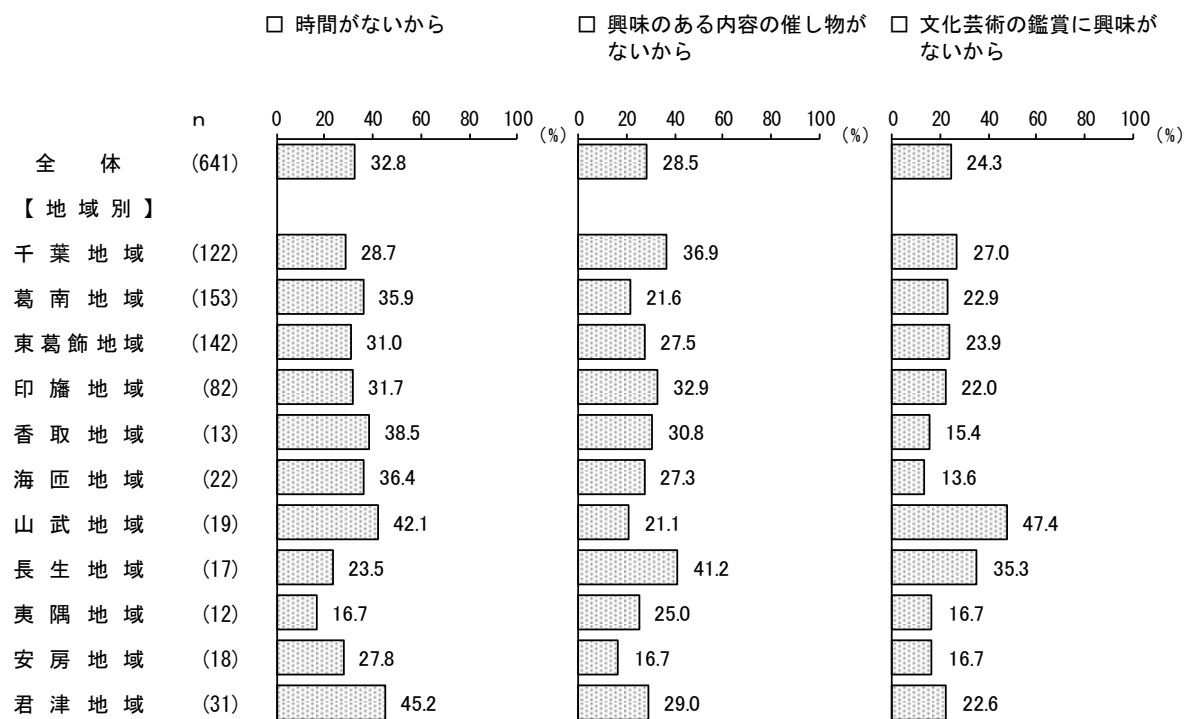
## 【地域別】

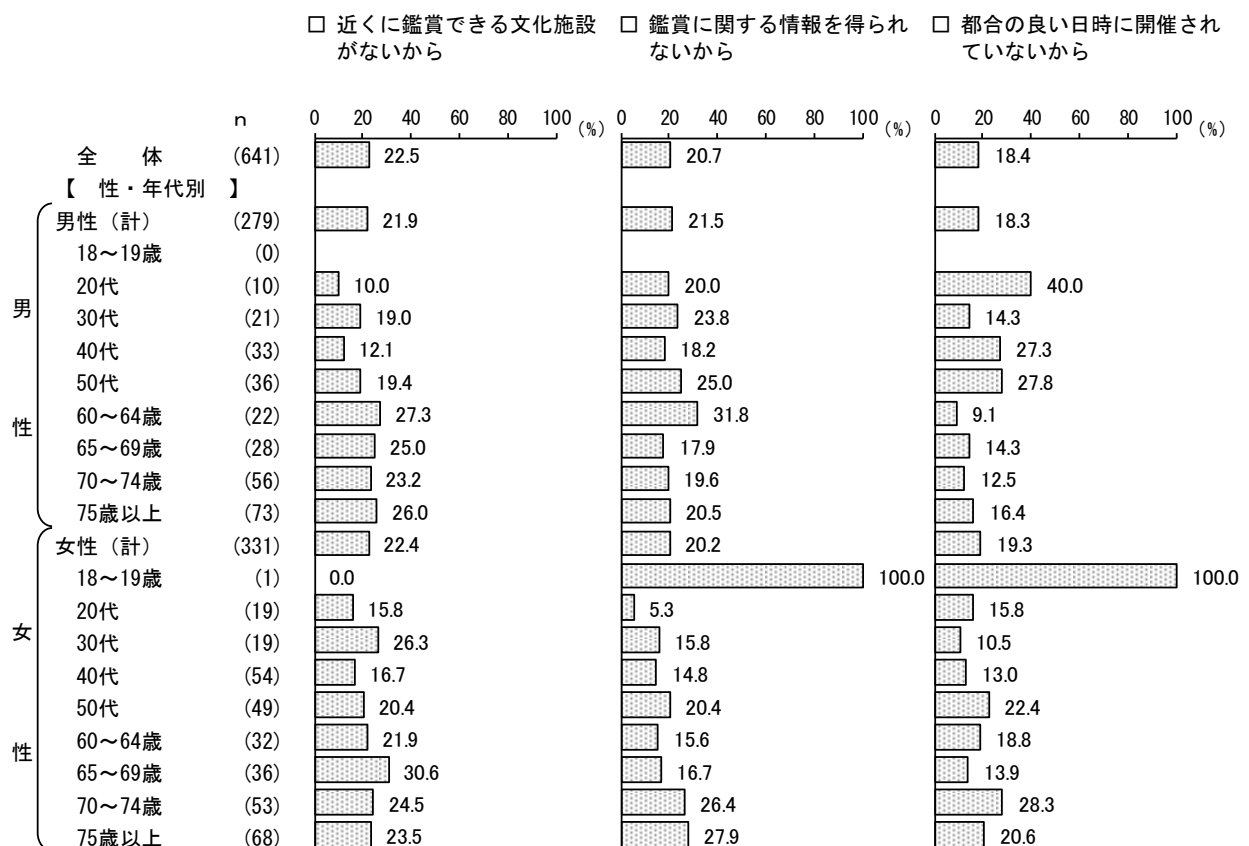
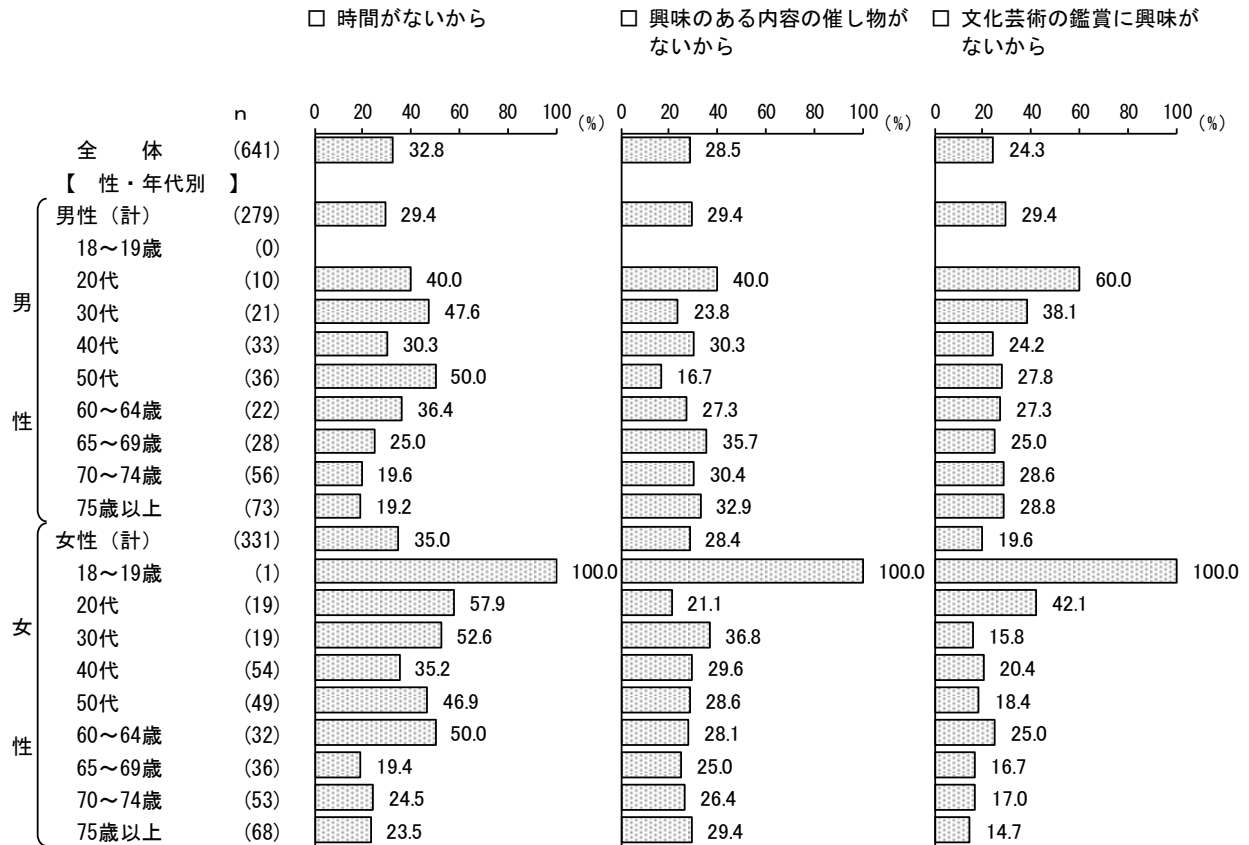
地域別にみると、「興味のある内容の催し物がないから」は“千葉地域”(36.9%)が3割台半ばで高くなっている。(図表1－48)

## 【性・年代別】

性・年代別にみると「時間がないから」は男性の50代(50.0%)と女性の60～64歳(50.0%)が5割、女性の50代(46.9%)が4割台半ばで高くなっている。(図表1－48)

<図表 1-48>文化芸術を鑑賞しなかった理由（複数回答）／地域別、性・年代別（上位 6 項目）





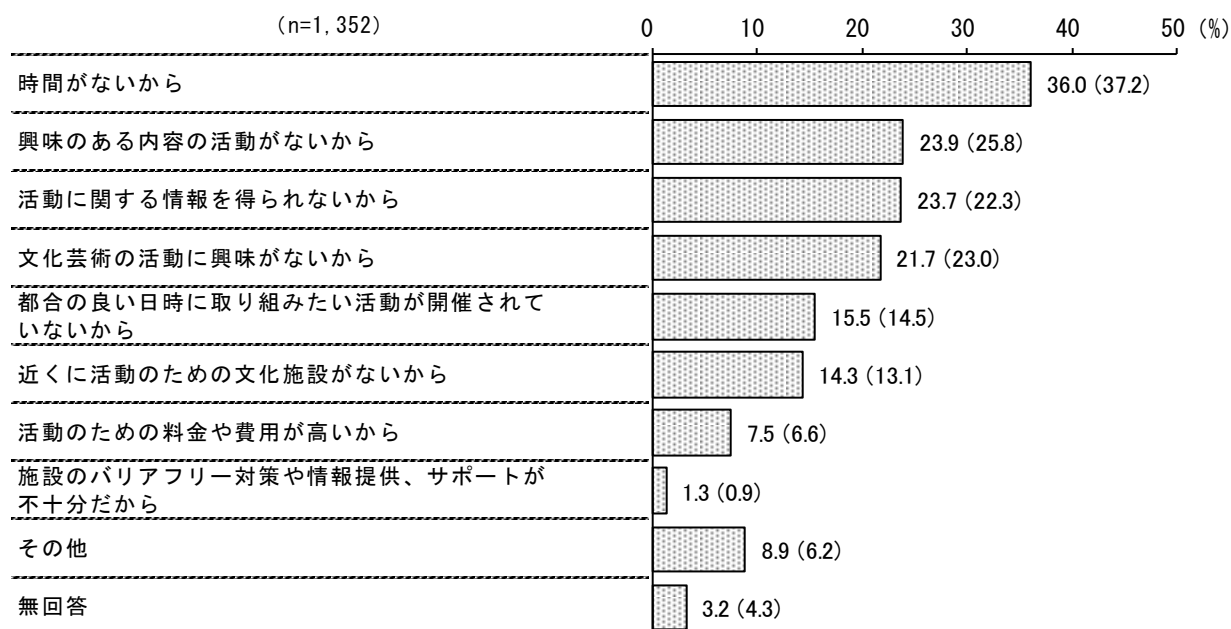
## （20－2）文化芸術活動をしなかった理由

◇「時間がないから」が3割台半ば

（問20（ウ）（エ）のいずれかで「活動しなかった」をお答えの方に）

問20－2 「活動しなかった」とお答えの主な理由は何ですか。（○はいくつでも）

＜図表 1－49＞文化芸術活動をしなかった理由（複数回答）



注）（ ）の数字は令和 6 年度の同様の項目による調査結果 n=1,409

この 1 年間の文化芸術活動について、直接またはオンラインで活動しなかったと回答した 1,352 人を対象に、活動しなかった理由を聞いたところ、「時間がないから」（36.0%）が 3 割台半ばで最も高く、以下、「興味のある内容の活動がないから」（23.9%）、「活動に関する情報を得られないから」（23.7%）、「文化芸術の活動に興味がないから」（21.7%）が続く。（図表 1－49）

### 【地域別】

地域別にみると、「活動に関する情報を得られないから」は“君津地域”（36.7%）が 3 割台半ばで高くなっている。（図表 1－50）

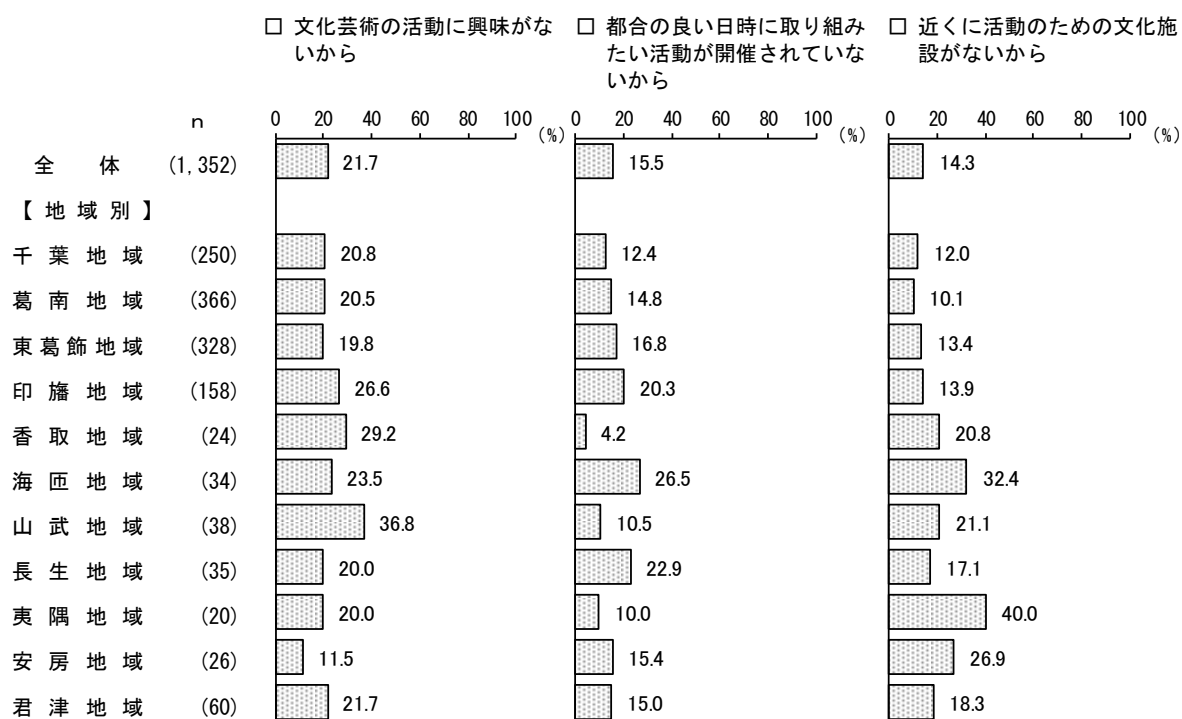
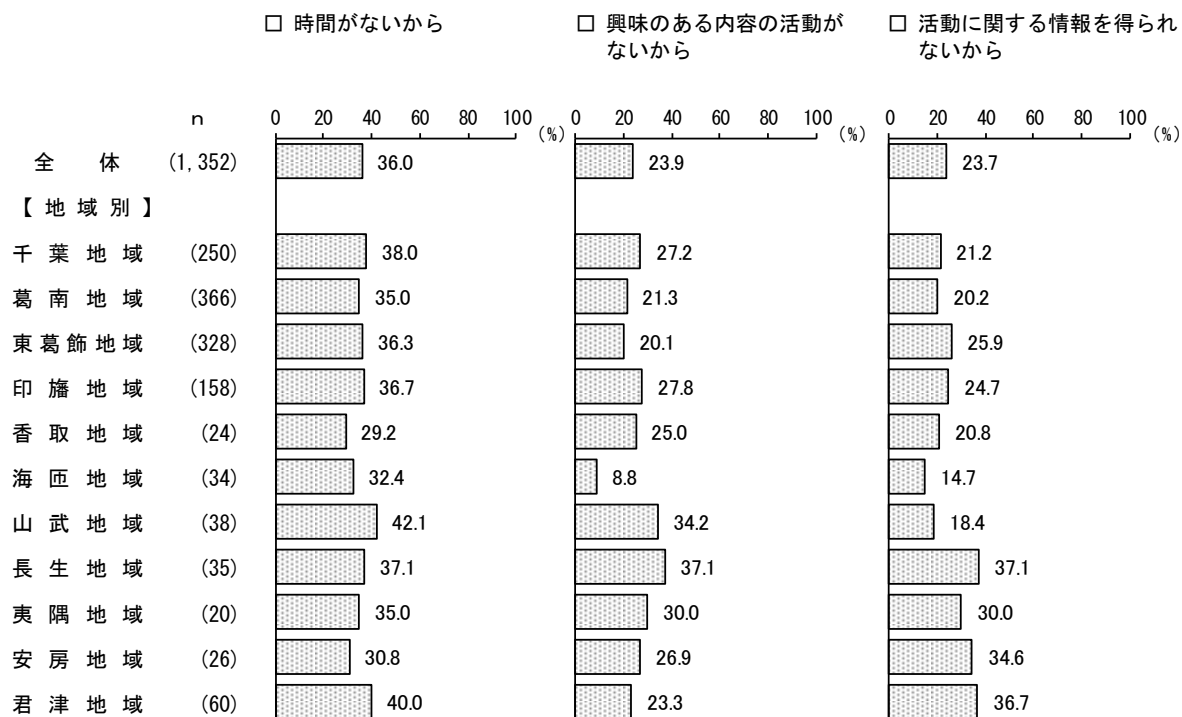
### 【性・年代別】

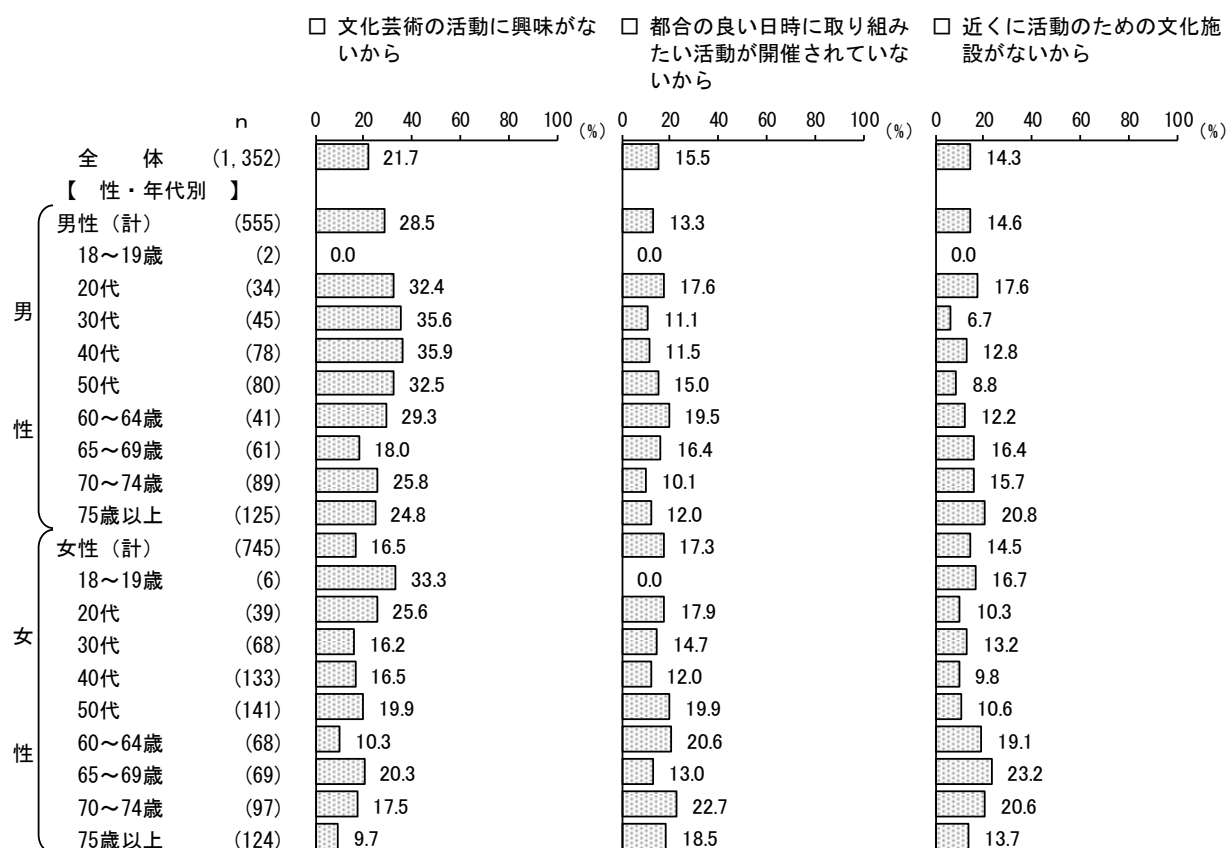
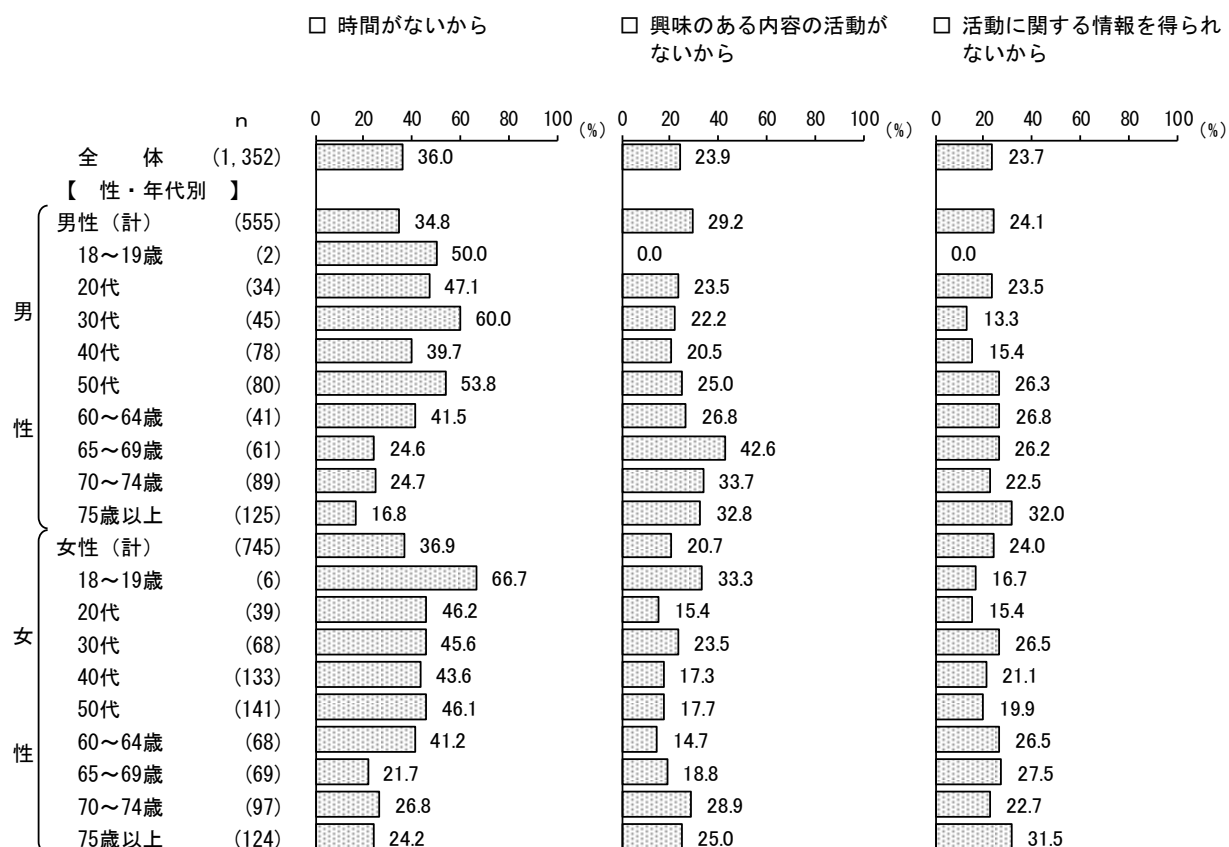
性・年代別にみると、「時間がないから」は男性の 30 代（60.0%）が 6 割、男性の 50 代（53.8%）が 5 割台半ば、女性の 50 代（46.1%）が 4 割台半ばで高くなっている。

「興味のある内容の活動がないから」は男性の 65～69 歳（42.6%）が 4 割を超え、男性の 70～74 歳（33.7%）が 3 割台半ば、男性の 75 歳以上（32.8%）が 3 割を超えて高くなっている。

「活動に関する情報を得られないから」は男性の 75 歳以上（32.0%）と女性の 75 歳以上（31.5%）が 3 割を超えて高くなっている。（図表 1－50）

＜図表 1-50＞文化芸術活動をしなかった理由（複数回答）／地域別、性・年代別（上位 6 項目）



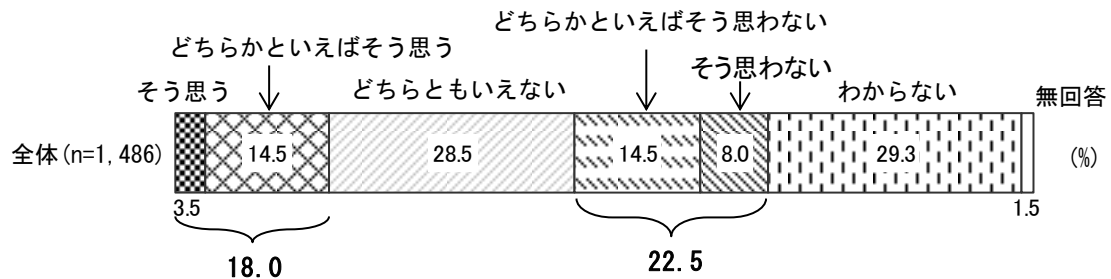


## (21) 文化芸術に触れ、自ら取り組むための環境の整備状況

◇『そう思う（計）』が約2割

問21 あなたは、千葉県において、文化芸術に触れ、自ら取り組むための環境が整っていると思いますか。（○は1つ）

＜図表 1－51＞文化芸術に触れ、自ら取り組むための環境の整備状況



千葉県において、文化芸術に触れ、自ら取り組むための環境が整っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(3.5%)と「どちらかといえばそう思う」(14.5%)を合わせた『そう思う(計)』(18.0%)が約2割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(14.5%)と「そう思わない」(8.0%)を合わせた『そう思わない(計)』(22.5%)が2割を超えている。

また、「どちらともいえない」(28.5%)が約3割、「わからない」(29.3%)が約3割となっている。(図表 1－51)

〔参考〕令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

	n	そう思う (計)	そう思わない (計)	無回答 またはどちらともいえない またはわからない
令和5年度調査	(1,561)	22.1	24.1	53.8
令和6年度調査	(1,535)	21.2	23.3	55.5
令和7年度調査	(1,486)	18.0	22.5	59.4

## 【地域別】

地域別にみると、『そう思わない(計)』は“君津地域”(33.8%)が3割台半ばで高くなっている。

(図表 1－52)

## 【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う(計)』は女性の30代(29.1%)が約3割で高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は男性の65～69歳(34.9%)と女性の20代(34.7%)が3割台半ばで高くなっている。(図表 1－52)

&lt;図表 1-52&gt;文化芸術に触れ、自ら取り組むための環境の整備状況／地域別、性・年代別

